

「令和5年度庄内町障がい者計画及び  
障がい者（児）福祉計画」策定のための  
アンケート調査

調査結果報告書

令和5年11月  
庄内町



# 目 次

## I. 調査の概要

1. 調査の目的	1
2. 調査の種類	1
1) 障がい者実態・意向調査	1
2) 障がい児（保護者）実態・意向調査	1
3) 障がい者（児）以外の町民意識調査	1
3. 調査の設計	1
1) 障がい者実態・意向調査	1
2) 障がい児（保護者）実態・意向調査	1
3) 障がい者（児）以外の町民意識調査	2
4. 報告書の見方	2

## II. 調査結果

1. 障がい者実態・意向調査	3
(1) はじめに	3
1) 回答者	3
(2) あなたについて	3
1) 性別と年齢	3
2) 持っている障がい者手帳及び障がいの程度	4
①主な障がいの部位	5
3) 障害者手帳交付時期	5
4) 要支援・要介護認定	6
①利用している介護保険サービス	6
②介護保険サービスを利用していない理由	7
(3) あなたの生活や家族のことについて	7
1) 生活の場所	7
2) 一緒に暮らしている人	8
3) 介護や支援をしている人	9
4) 主に介護や支援をしている人	10
5) 平日の日中の過ごし方	10
6) 平日の夕方、夜、休日の過ごし方	11
7) 平日の夕方、夜、休日の望む過ごし方	12
(4) 相談・情報入手について	13
1) 生活の中での悩みごとや困りごと	13

2) 悩みごとや困りごとを相談する相手	15
3) 悩みごとや困りごとの解決状況	17
4) 相談支援体制について感じていること	17
5) 情報の入手方法	18
(5) 保健・医療サービスについて	19
1) 現在の通院状況（リハビリ含む）	19
2) 医療に関する困りごと	20
(6) 障がい福祉サービスについて	21
1) 最近1年の間に利用した福祉サービス	21
①福祉サービスを利用していない理由	22
2) 福祉サービスを利用するときの困りごと	22
3) 町で生活する上での各種サービスの過不足	23
①サービスが足りないと感じる理由	23
4) 今後利用したい福祉サービス	24
(7) 就労について	25
1) 現在の就労状況	25
①就労場所	25
②月収	26
③働いていない理由	26
④働きたいが働けない理由	27
2) 企業等で働くために重要なこと	28
3) 希望する就労形態	29
(8) 権利擁護について	29
1) 「成年後見制度」の周知	29
2) 「成年後見制度」の活用の有無	30
3) 虐待を受けたと感じたことがあるか	31
①虐待を受けた時に相談した人または場所	32
4) 周囲からの理解や配慮	33
①理解や配慮が感じられなかった場所	34
②理解や配慮が感じられなかった人	35
③理解や配慮が感じられなかったこと	35
④相談した人または場所	36
(9) 災害時のことについて	37
1) 災害に備えて準備しているもの	37
2) 1人で避難所に避難できるか	38
3) 近所に支援してくれる人がいるか	38
4) 避難所での生活に感じる不安	39
(10) 障がい者のための取り組みについて	39

1) 「障害者差別解消法」の周知	39
2) 「庄内町障がいのある人もない人も共に生きるまちづくり条例」の周知	40
3) 共生社会をめざすために町が力を入れるべきこと	40
4) 障がい者が地域で自立して生活を送るために重要な取り組み	41
(11) 意見・要望について	43
2. 障がい児（保護者）実態・意向調査	47
(1) 保護者の方について	47
1) 回答者	47
2) 保護者の就労状況	47
(2) 子どものことについて	48
1) 持っている障害者手帳及び障がいの程度	48
①主な障がいの部位	49
2) 障害者手帳交付時期	49
3) 一緒に暮らしている人	50
4) 介護や支援をしている人	50
5) 主に介護や支援をしている人	51
6) 平日の日中の過ごし方	51
(3) 発達の不安や障がいに気付いたときについて	52
1) 発達の不安や障がいに気付いたきっかけ	52
2) 発達の不安や障がいに気付いた年齢	52
3) 発達の不安や障がいに気付いた時に相談した人または場所	53
4) 早期に適切な支援を受けるために必要なこと	53
(4) 教育・療育について	54
1) [就学前の子ども] 療育や支援について充実させるべきこと	54
2) [就学中の子ども] 教育や学校生活について充実させるべきこと	54
3) [就学中の子ども] 放課後や長期休暇（夏休み等）の過ごし方	55
4) [就学中の子ども] 放課後や長期休暇（夏休み等）の希望する過ごし方	55
5) [就学中の子ども] 療育や支援について充実させるべきこと	56
(5) 子どもの将来のことについて	57
1) 将来の暮らし方	57
2) 将来仕事に就くために重要なこと	58
(6) サービスについて	59
1) サービスの利用状況	59
①サービスを利用するときに困ったこと	60
2) 利用したいサービス	61
(7) 情報入手について	62
1) 情報の入手方法	62



①改善されていないと感じた場面	81
(3) 福祉に対する関心について	82
1) 障がい者等に関する法制度や活動の周知	82
(4) 障がいのある人とのふれあいについて	86
1) まわりに障がいのある人がいるか	86
2) 地域で行われている交流活動や催し、ボランティア活動への参加の有無	87
3) 今後参加したい交流活動や催し、ボランティア活動	87
4) 障がい者等に対する考え方	88
5) 障がいのある人と一緒に仕事をする事	91
6) 障がいの有無に関わらず、子どもたちが学んだり、 保育を受けることについて	92
(5) 障がいのある人への日常的な支援・手助けについて	92
1) 支援・手助けの有無	92
①支援や手助けしたことがない理由	93
3) 近所に住む障がいのある方への日常的な支援	93
(6) 障がい者施策について	94
1) 障がいのある人の身の回りの支援を担う人	94
2) 「誰もが共に支えあい、自立して自分らしく、安心して暮らせるまちづくり」 の基本理念の浸透の有無	94
3) 共生社会をめざすために町が力を入れるべきこと	95
4) 障がいのある人が地域で自立して生活を送るために重要な取り組み	96
(7) 意見・要望について	98





# I 調査の概要

---



# I 調査の概要

---

## 1. 調査の目的

日常生活や健康状態など障がい者（児）の実態を把握すること、並びに障がい者（児）本人及び家族に対して、制度やサービスの認知度、利用状況及び今後の利用意向を把握することを目的としています。

## 2. 調査の種類

- (1) 障がい者実態・意向調査
- (2) 障がい児（保護者）実態・意向調査
- (3) 障がい者（児）以外の町民意識調査

## 3. 調査の設計

### (1) 障がい者実態・意向調査

- 1) 調査区域 : 庄内町全域
- 2) 調査対象者 : 18歳以上65歳未満のすべての身体障害者手帳所持者、療育手帳所持者、精神障害者手帳所持者
- 3) 調査対象者数 : 500人（無作為抽出）
- 4) 調査方法 : 郵送調査方法（配布・回収）
- 5) 調査期間 : 郵送調査期間 令和5年8月24日～9月15日
- 6) 回収結果 : 回収数 253件（50.6%）

### (2) 障がい児（保護者）実態・意向調査

- 1) 調査区域 : 庄内町全域
- 2) 調査対象者 : 18歳未満のすべての身体障害者手帳所持者、療育手帳所持者、精神障害者手帳所持者、手帳を所持していない特別障害児手当受給者
- 3) 調査対象者数 : 32人（全数）
- 4) 調査方法 : 郵送調査方法（配布・回収）
- 5) 調査期間 : 郵送調査期間 令和5年8月24日～9月15日
- 6) 回収結果 : 回収数 13件（40.6%）

### (3) 障がい者（児）以外の町民意識調査

- 1) 調査区域 : 庄内町全域
- 2) 調査対象者 : 18歳以上65歳未満のすべての身体障害者手帳所持者、療育手帳所持者、精神障害者手帳所持者以外の町民
- 3) 調査対象者数 : 500人（無作為抽出）
- 4) 調査方法 : 郵送調査方法（配布・回収）
- 5) 調査期間 : 郵送調査期間 令和5年8月24日～9月15日
- 6) 回収結果 : 回収数 216件（43.2%）

## 4. 報告書の見方

- (1) 図表の中の N とは、回答者数のことである。
- (2) 百分比は回答者総数全体（該当質問においては該当者数）に占める質問の選択者数の比率として算出している。なお、図表では小数点第2位をそれぞれ四捨五入しているため、百分比の合計が100%にならない場合がある。
- (3) 1つの質問において2つ以上の回答を求めたものもあり、従ってその場合の百分比の合計は100%を超える。
- (4) 各層別の分析において、回答者総数が僅少なものについては誤差が大きくなるため、本文での分析からはずすなど、参考として傾向をみるにとどめている。
- (5) 『 』は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。

## II 調査結果

---



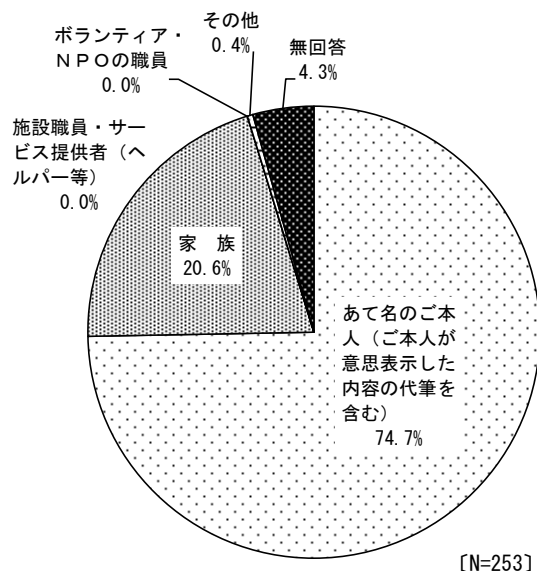
## Ⅱ 調査結果

### 1. 障がい者実態・意向調査

#### (1) はじめに

##### 1) 回答者

問1 この調査に回答していただく方は、どなたですか。(1つに○)



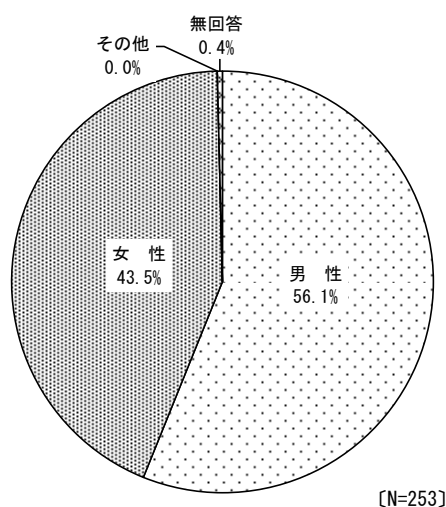
この調査の回答者は、「あて名のご本人（ご本人が意思表示した内容の代筆を含む）」が74.7%で最も高く、次いで「家族」が20.6%となっています。

#### (2) あなたについて

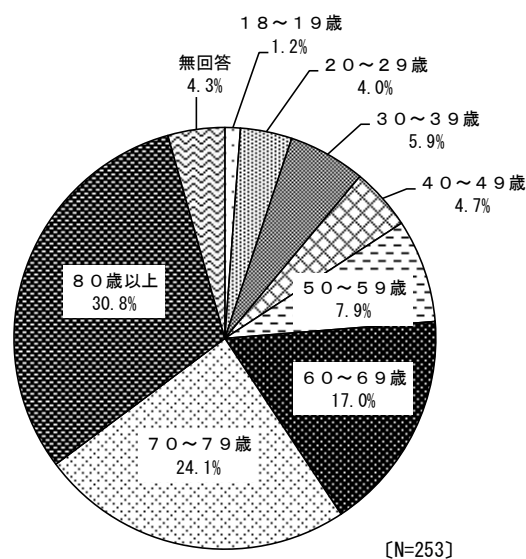
##### 1) 性別と年齢

問2 あなたの性別と令和5年7月1日現在の年齢をお答えください。(1つに○)

#### 【性別】



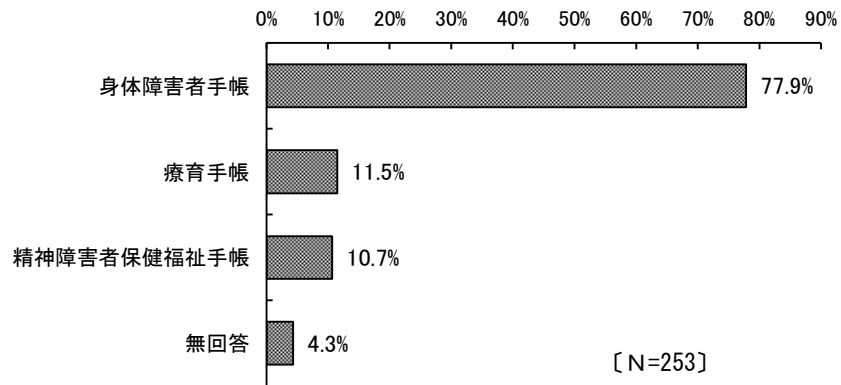
#### 【年齢】



性別は、「男性」が56.1%、「女性」が43.5%となっています。  
年齢は、「80歳以上」が30.8%で最も高くなっています。

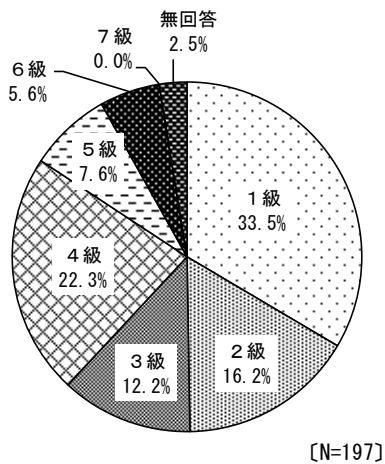
## 2) 持っている障がい者手帳及び障がいの程度

問3 あなたがお持ちの障がい者手帳、障がいの程度を記入してください。  
(あてはまるものすべてに○)

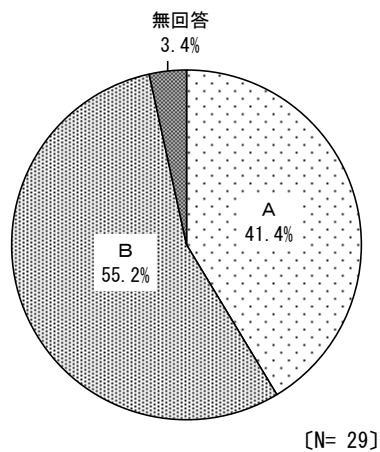


持っている障がい者手帳は、「身体障害者手帳」が 77.9%で最も高く、「療育手帳」、「精神障害者保健福祉手帳」は約1割となっています。

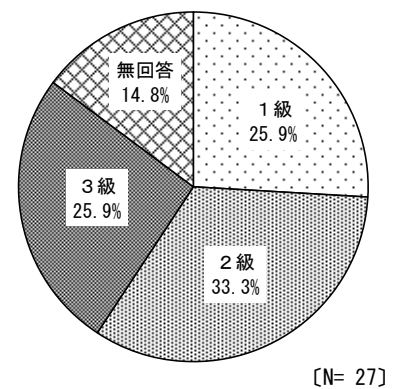
【身体障害者手帳】



【療育手帳】



【精神障害者保健福祉手帳】



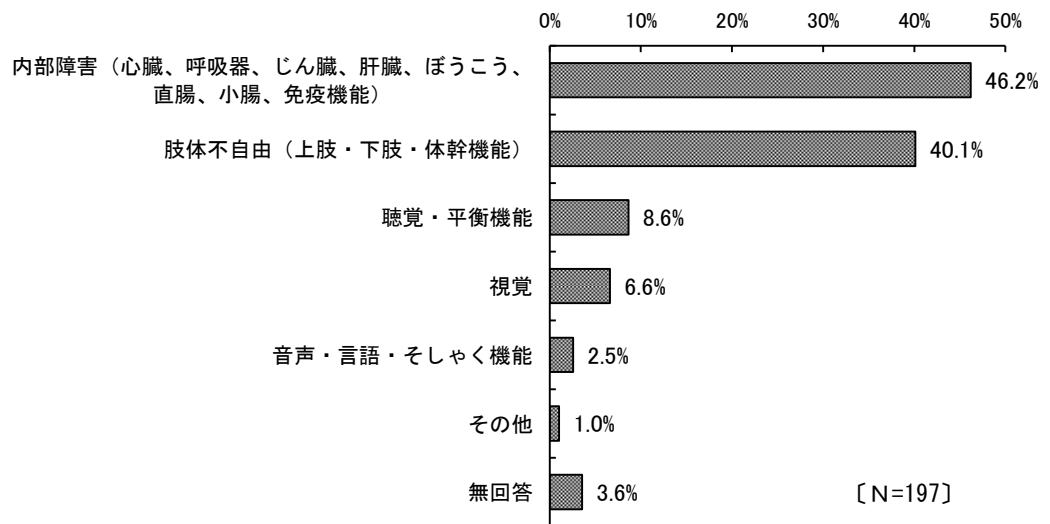
障がいの程度は、「身体障害者手帳」では「1級」が 33.5%、「療育手帳」では「B」が 55.2%、「精神障害者保健福祉手帳」では「2級」が 33.3%で最も高くなっています。



### ①主な障がいの部位

★問3で「1. 身体障害者手帳」と回答した方にうかがいます。

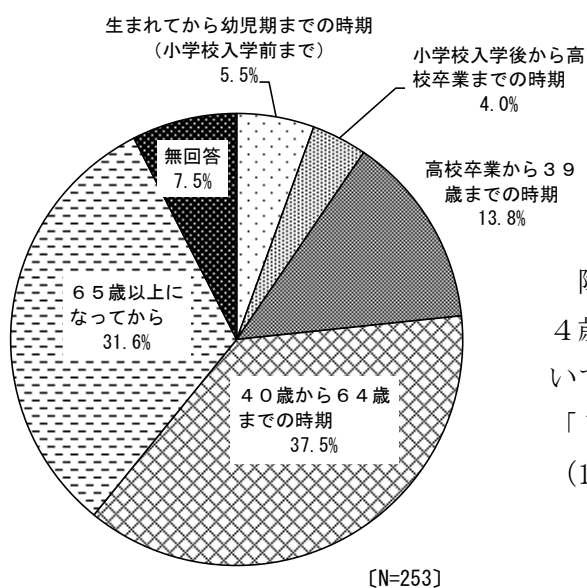
問3-1 主な障がいの部位はどれですか。(あてはまるものすべてに○)



主な障がいの部位では、「内部障害（心臓、呼吸器、じん臓、肝臓、ぼうこう、直腸、小腸、免疫機能）」が46.2%で最も高く、次いで「肢体不自由（上肢・下肢・体幹機能）」が40.1%となっています。

### 3) 障がい者手帳交付時期

問4 障がい者手帳をはじめて交付されたのはいつですか。(1つに○)

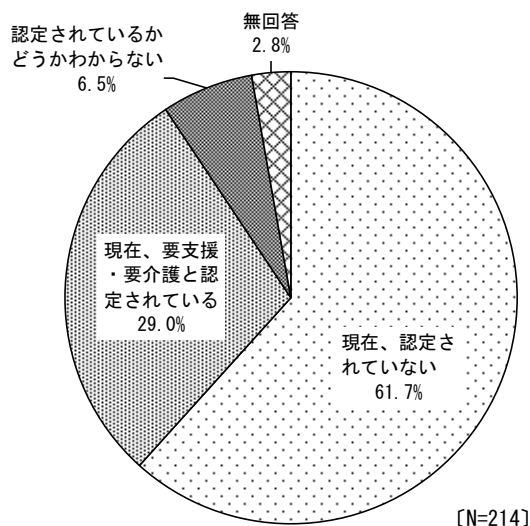


障がい者手帳交付時期は、「40歳から64歳までの時期」が37.5%で最も高く、次いで「65歳以上になってから」(31.6%)、「高校卒業から39歳までの時期」(13.8%)の順となっています。

#### 4) 要支援・要介護認定

★ 40歳以上の方にかがいます。

問5 あなたは、介護保険において要支援・要介護と認定されていますか。(1つに○)



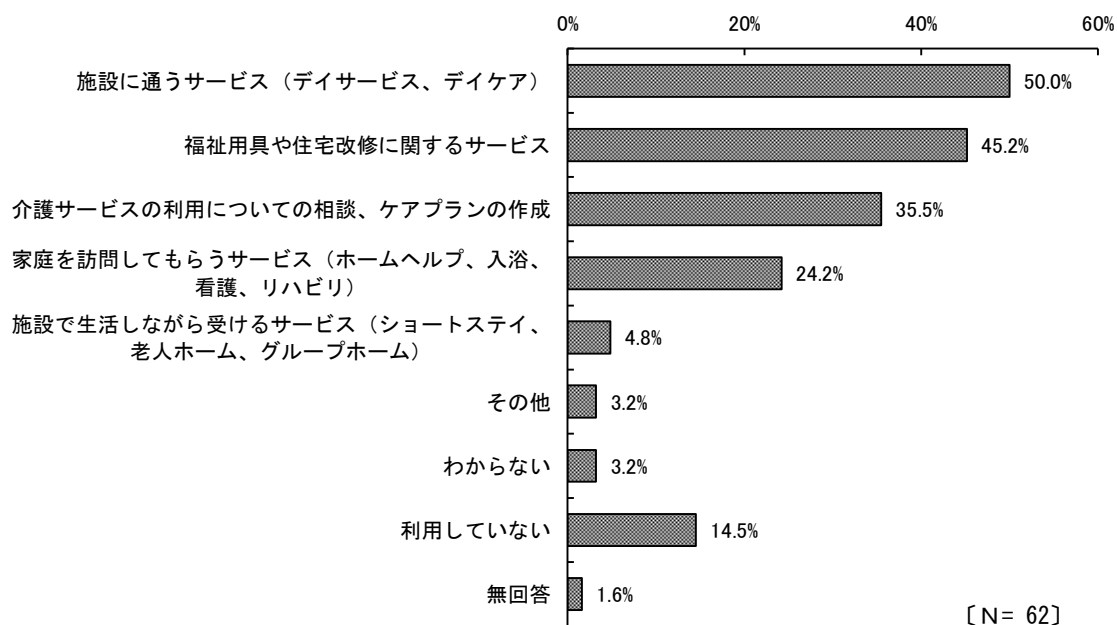
要支援・要介護認定では、「現在、認定されていない」が61.7%、「現在、要支援・要介護と認定されている」が29.0%となっています。

#### ①利用している介護保険サービス

★問5で「2. 現在、要支援・要介護と認定されている」と回答した方にかがいます。

問5-1 どのような介護保険サービスを利用していますか。

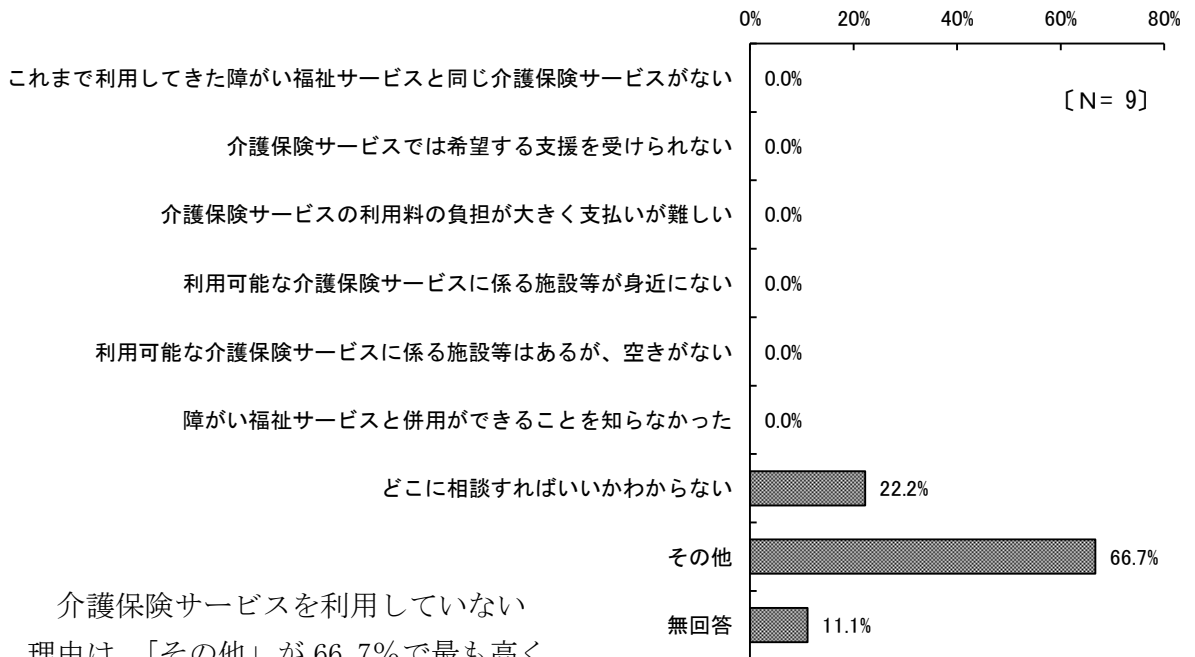
(あてはまるものすべてに○)



利用している介護保険サービスは、「施設に通うサービス (デイサービス、デイケア)」が50.0%で最も高く、次いで「福祉用具や住宅改修に関するサービス」(45.2%)、「介護サービスの利用についての相談、ケアプランの作成」(35.5%)の順となっています。

## ②介護保険サービスを利用していない理由

★問5-1で「8. 利用していない」と回答した方にうかがいます。  
 問5-2 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。  
 (あてはまるもの3つまでに○)

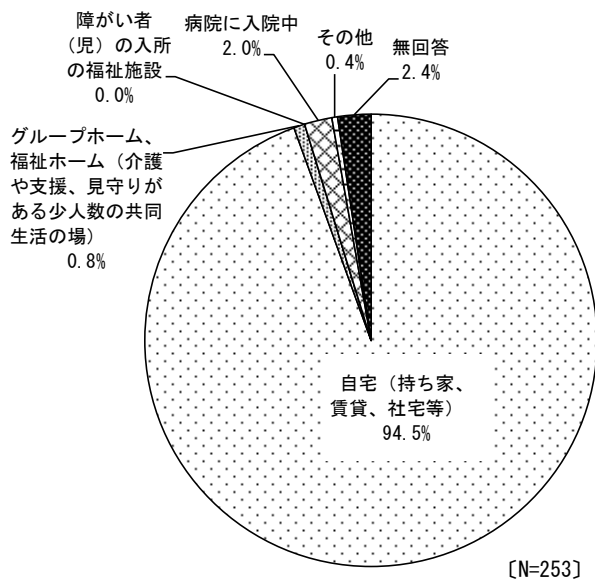


介護保険サービスを利用していない理由は、「その他」が66.7%で最も高く次いで「どこに相談すればいいかわからない」(22.2%)となっています。「その他」の具体的な内容は、「自立できているから」、「家でなんとかできている」などが挙げられています。

## (3) あなたの生活や家族のことについて

### 1) 生活の場所

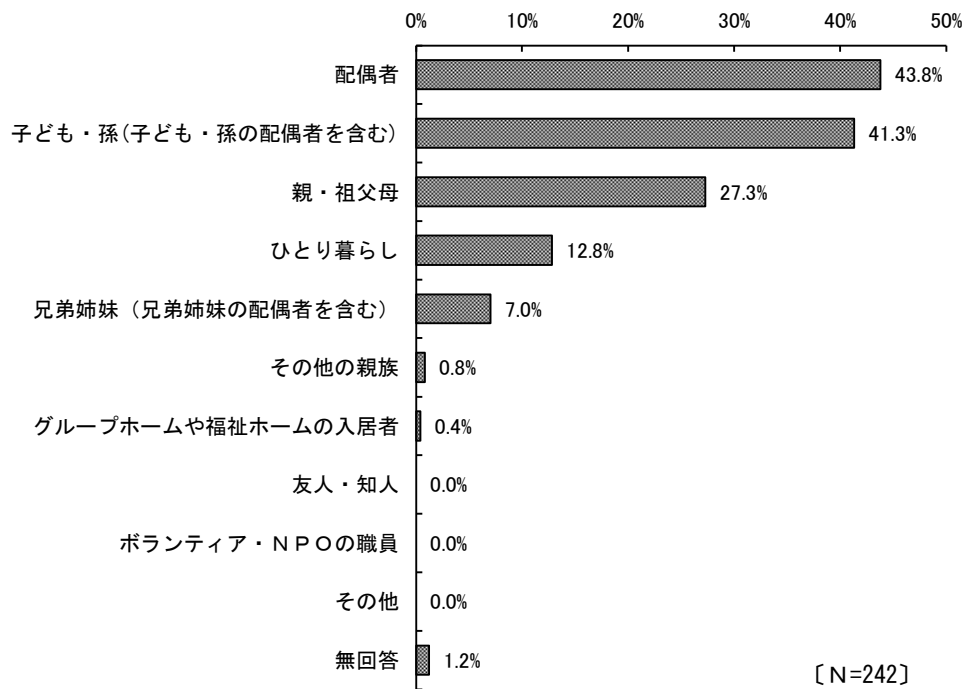
問6 現在、あなたが暮らしているところはどこですか。(1つに○)



生活の場所は、「自宅(持ち家、賃貸、社宅等)」が94.5%となっています。

## 2) 一緒に暮らしている人

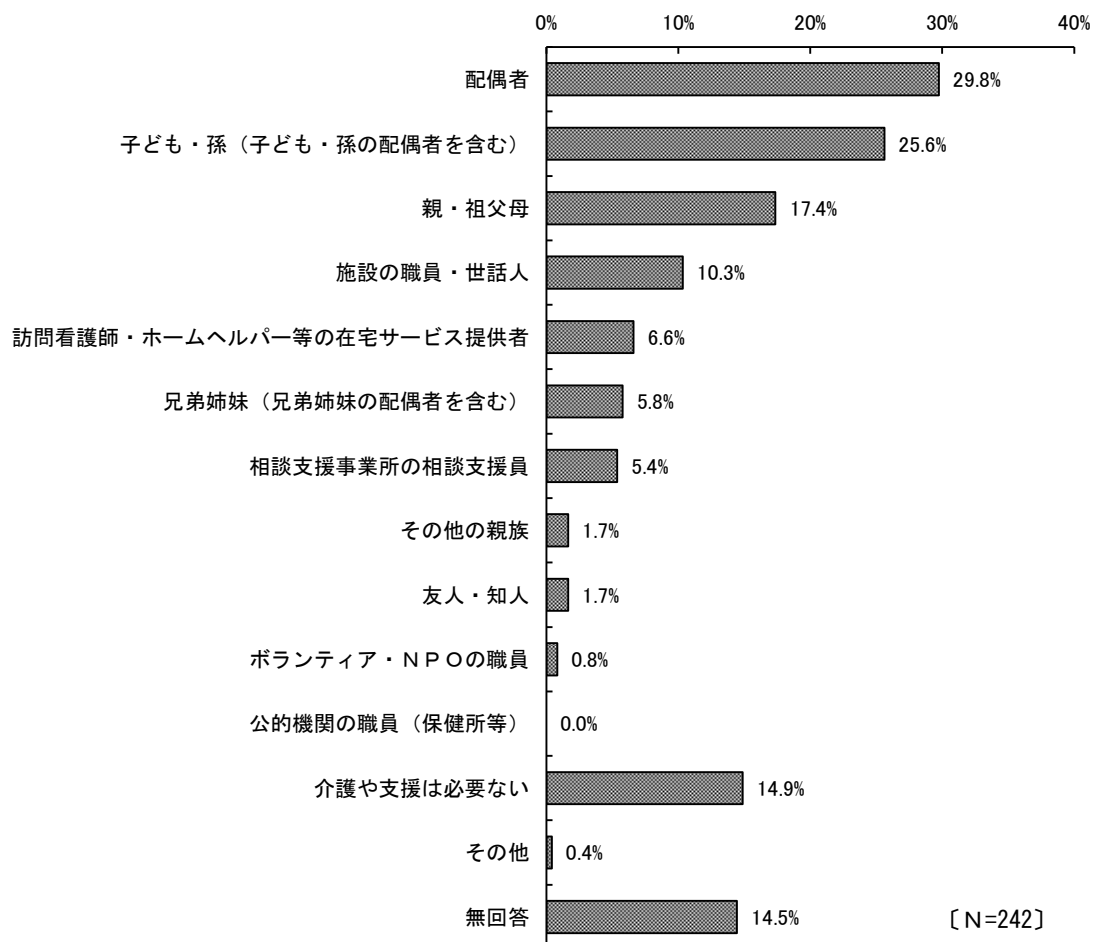
問7 あなたはどなたと一緒に暮らしていますか。(あてはまるものすべてに○)  
※あなたからみた続柄(関係)で回答してください。



一緒に暮らしている人は、「配偶者」が43.8%で最も高く、次いで「子ども・孫(子ども・孫の配偶者を含む)」(41.3%)、「親・祖父母」(27.3%)の順となっています。

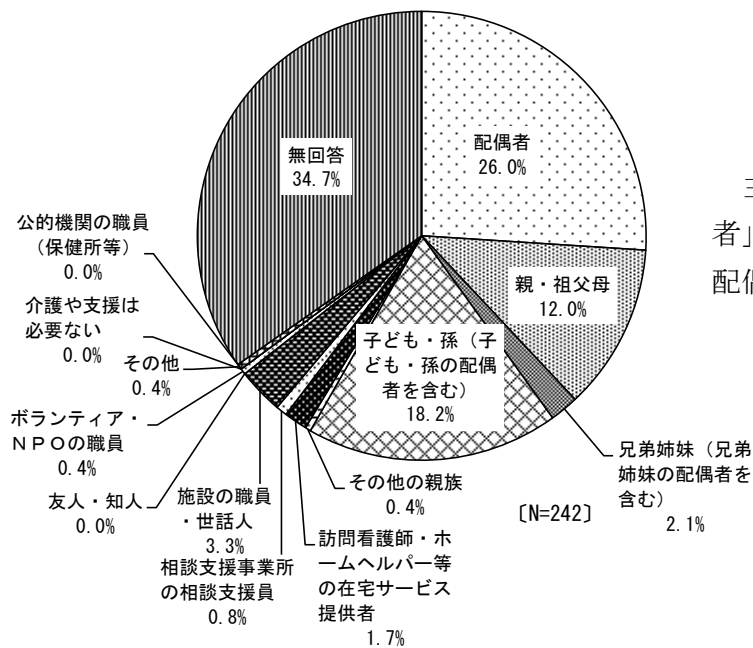
### 3) 介護や支援をしている人

問8 あなたの介護や支援をしている人はどなたですか。(あてはまるものすべてに○、そのうち主に介護や支援をしている人の番号をご記入ください)



介護や支援をしている人は、「配偶者」が29.8%で最も高く、次いで「子ども・孫 (子ども・孫の配偶者を含む)」(25.6%)、「親・祖父母」(17.4%)の順となっています。

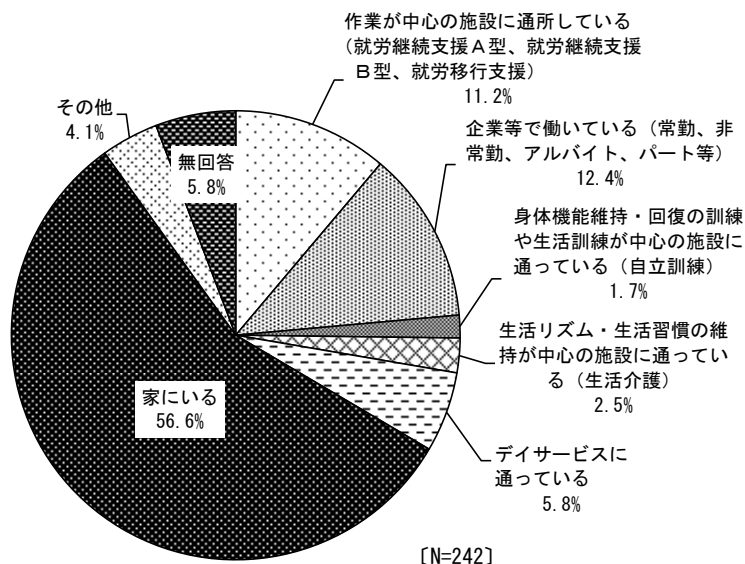
#### 4) 主に介護や支援をしている人



主に介護や支援をしている人は、「配偶者」が26.0%、「子ども・孫 (子ども・孫の配偶者を含む)」が18.2%となっています。

#### 5) 平日の日中の過ごし方

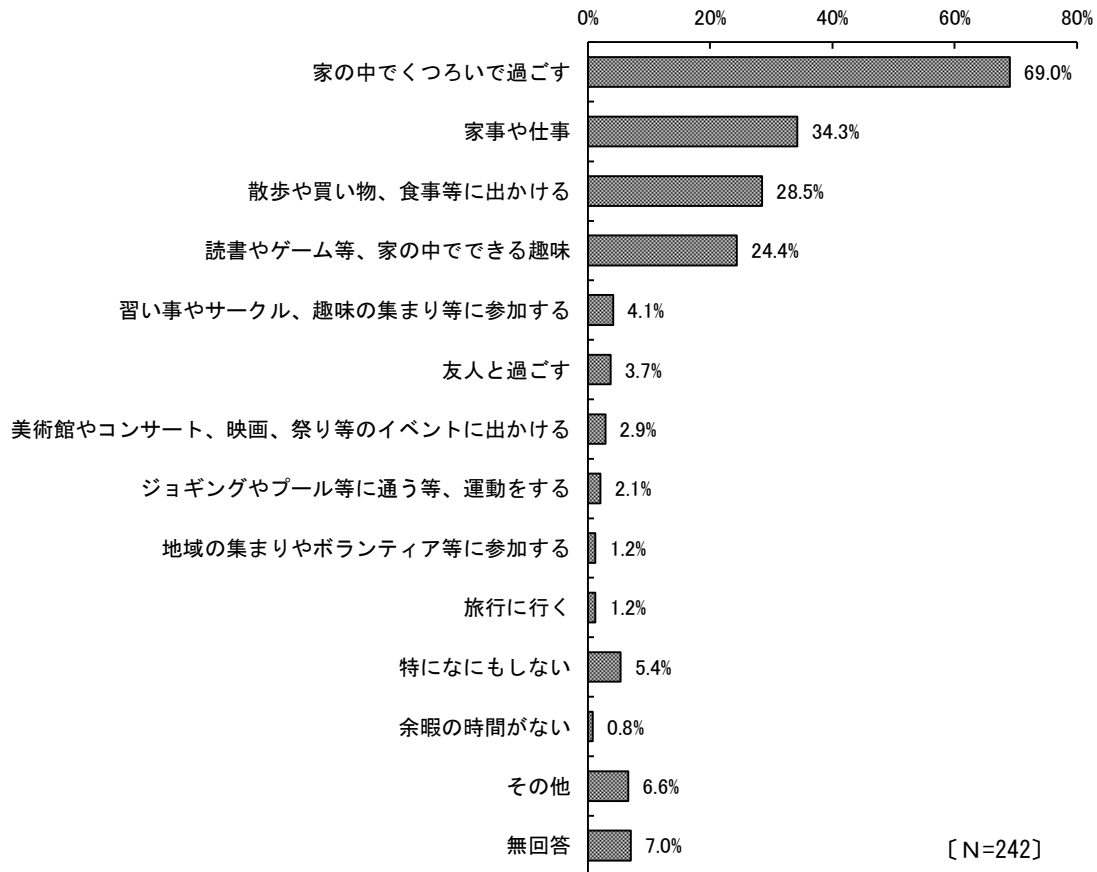
問9 あなたは、平日の日中、主にどのように過ごしていますか。(1つに○)



平日の日中の過ごし方は、「家にいる」が56.6%、「企業等で働いている (常勤、非常勤、アルバイト、パート等)」が12.4%、「作業が中心の施設に通所している (就労継続支援A型、就労継続支援B型、就労移行支援)」が11.2%となっています。

## 6) 平日の夕方、夜、休日の過ごし方

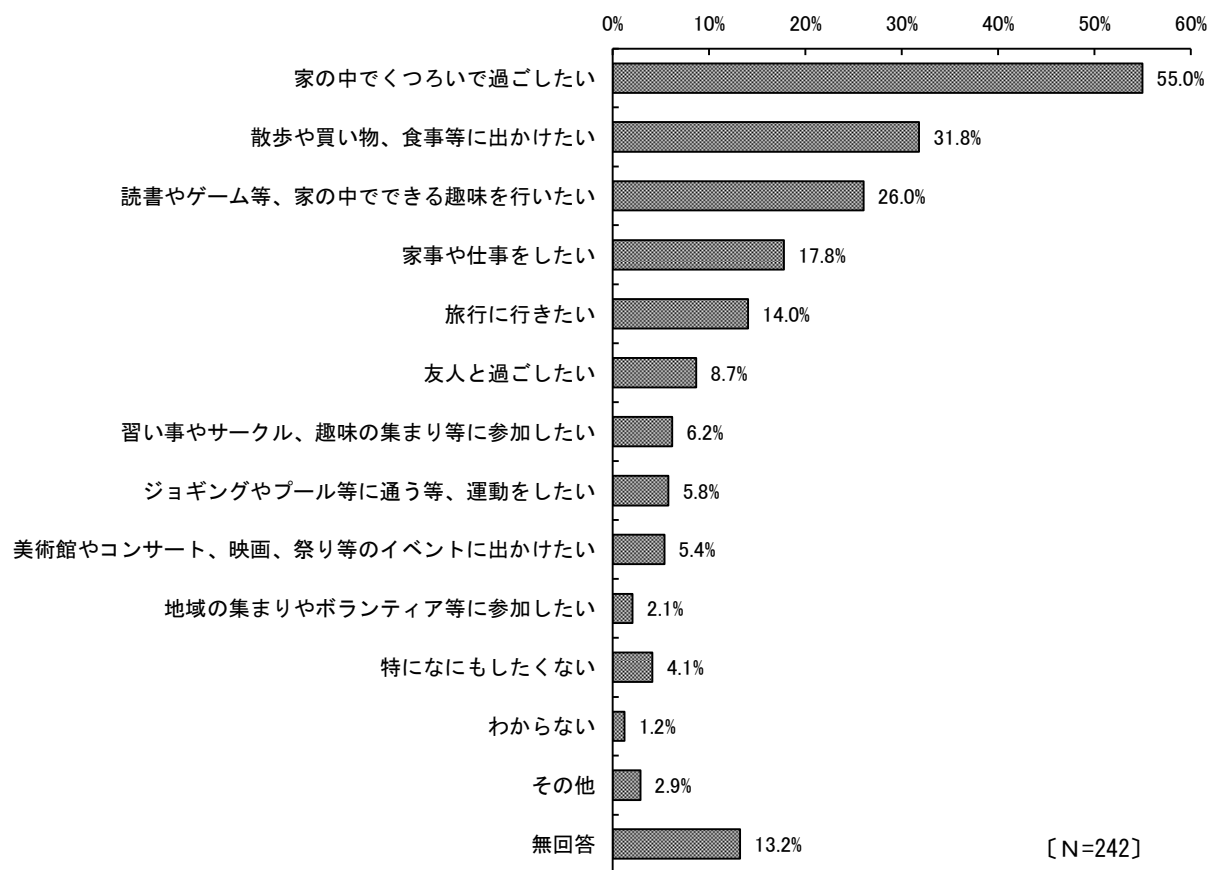
問 10 平日の夕方から夜（学校・施設・企業等からの帰宅後）や休日はどのように過ごしていますか。（あてはまるもの3つまでに○）



平日の夕方、夜、休日の過ごし方は、「家の中でくつろいで過ごす」が69.0%で最も高く、次いで「家事や仕事」(34.3%)、「散歩や買い物、食事等に出かける」(28.5%)、「読書やゲーム等、家の中でできる趣味」(24.4%)の順となっています。

## 7) 平日の夕方、夜、休日の望む過ごし方

問 11 平日の夕方から夜（学校・施設・企業等からの帰宅後）や休日はどのような過ごし方を望んでいますか。（あてはまるもの3つまでに○）



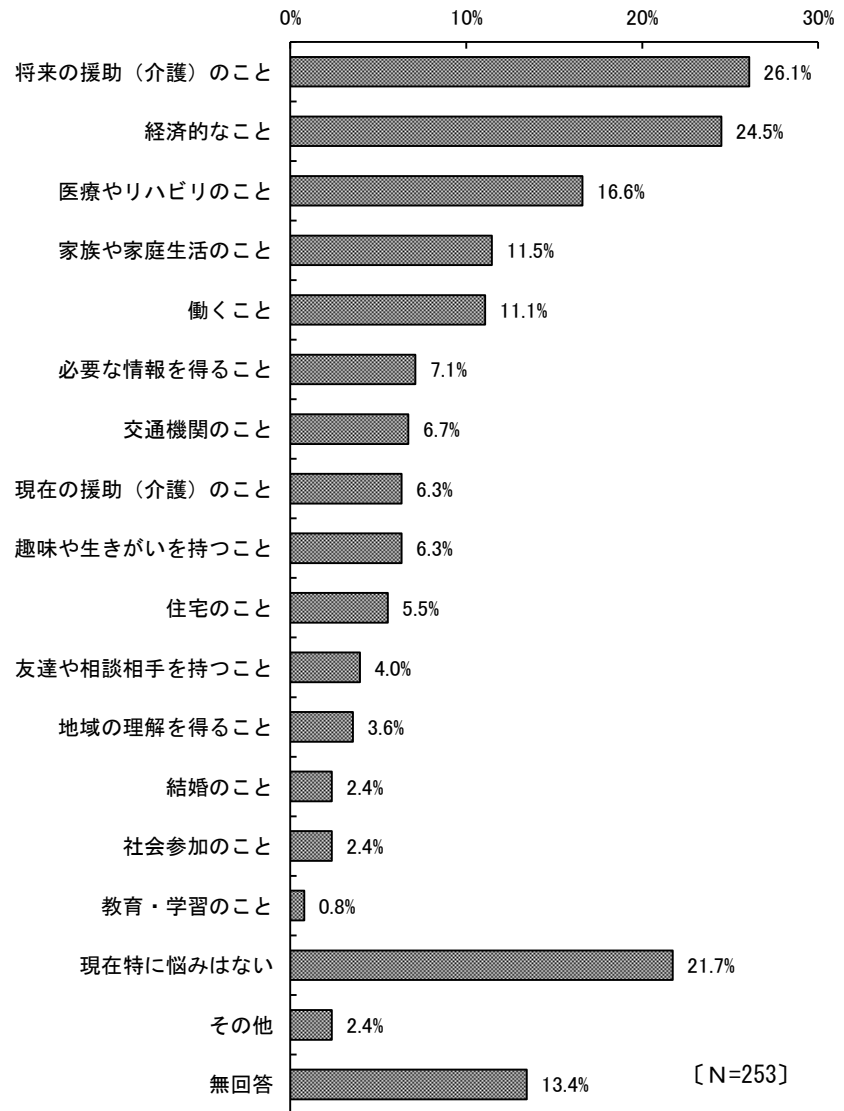
平日の夕方、夜、休日の望む過ごし方は、「家の中でくつろいで過ごしたい」が55.0%で最も高く、次いで「散歩や買い物、食事等に出かけたい」（31.8%）、「読書やゲーム等、家の中でできる趣味を行いたい」（26.0%）、「家事や仕事をしたい」（17.8%）の順となっています。



#### (4) 相談・情報入手について

##### 1) 生活の中での悩みごとや困りごと

問 12 あなたは、生活の中で悩みごとや困ったことがありますか。  
(あてはまるもの3つまでに○)



生活の中での悩みごとや困りごとは、「将来の援助（介護）のこと」が26.1%で最も高く、次いで「経済的なこと」（24.5%）、「現在特に悩みはない」（21.7%）、「医療やリハビリのこと」（16.6%）の順となっています。

【生活の中での悩みごとや困りごと×年齢別】

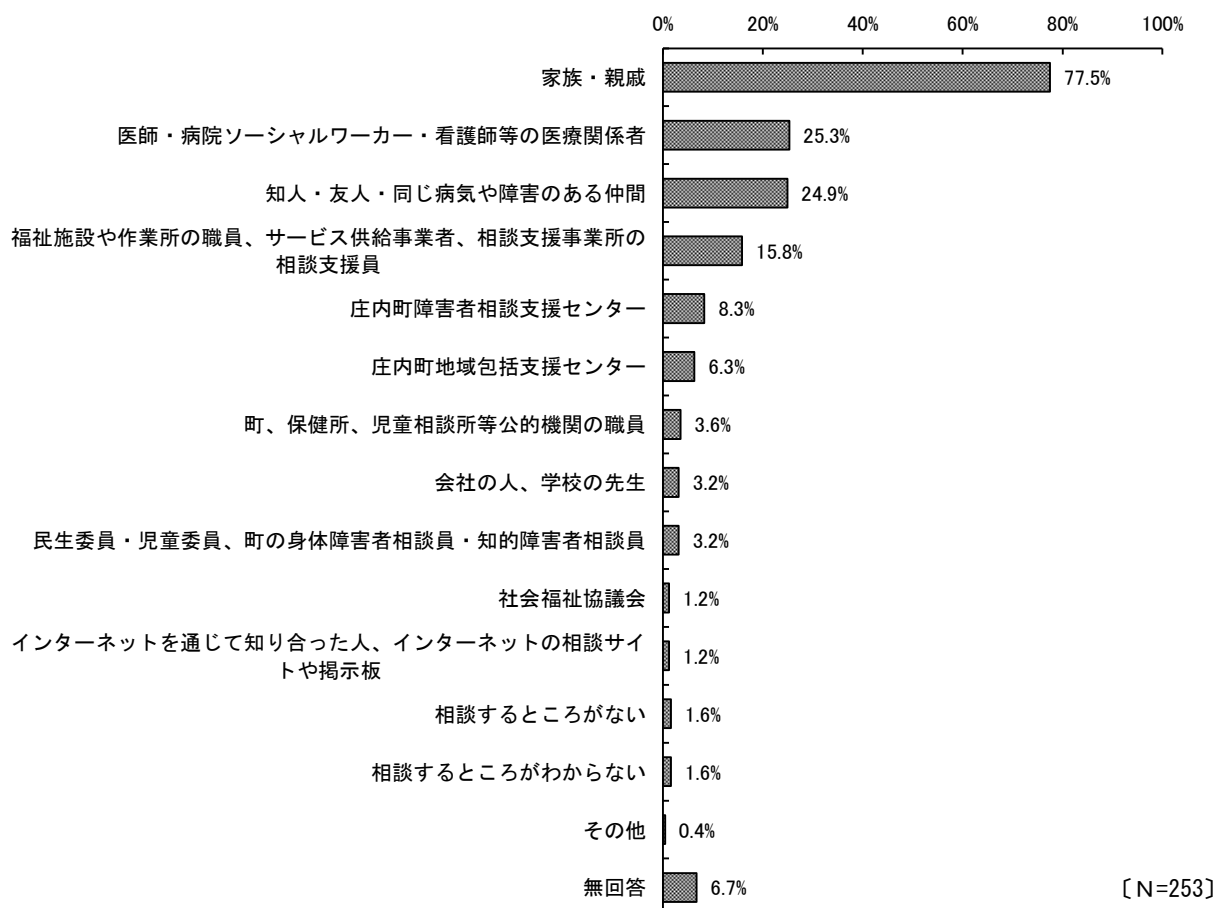
	調査数	1 教育・学 習のこと	2 医療やリ ハビリの こと	3 経済的な こと	4 家族や家 庭生活の こと	5 現在の援 助（介護 ）のこと	6 将来の援 助（介護 ）のこと	7 働くこと	8 趣味や生 きがい を持つこと	9 交通機関 のこと
全 体	253	0.8%	16.6%	24.5%	11.5%	6.3%	26.1%	11.1%	6.3%	6.7%
18～19歳	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	33.3%	0.0%
20～29歳	10	10.0%	20.0%	20.0%	20.0%	10.0%	30.0%	0.0%	10.0%	10.0%
30～39歳	15	0.0%	13.3%	26.7%	40.0%	6.7%	46.7%	46.7%	6.7%	0.0%
40～49歳	12	8.3%	8.3%	33.3%	8.3%	8.3%	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%
50～59歳	20	0.0%	10.0%	45.0%	15.0%	10.0%	25.0%	30.0%	5.0%	15.0%
60～69歳	43	0.0%	18.6%	30.2%	0.0%	4.7%	30.2%	11.6%	7.0%	4.7%
70～79歳	61	0.0%	11.5%	18.0%	13.1%	4.9%	14.8%	3.3%	4.9%	4.9%
80歳以上	78	0.0%	23.1%	17.9%	10.3%	7.7%	25.6%	3.8%	6.4%	10.3%
無 回 答	11	0.0%	0.0%	36.4%	9.1%	0.0%	18.2%	27.3%	9.1%	0.0%

上段：件数 下段：構成比

	10 住宅のこ と	11 必要な情 報を得る こと	12 友達や相 談相手 を持つこと	13 地域の理 解を得る こと	14 結婚のこ と	15 社会参加 のこと	16 現在特に 悩みはな い	17 その他	無回答
全 体	5.5%	7.1%	4.0%	3.6%	2.4%	2.4%	21.7%	2.4%	13.4%
18～19歳	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20～29歳	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	10.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%
30～39歳	0.0%	13.3%	0.0%	20.0%	13.3%	0.0%	13.3%	0.0%	0.0%
40～49歳	8.3%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	8.3%	8.3%	8.3%
50～59歳	5.0%	10.0%	0.0%	0.0%	5.0%	0.0%	15.0%	0.0%	5.0%
60～69歳	14.0%	9.3%	0.0%	4.7%	4.7%	2.3%	16.3%	0.0%	20.9%
70～79歳	1.6%	8.2%	6.6%	3.3%	0.0%	0.0%	34.4%	1.6%	14.8%
80歳以上	5.1%	2.6%	6.4%	1.3%	0.0%	2.6%	24.4%	5.1%	14.1%
無 回 答	9.1%	9.1%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	27.3%

## 2) 悩みごとや困りごとを相談する相手

問 13 あなたが生活をしていく上で、悩みや困ったことを相談するのは誰ですか。  
(あてはまるもの3つまでに○)



悩みごとや困りごとを相談する相手は、「家族・親戚」が 77.5%で最も高く、次いで「医師・病院ソーシャルワーカー・看護師等の医療関係者」(25.3%)、「知人・友人・同じ病気や障害のある仲間」(24.9%)、「福祉施設や作業所の職員、サービス供給事業者、相談支援事業所の相談支援員」(15.8%)の順となっています。

【悩みごとや困りごとを相談する相手×年齢別】

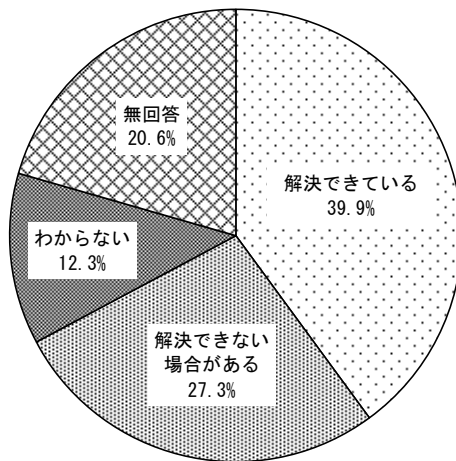
	調査数	1 家族・親戚	2 知人・友人 ・同じ病気 や障害のあ る仲間	3 会社の人、 学校の先生	4 医師・病院 ソーシャル ワーカー・ 看護師等の 医療関係者	5 福祉施設や 作業所の職 員、サービ ス供給事業 者、相談支 援事業所の 相談支援員	6 町、保健所 、児童相談 所等公的機 関の職員	7 民生委員・ 児童委員、 町の身体障 害者相談員 ・知的障害者 相談員
全 体	253	77.5%	24.9%	3.2%	25.3%	15.8%	3.6%	3.2%
18～19歳	3	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%
20～29歳	10	90.0%	40.0%	20.0%	20.0%	40.0%	0.0%	0.0%
30～39歳	15	66.7%	26.7%	13.3%	13.3%	33.3%	6.7%	0.0%
40～49歳	12	83.3%	33.3%	8.3%	16.7%	25.0%	0.0%	0.0%
50～59歳	20	75.0%	50.0%	10.0%	40.0%	45.0%	5.0%	0.0%
60～69歳	43	69.8%	25.6%	2.3%	30.2%	16.3%	2.3%	0.0%
70～79歳	61	77.0%	24.6%	0.0%	19.7%	0.0%	6.6%	1.6%
80歳以上	78	85.9%	16.7%	0.0%	26.9%	11.5%	2.6%	9.0%
無 回 答	11	63.6%	18.2%	0.0%	27.3%	18.2%	0.0%	0.0%

上段：件数 下段：構成比

	8 庄内町障 がい者相談 支援センター	9 庄内町地域 包括支援セ ンター	10 社会福祉協 議会	11 インターネ ットを通じ て知り合っ た人、イン ターネット の相談サイ トや掲示板	12 相談する ところがない	13 相談する ところがわ からない	14 その他	無回答
全 体	8.3%	6.3%	1.2%	1.2%	1.6%	1.6%	0.4%	6.7%
18～19歳	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%
20～29歳	10.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30～39歳	33.3%	6.7%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
40～49歳	8.3%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%
50～59歳	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%
60～69歳	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%	0.0%	11.6%
70～79歳	8.2%	6.6%	0.0%	1.6%	1.6%	4.9%	1.6%	8.2%
80歳以上	5.1%	14.1%	1.3%	0.0%	0.0%	1.3%	0.0%	3.8%
無 回 答	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	18.2%

### 3) 悩みごとや困りごとの解決状況

問 14 問 13 で回答した相談先に相談することで、悩みや困ったことは解決できていますか。(1つに○)

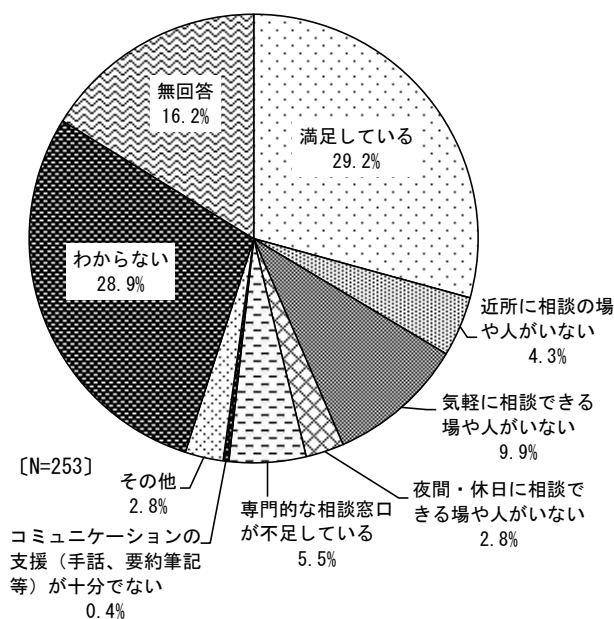


悩みごとや困りごとの解決状況は、「解決できている」が39.9%、「解決できない場合がある」が27.3%となっています。

[N=253]

### 4) 相談支援体制について感じていること

問 15 現在の困ったときの相談支援体制について、どのように感じていますか。(1つに○)

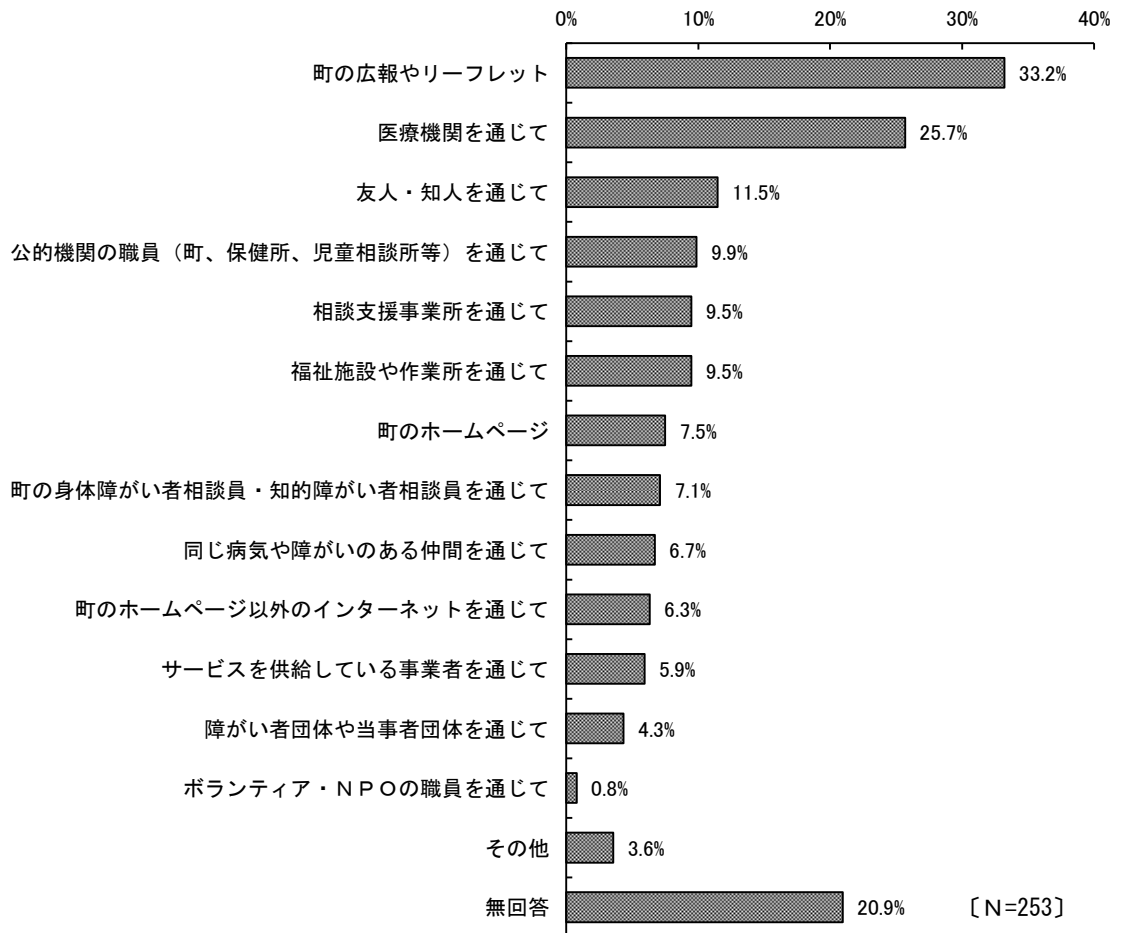


相談支援体制について感じていることは、「満足している」が29.2%、「わからない」が28.9%となっています。

[N=253]

## 5) 情報の入手方法

問 16 症状や障がいのこと、自分が使えるサービスのことについて、どのように情報を得ていますか。(あてはまるもの3つまでに○)

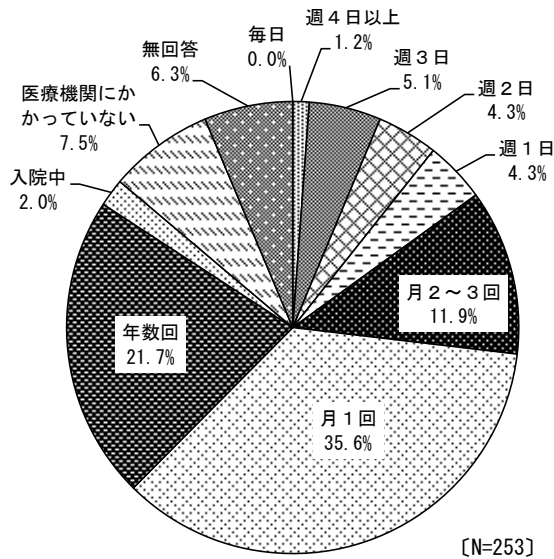


情報の入手方法は、「町の広報やリーフレット」が33.2%で最も高く、次いで「医療機関を通じて」（25.7%）、「友人・知人を通じて」（11.5%）、「公的機関の職員（町、保健所、児童相談所等）を通じて」（9.9%）の順となっています。（「無回答」を除きます。）

(5) 保健・医療サービスについて

1) 現在の通院状況（リハビリ含む）

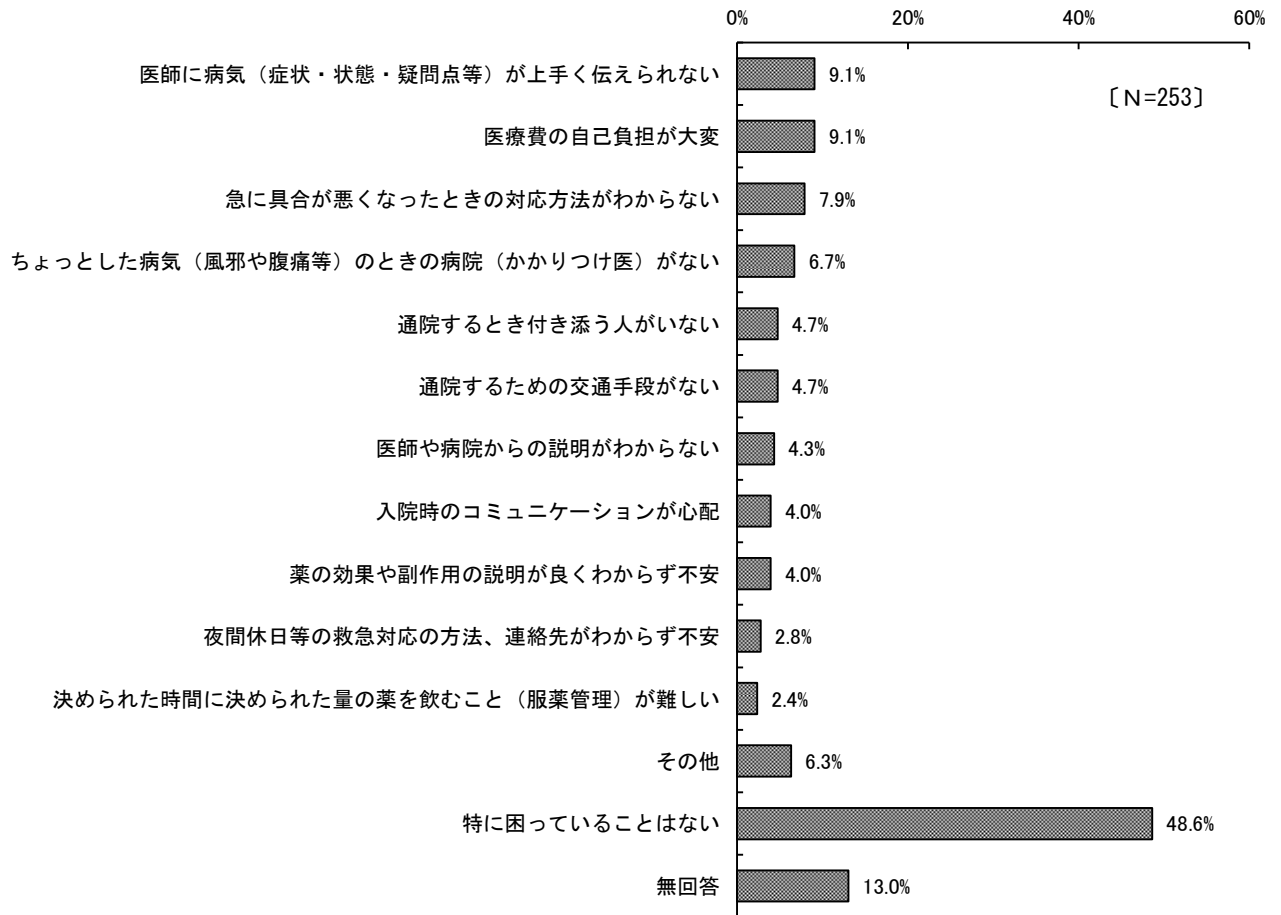
問 17 あなたの現在の通院状況（リハビリを含む）は、次のどれですか。（1つに○）



現在の通院状況（リハビリ含む）は、「月1回」が35.6%、「年数回」が21.7%、「月2～3回」が11.9%となっています。

## 2) 医療に関する困りごと

問 18 医療について、困っていることがありますか。(あてはまるもの3つまでに○)



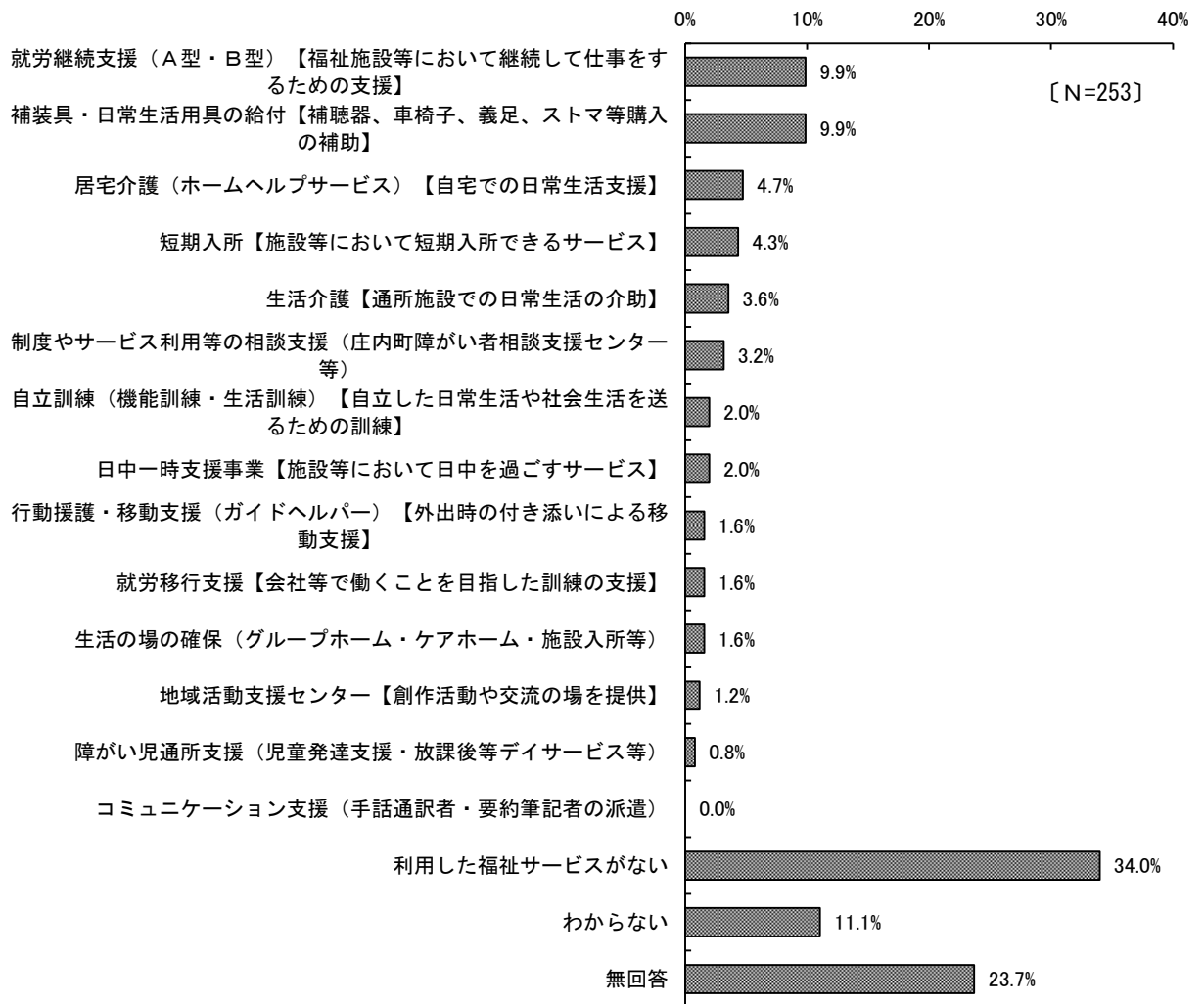
医療に関する困りごとは、「特に困っていることはない」が 48.6%で最も高く、次いで「医師に病気（症状・状態・疑問点等）が上手く伝えられない」、「医療費の自己負担が大変」（共に 9.1%）、「急に具合が悪くなったときの対応方法がわからない」（7.9%）、「ちょっとした病気（風邪や腹痛等）のときの病院（かかりつけ医）がない」（6.7%）の順となっています。（「無回答」を除きます。）



(6) 障がい福祉サービスについて

1) 最近1年の間に利用した福祉サービス

問 19 あなたは、最近1年の間に、以下の障がい福祉サービスを利用したことがありますか。(利用したことがあるものすべてに○)  
(介護保険制度によるサービスは除きます)

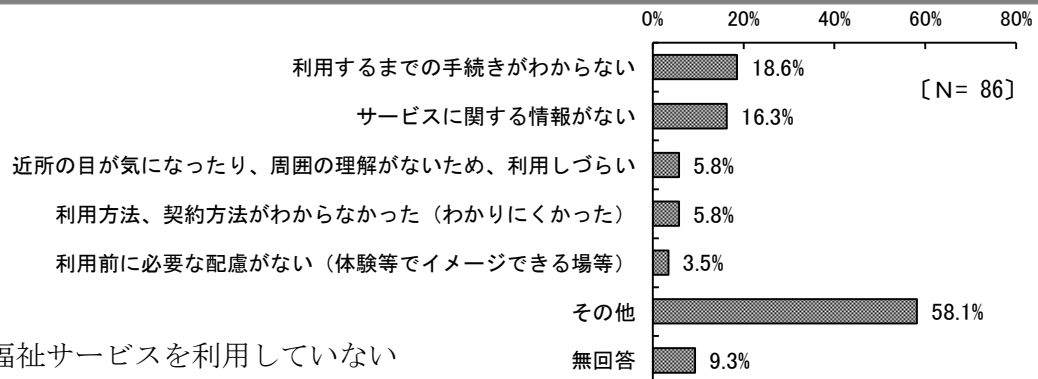


最近1年の間に利用した福祉サービスは、「利用した福祉サービスがない」が 34.0% で最も高く、次いで「わからない」(11.1%)、「就労継続支援 (A型・B型) 【福祉施設等において継続して仕事をするための支援】」、「補装具・日常生活用具の給付【補聴器、車椅子、義足、ストマ等購入の補助】」(共に 9.9%)、「居宅介護 (ホームヘルプサービス) 【自宅での日常生活支援】」(4.7%) の順となっています。(「無回答」を除きます。)

## ①福祉サービスを利用していない理由

★問 19 で「15. 利用した福祉サービスがない」と回答した方にうかがいます。

問 19-1 サービスを利用してしていないのはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)



福祉サービスを利用していない

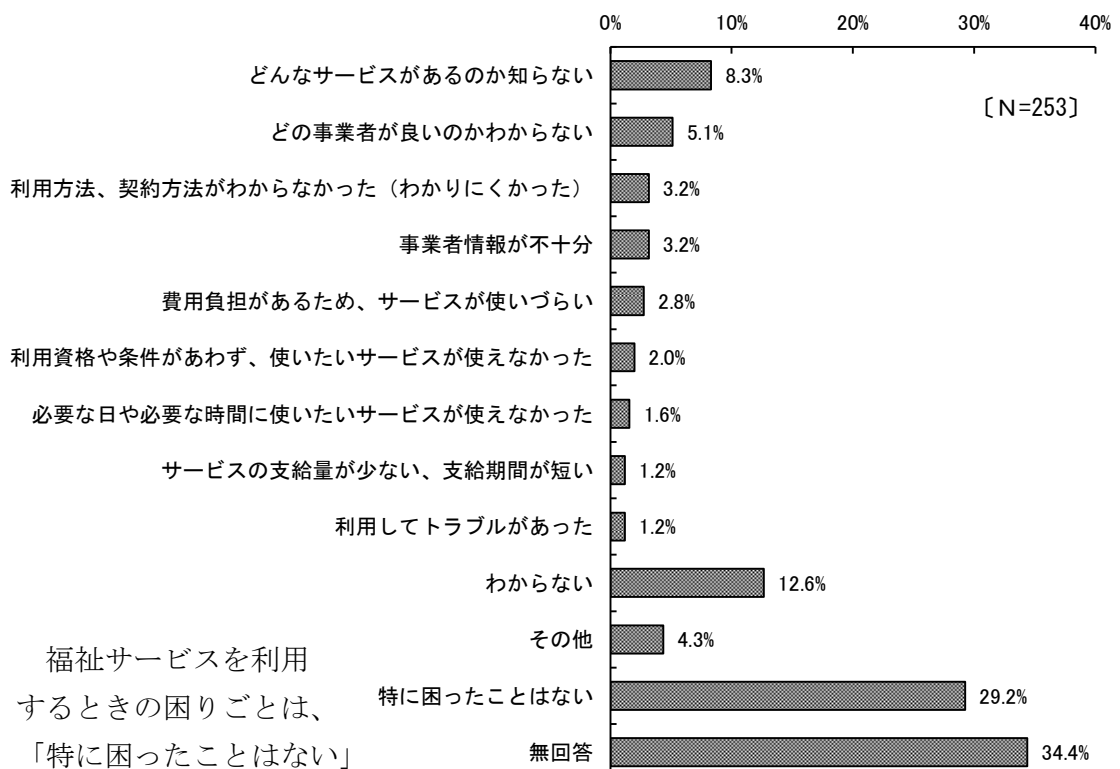
理由は、「その他」が58.1%で最も

高く、次いで「利用するまでの手続きがわからない」(18.6%)、「サービスに関する情報がない」(16.3%)の順となっています。「その他」の具体的な内容は「今のところ利用する必要がない」、「自立できているため」などが挙げられています。

## 2) 福祉サービスを利用するときの困りごと

問 20 福祉サービスを利用するとき何か困ったことがありましたか。

(あてはまるものすべてに○)



福祉サービスを利用

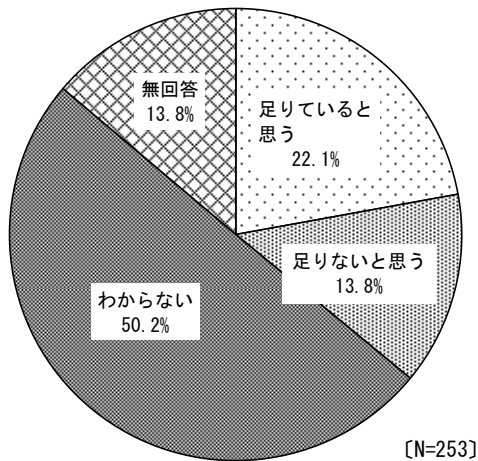
するときの困りごとは、

「特に困ったことはない」

が29.2%で最も高く、次いで「わからない」(12.6%)、「どんなサービスがあるのか知らない」(8.3%)、「どの事業者が良いのかわからない」(5.1%)の順となっています。(「無回答」を除きます。)

### 3) 町で生活する上での各種サービスの過不足

問 21 あなたは、町で生活するうえで、各種サービスは足りていると思いますか。  
(1つに○)

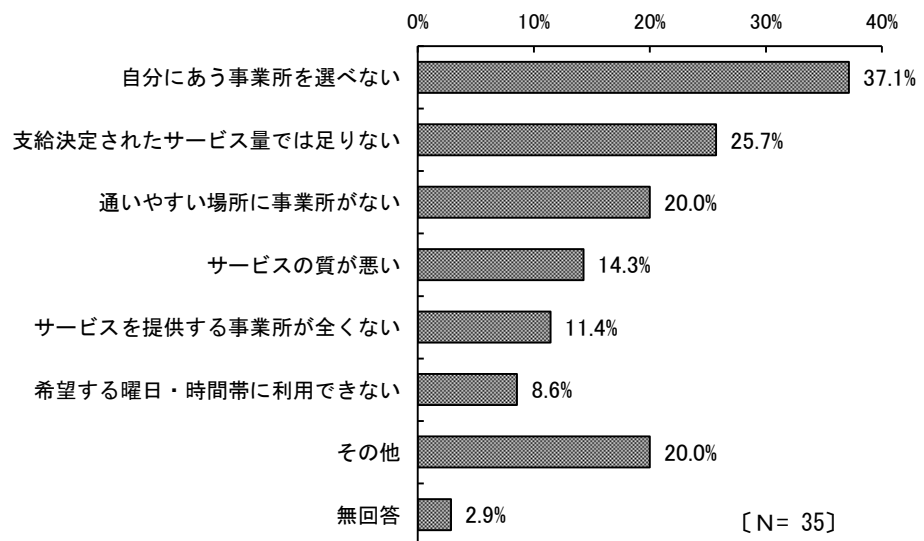


町で生活する上での各種サービスの過不足は、「わからない」が50.2%、「足りていると思う」が22.1%、「足りないと思う」が13.8%となっています。

#### ①サービスが足りないと感じる理由

★問 21 で「2. 足りないと思う」と回答した方におうかがいします。

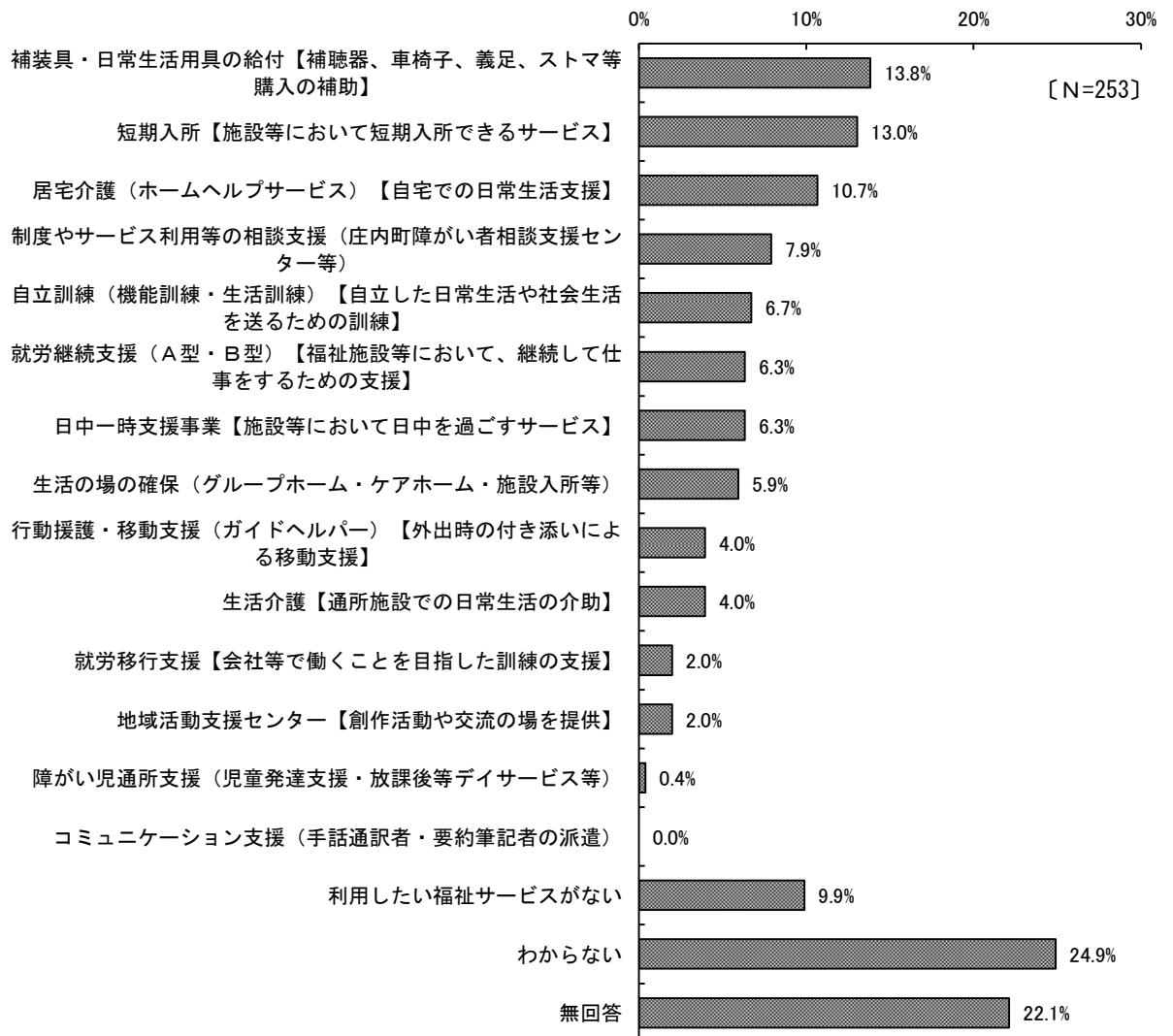
問 21-1 サービスが足りないと感じるのはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)



サービスが足りないと感じる理由は、「自分にあう事業所を選べない」が37.1%で最も高く、次いで「支給決定されたサービス量では足りない」(25.7%)、「通いやすい場所に事業所がない」、「その他」(共に20.0%)の順となっています。

#### 4) 今後利用したい福祉サービス

問 22 今後、以下の福祉サービスの中で、利用したいサービスはありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

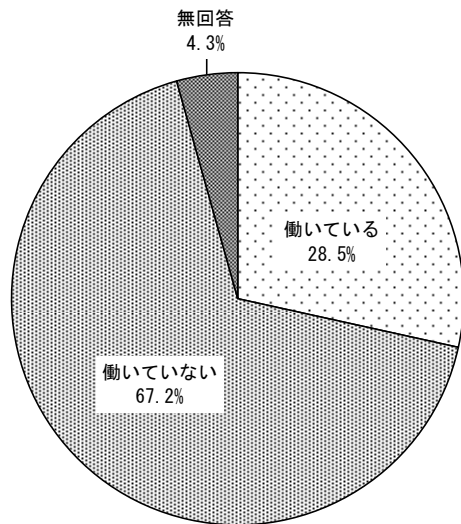


今後利用したい福祉サービスは、「わからない」が 24.9%で最も高く、次いで「補装具・日常生活用具の給付【補聴器、車椅子、義足、ストマ等購入の補助】」（13.8%）、「短期入所【施設等において短期入所できるサービス】」（13.0%）、「居宅介護（ホームヘルプサービス）【自宅での日常生活支援】」（10.7%）の順となっています。（「無回答」を除きます。）

(7) 就労について

1) 現在の就労状況

問 23 あなたは、現在、働いていますか。(1つに○)



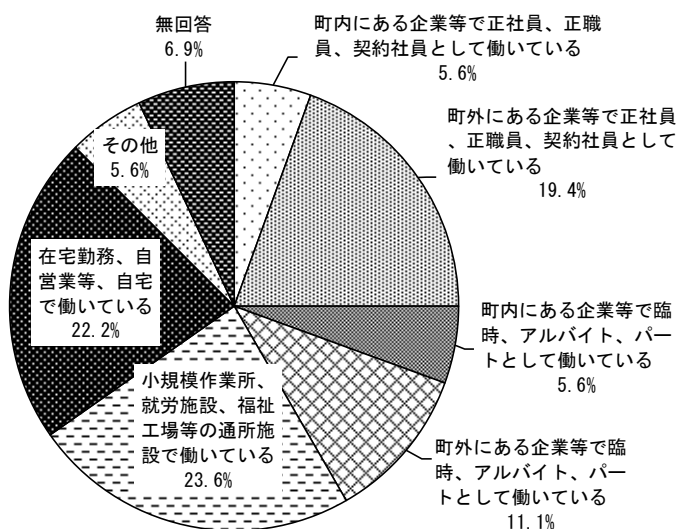
現在の就労状況は、「働いていない」が67.2%、「働いている」が28.5%となっています。

[N=253]

①就労場所

★問 23 で「1. 働いている」と回答した方にうかがいます。

問 23-1 就労場所はどこですか。(1つに○)

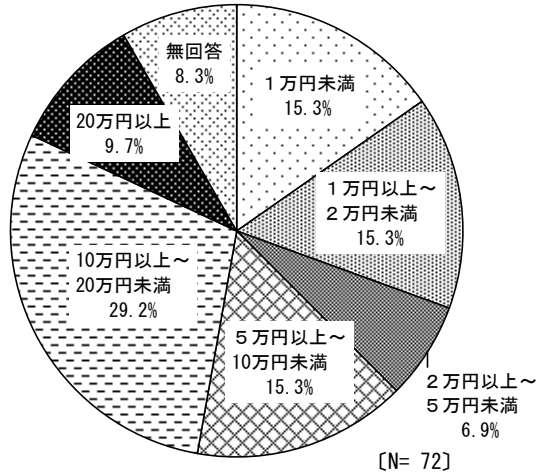


[N= 72]

就労場所は、「小規模作業所、就労施設、福祉工場等の通所施設で働いている」が23.6%、「在宅勤務、自営業等、自宅で働いている」が22.2%、「町外にある企業等で正社員、正職員、契約社員として働いている」が19.4%となっています。

## ②月収

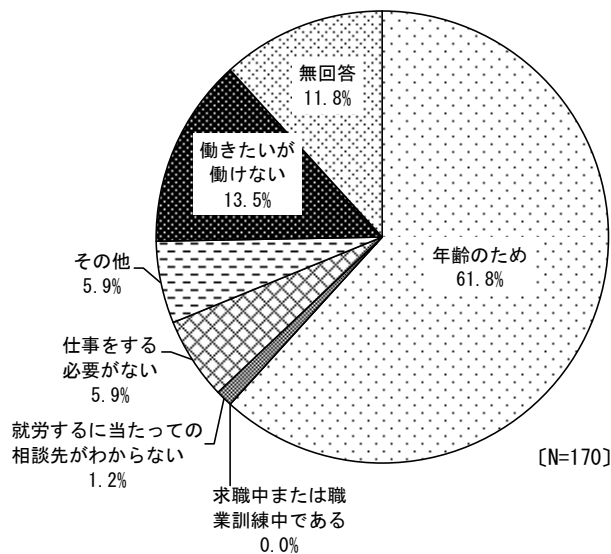
★問 23 で「1. 働いている」と回答した方にうかがいます。  
 問 23-2 就労の場で得る月収（賃金・工賃）はどれくらいですか。  
 差し支えない範囲でお答えください。（1つに○）



月収は、「10 万円以上～20 万円未満」が 29.2%、「1 万円未満」、「1 万円以上～2 万円未満」、「5 万円以上～10 万円未満」が共に 15.3%となっています。

## ③働いていない理由

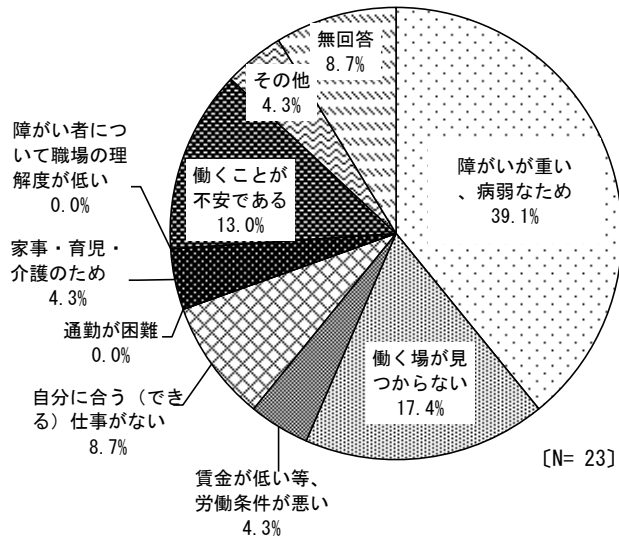
★問 23 で「2. 働いていない」と回答した方にうかがいます。  
 問 23-3 働いていない主な理由は何ですか。（1つに○）



働いていない理由は、「年齢のため」が 61.8%、「働きたいが働けない」が 13.5%、「仕事をする必要がない」、「その他」が共に 5.9%となっています。

#### ④働きたいが働けない理由

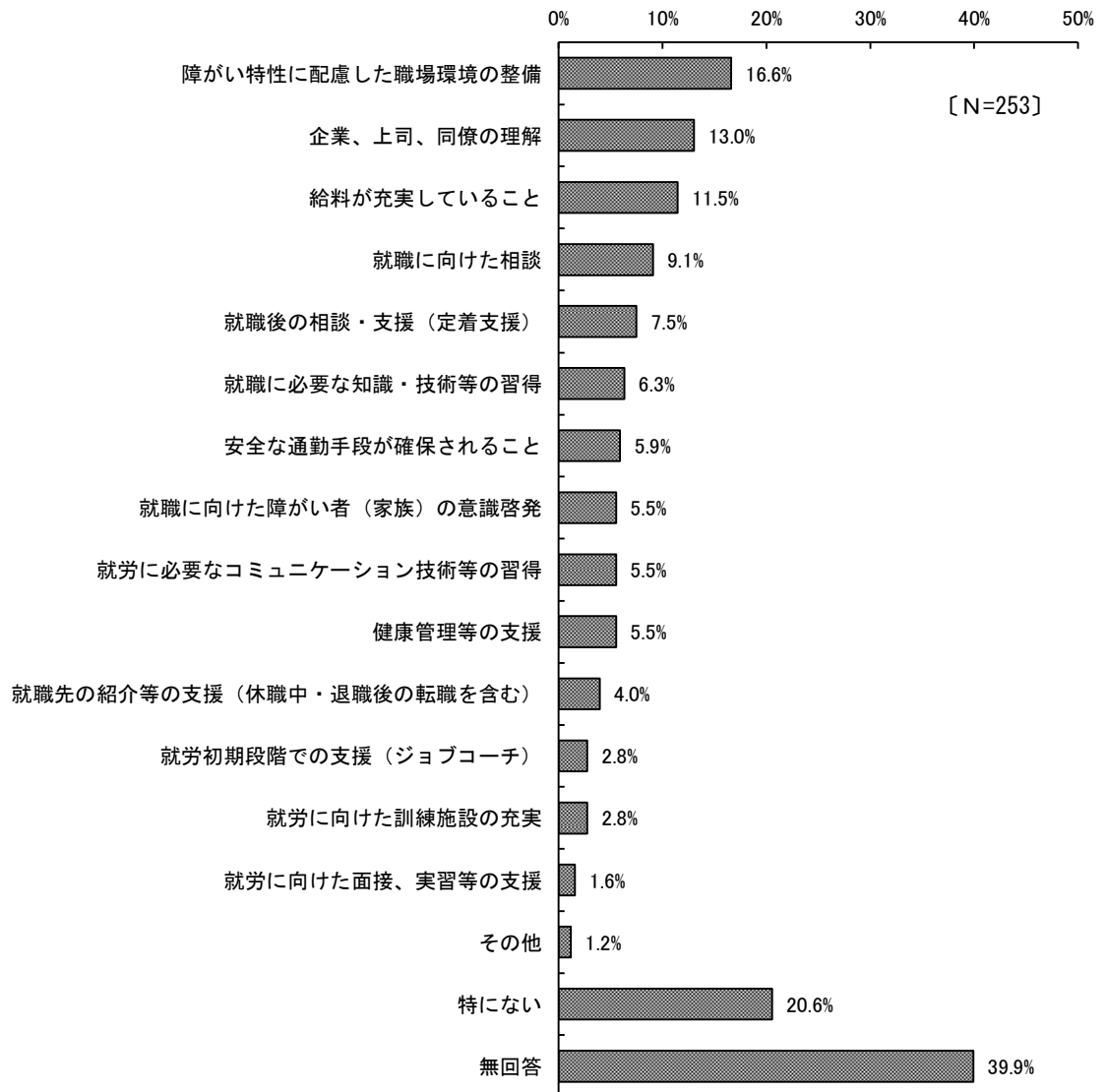
★問 23-3 で「6. 働きたいが働けない」と回答した方にうかがいます。  
問 23-4 その理由は何ですか。(1つに○)



働きたいが働けない理由は、「障がいが重い、病弱なため」が 39.1%、「働く場が見つからない」が 17.4%、「働くことが不安である」が 13.0%となっています。

## 2) 企業等で働くために重要なこと

問 24 企業等で働くために重要と思われることはなんですか。  
再就職の場合も含まます。(あてはまるもの3つまでに○)

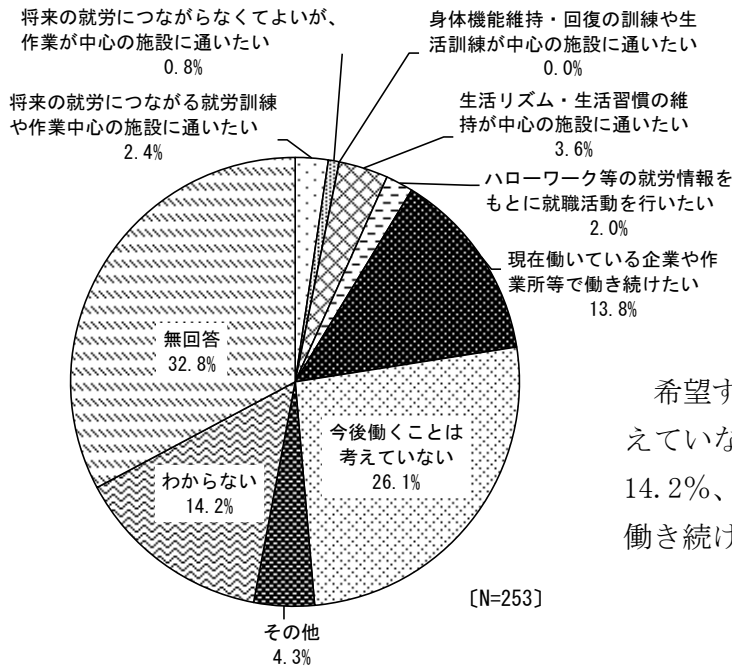


企業等で働くために重要なことは、「特にない」が20.6%で最も高く、次いで「障がい特性に配慮した職場環境の整備」(16.6%)、「企業、上司、同僚の理解」(13.0%)、「給料が充実していること」(11.5%)の順となっています。(「無回答」を除きます。)



### 3) 希望する就労形態

問 25 あなたは、今後、どのように就労をしていきたいですか。(1つに○)

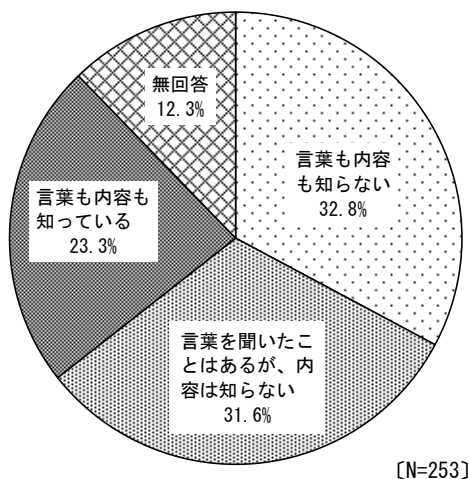


希望する就労形態は、「今後働くことは考えていない」が 26.1%、「わからない」が 14.2%、「現在働いている企業や作業所等で働きたい」が 13.8%となっています。

### (8) 権利擁護について

#### 1) 「成年後見制度」の周知

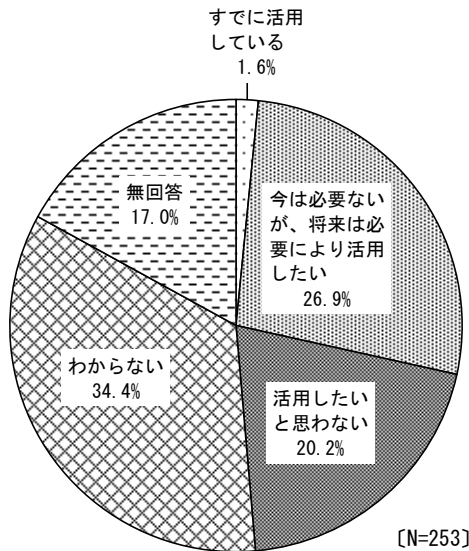
問 26 障がいや高齢化等により判断が十分でない人の権利を守る「成年後見制度」を知っていますか。(1つに○)



「成年後見制度」の周知は、「言葉も内容も知らない」が 32.8%、「言葉を聞いたことはあるが、内容は知らない」が 31.6%、「言葉も内容も知っている」が 23.3%となっています。

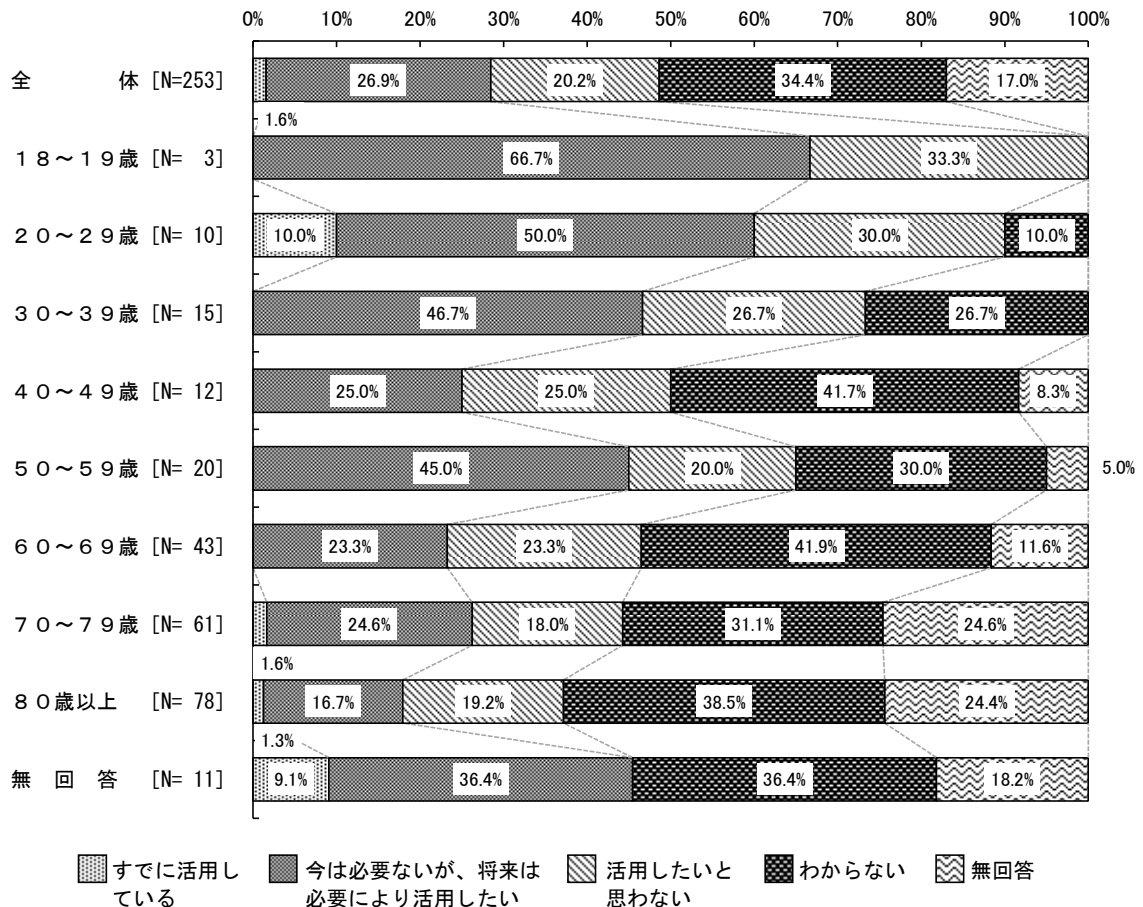
## 2) 「成年後見制度」の活用の有無

問 27 成年後見制度を活用したいと思いますか。(1つに○)



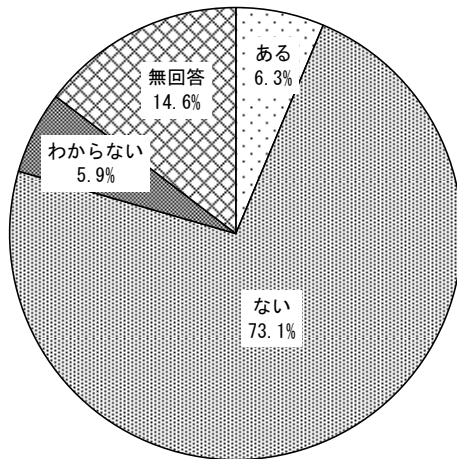
「成年後見制度」の活用の有無は、「わからない」が34.4%、「今は必要ないが、将来は必要により活用したい」が26.9%、「活用したいと思わない」が20.2%、となっています。

### 【「成年後見制度」の活用の有無×年齢別】



### 3) 虐待を受けたと感じたことがあるか

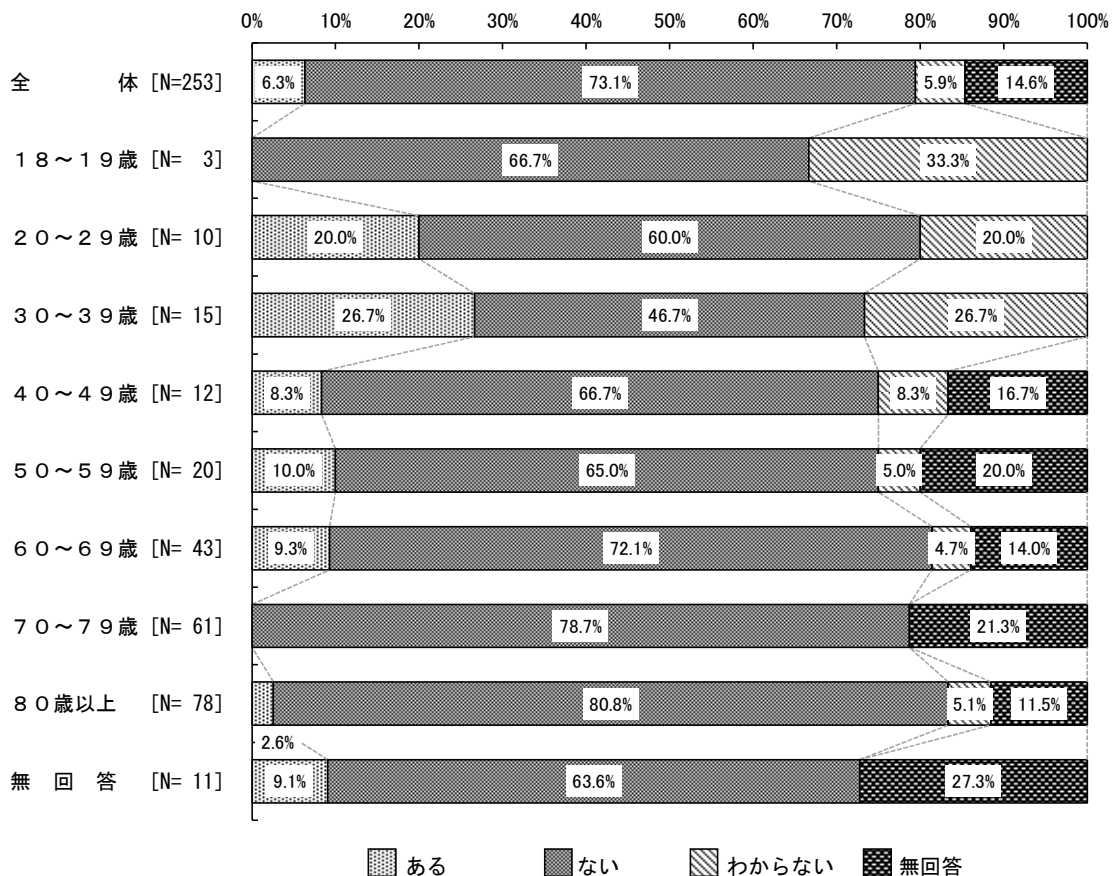
問 28 これまでに虐待を受けたと感じたことはありますか。(1つに○)



虐待を受けたと感じたことがあるかは、「ない」が73.1%、「ある」が6.3%、「わからない」が5.9%となっています。

[N=253]

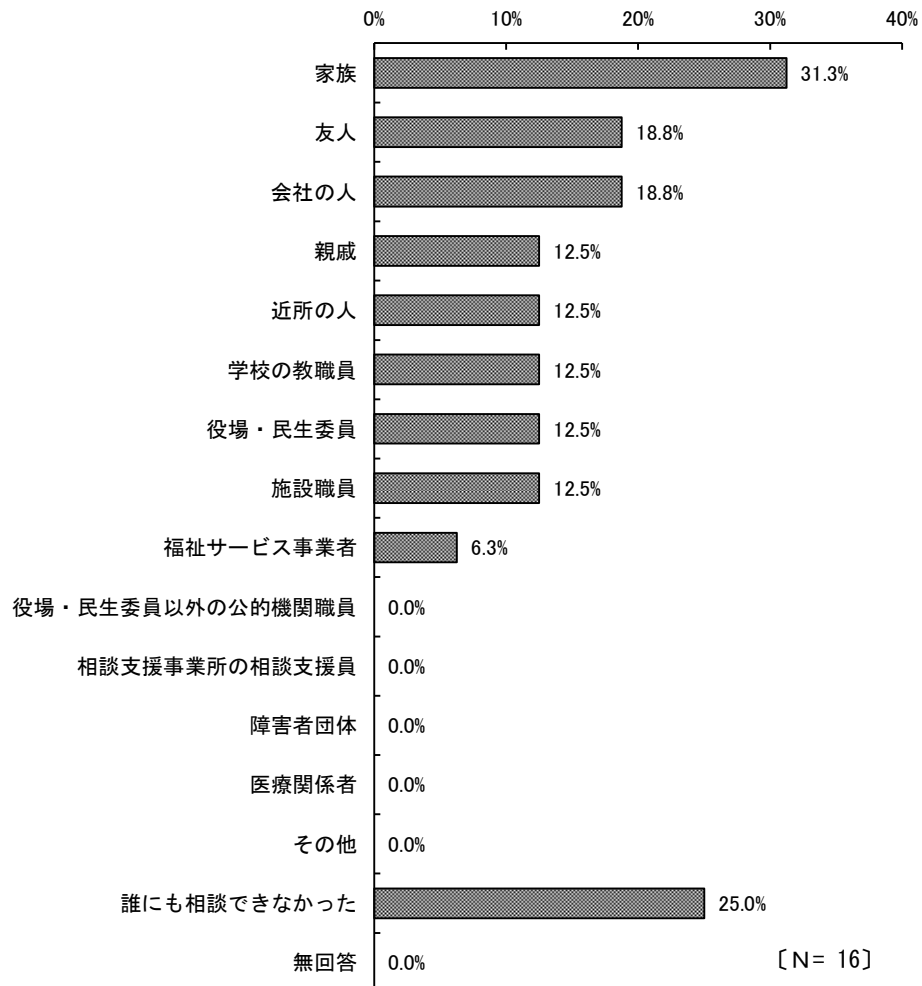
#### 【「成年後見制度」の活用の有無×年齢別】



①虐待を受けた時に相談した人または場所

★問 28 で「1. ある」と回答した方にうかがいます。

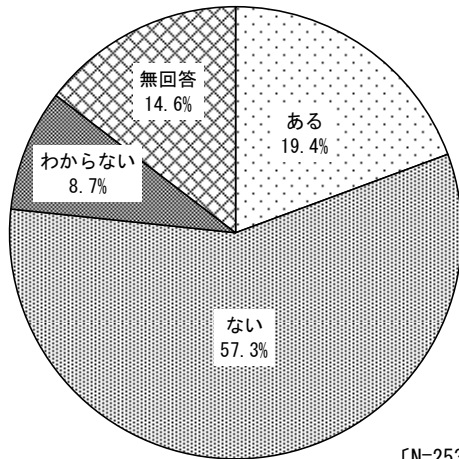
問 28-1 虐待を受けたとき、誰またはどんなところに相談しましたか。  
(あてはまるものすべてに○)



虐待を受けた時に相談した人または場所は、「家族」が 31.3%で最も高く、次いで「誰にも相談できなかった」(25.0%)、「友人」、「会社の人」(共に 18.8%)の順となっています。

#### 4) 周囲からの理解や配慮

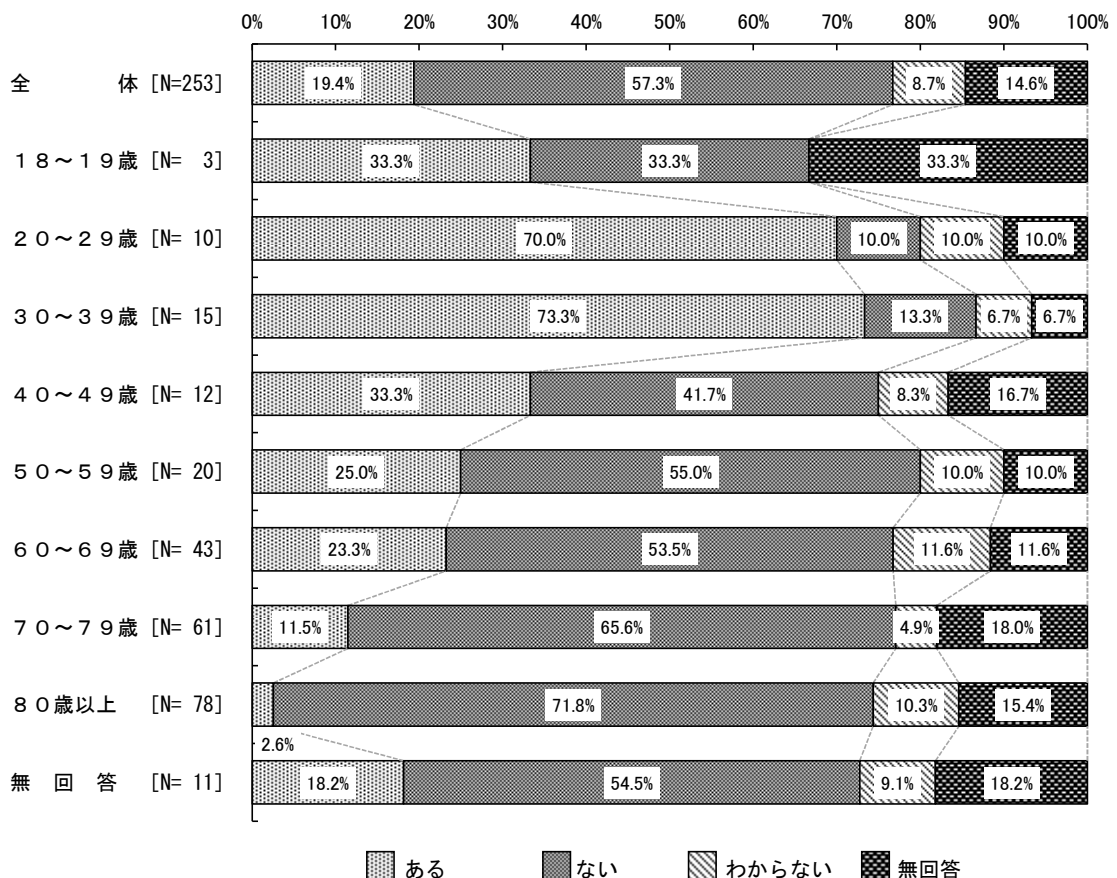
問 29 これまでに障がいや病気を理由として周囲からの理解や配慮が感じられなかったことはありますか。(1つに○)



[N=253]

周囲からの理解や配慮は、感じられなかったことは「ない」が 57.3%、「ある」が 19.4%、「わからない」が 8.7%となっています。

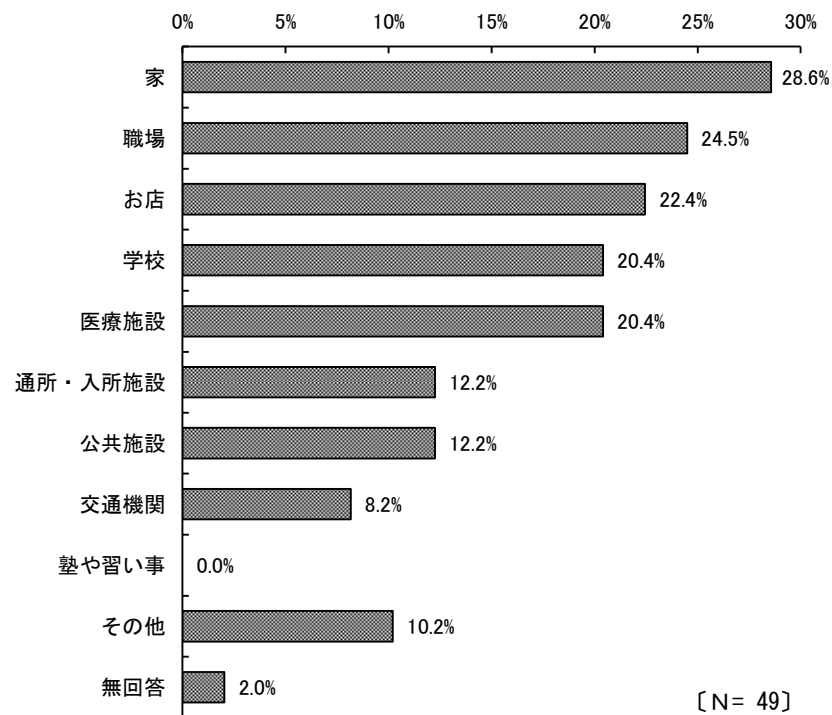
#### 【周囲からの理解や配慮×年齢別】



★問 29 で「1. ある」と回答した方にかがいます。

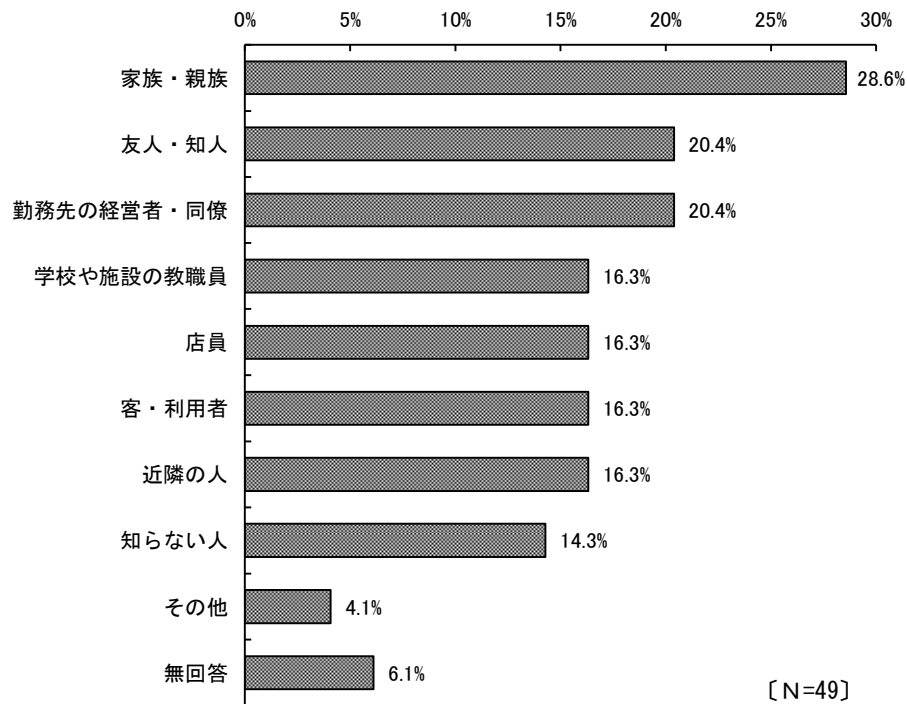
問 29-1 ①どこで、②誰から、③どんなことでしたか。(あてはまるものすべてに○)

①理解や配慮が感じられなかった場所



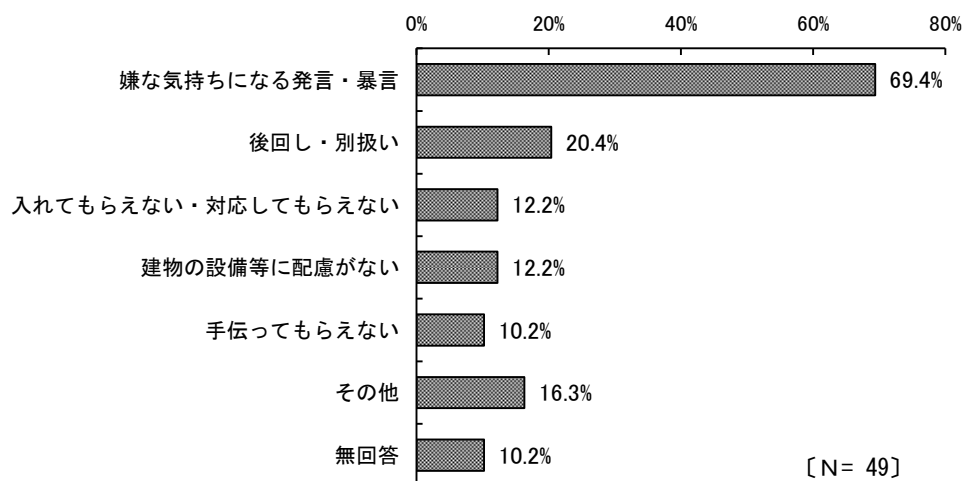
理解や配慮が感じられなかった場所は、「家」が 28.6%で最も高く、次いで「職場」(24.5%)、「お店」(22.4%)、「学校」、「医療施設」(共に 20.4%) の順となっています。

## ②理解や配慮が感じられなかった人



理解や配慮が感じられなかった人は、「家族・親族」が28.6%で最も高く、次いで「友人・知人」、「勤務先の経営者・同僚」（共に20.4%）の順となっています。

## ③理解や配慮が感じられなかったこと

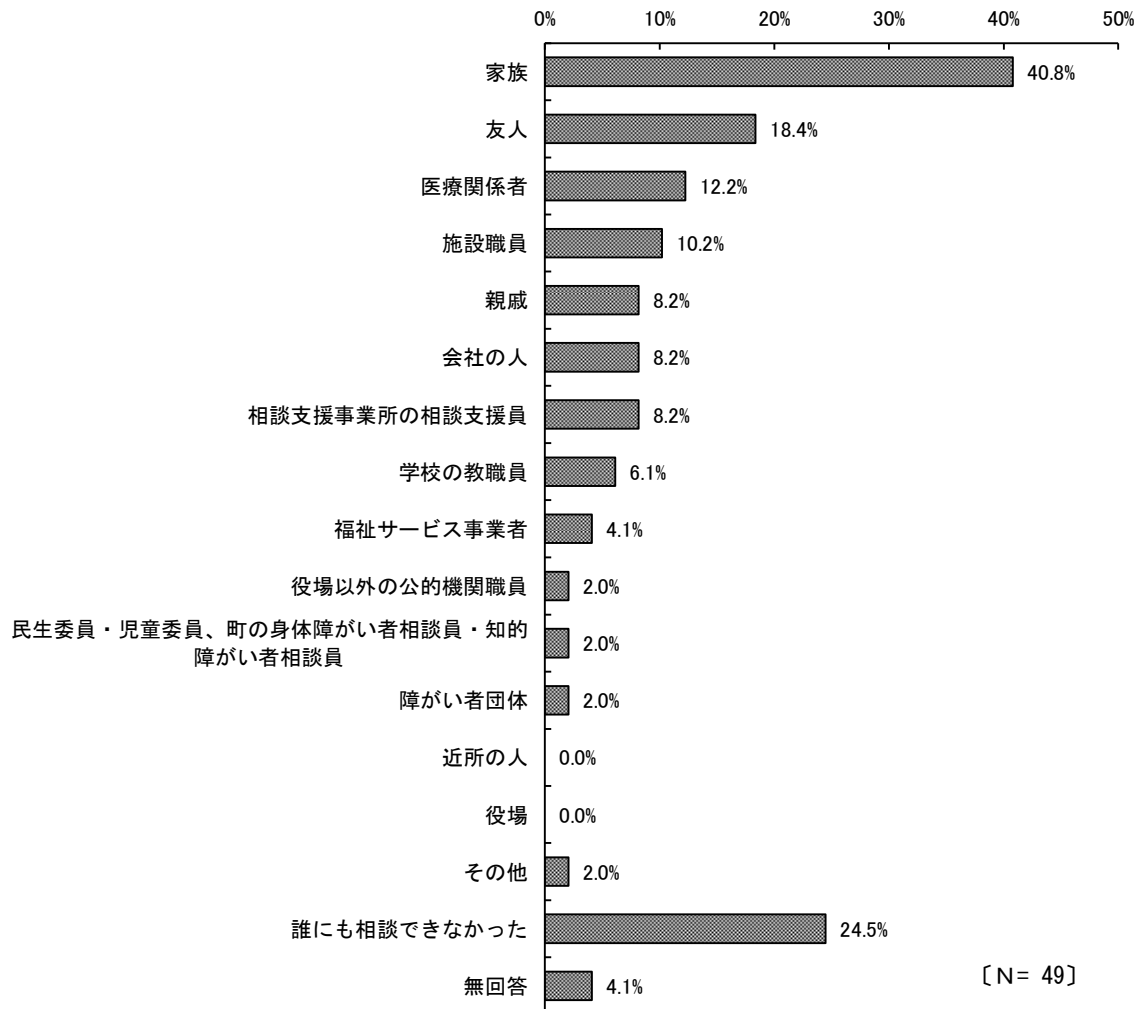


理解や配慮が感じられなかったことは、「嫌な気持ちになる発言・暴言」が69.4%で最も高く、次いで「後回し・別扱い」（20.4%）、「入れてもらえない・対応してもらえない」、「建物の設備等に配慮がない」（共に12.2%）の順となっています。

④相談した人または場所

★問 29 で「1. ある」と回答した方にうかがいます。

問 29-2 誰またはどんなところに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)



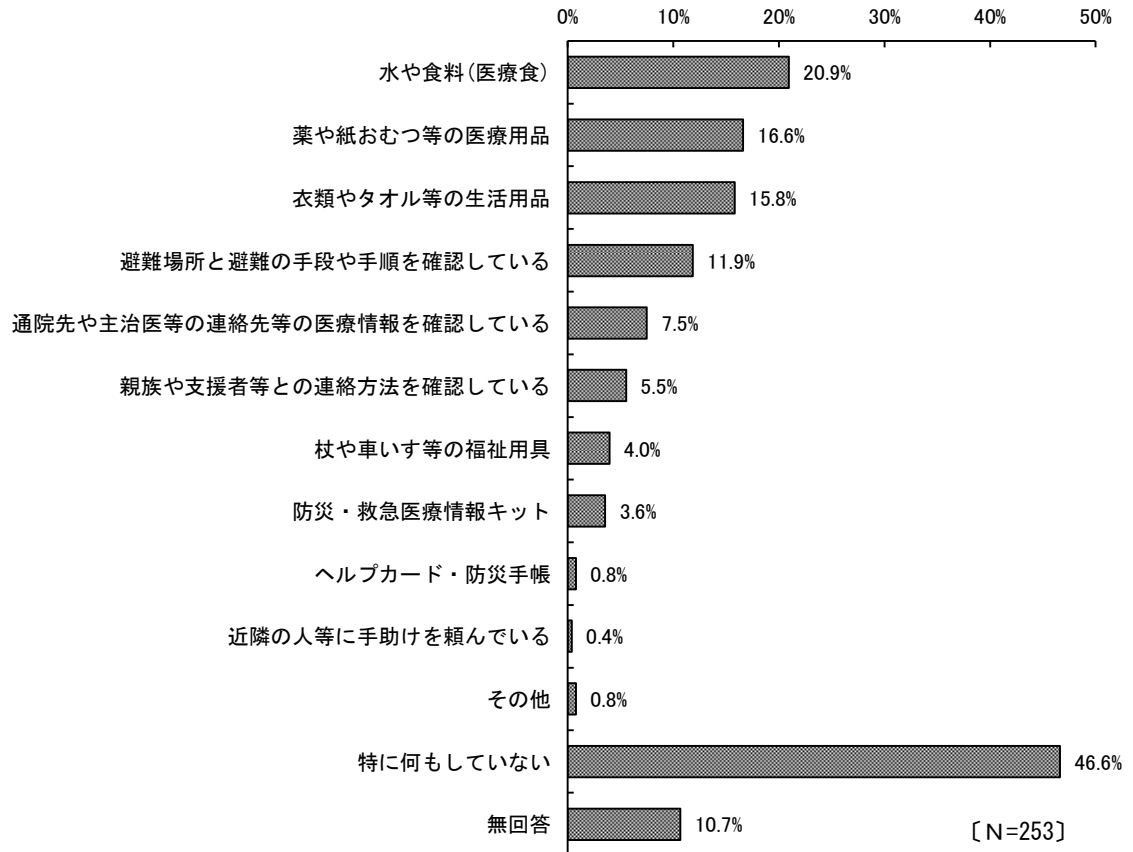
相談した人または場所は、「家族」が 40.8%で最も高く、次いで「誰にも相談できなかった」(24.5%)、「友人」(18.4%)、「医療関係者」(12.2%)の順となっています。



(9) 災害時のことについて

1) 災害に備えて準備しているもの

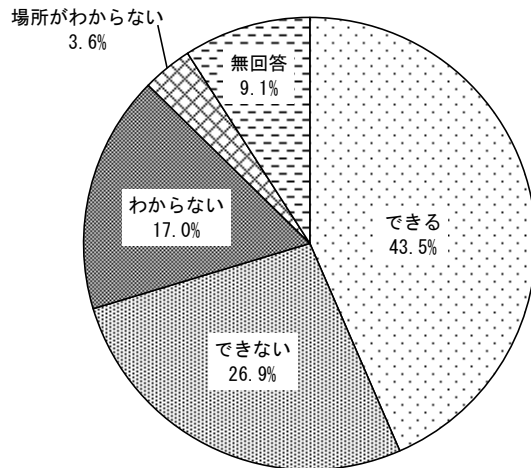
問 30 災害が起こった時に備え、準備しているものはありますか。  
(あてはまるものすべてに○)



災害に備えて準備しているものは、「特に何もしていない」が46.6%で最も高く、次いで「水や食料(医療食)」(20.9%)、「薬や紙おむつ等の医療用品」(16.6%)、「衣類やタオル等の生活用品」(15.8%)の順となっています。

## 2) 1人で避難所に避難できるか

問 31 あなたは、1人で避難所に避難できますか。(1つに○)

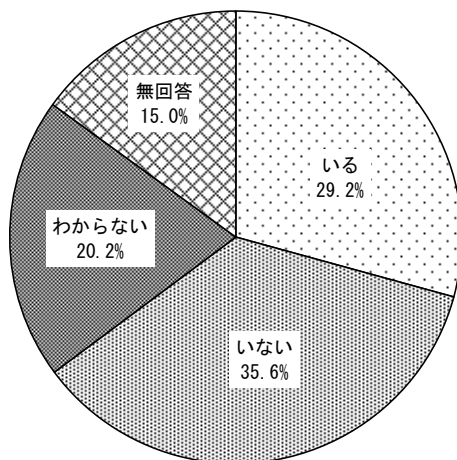


1人で避難所に避難できるかは、「できる」が43.5%、「できない」が26.9%、「わからない」が17.0%となっています。

[N=253]

## 3) 近所に支援してくれる人がいるか

問 32 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなたの支援をしてくれる人はいますか。(1つに○)

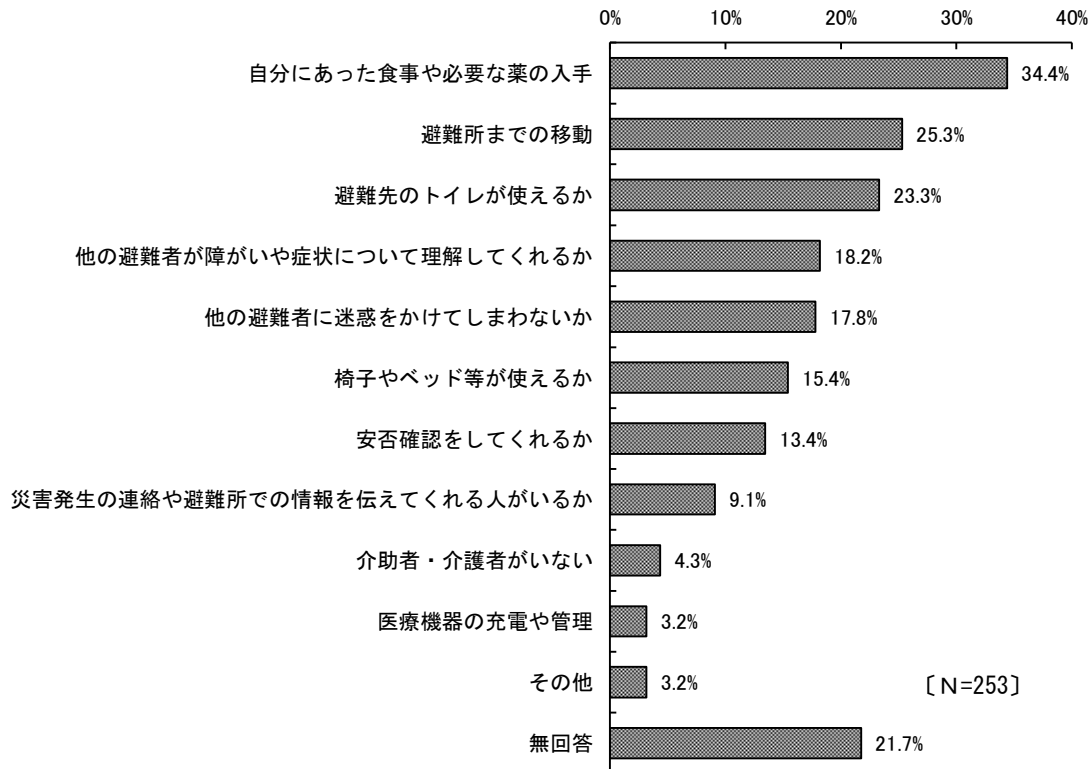


近所に支援してくれる人がいるかは、「いない」が35.6%、「いる」が29.2%、「わからない」が20.2%となっています。

[N=253]

#### 4) 避難所での生活に感じる不安

問 33 あなたが、災害発生時や避難所での生活で不安に感じることは、何ですか。  
(あてはまるもの3つにまで○)

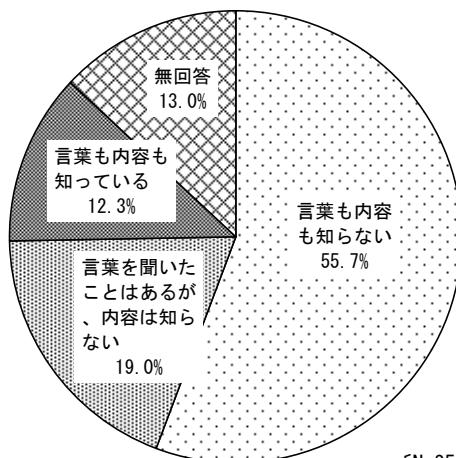


避難所での生活に感じる不安は、「自分にあつた食事や必要な薬の入手」が34.4%で最も高く、次いで「避難所までの移動」(25.3%)、「避難先のトイレが使えるか」(23.3%)、「他の避難者が障がいや症状について理解してくれるか」(18.2%)の順となっています。(「無回答」を除きます。)

#### (10) 障がい者のための取り組みについて

##### 1) 「障害者差別解消法」の周知

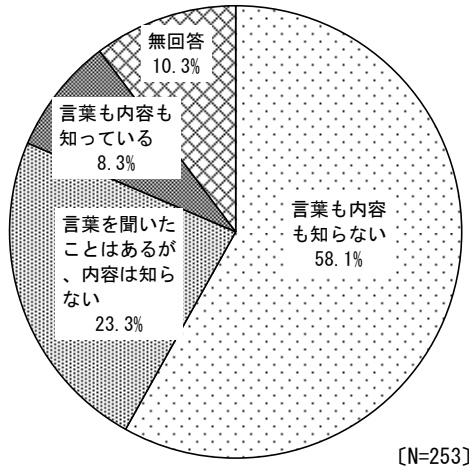
問 34 あなたは「障害者差別解消法」についてご存じですか。(1つに○)



「障害者差別解消法」の周知は、「言葉も内容も知らない」が55.7%、「言葉を聞いたことはあるが、内容は知らない」が19.0%、「言葉も内容も知っている」が12.3%となっています。

## 2) 「庄内町障がいのある人もない人も共に生きるまちづくり条例」の周知

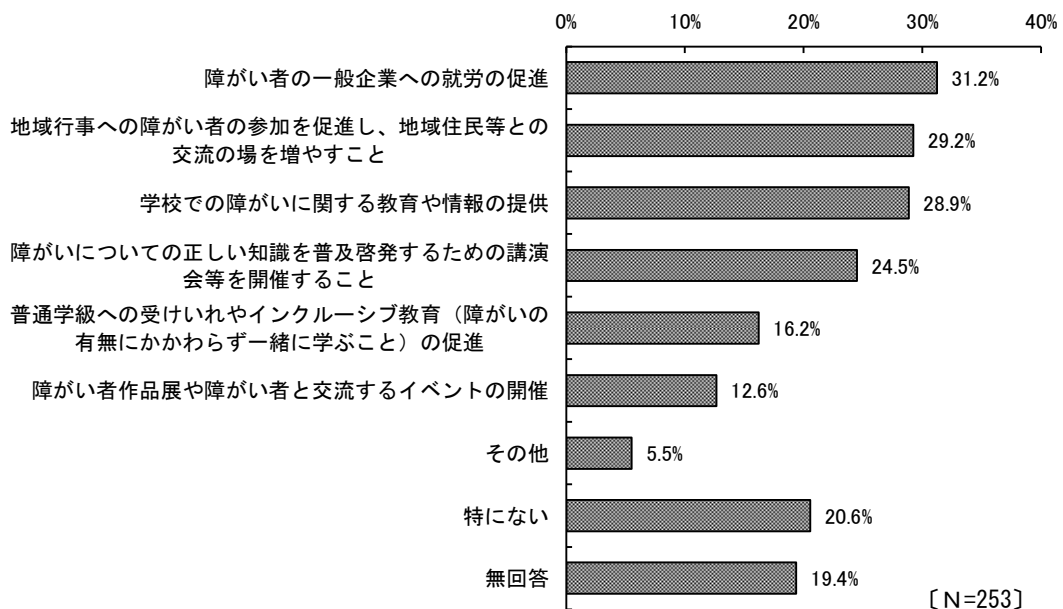
問 35 あなたは「庄内町障がいのある人もない人も共に生きるまちづくり条例」についてご存じですか。(1つに○)



庄内町障がいのある人もない人も共に生きるまちづくり条例」の周知は、「言葉も内容も知らない」が58.1%、「言葉を聞いたことはあるが、内容は知らない」が23.3%、「言葉も内容も知っている」が8.3%となっています。

## 3) 共生社会をめざすために町が力を入れるべきこと

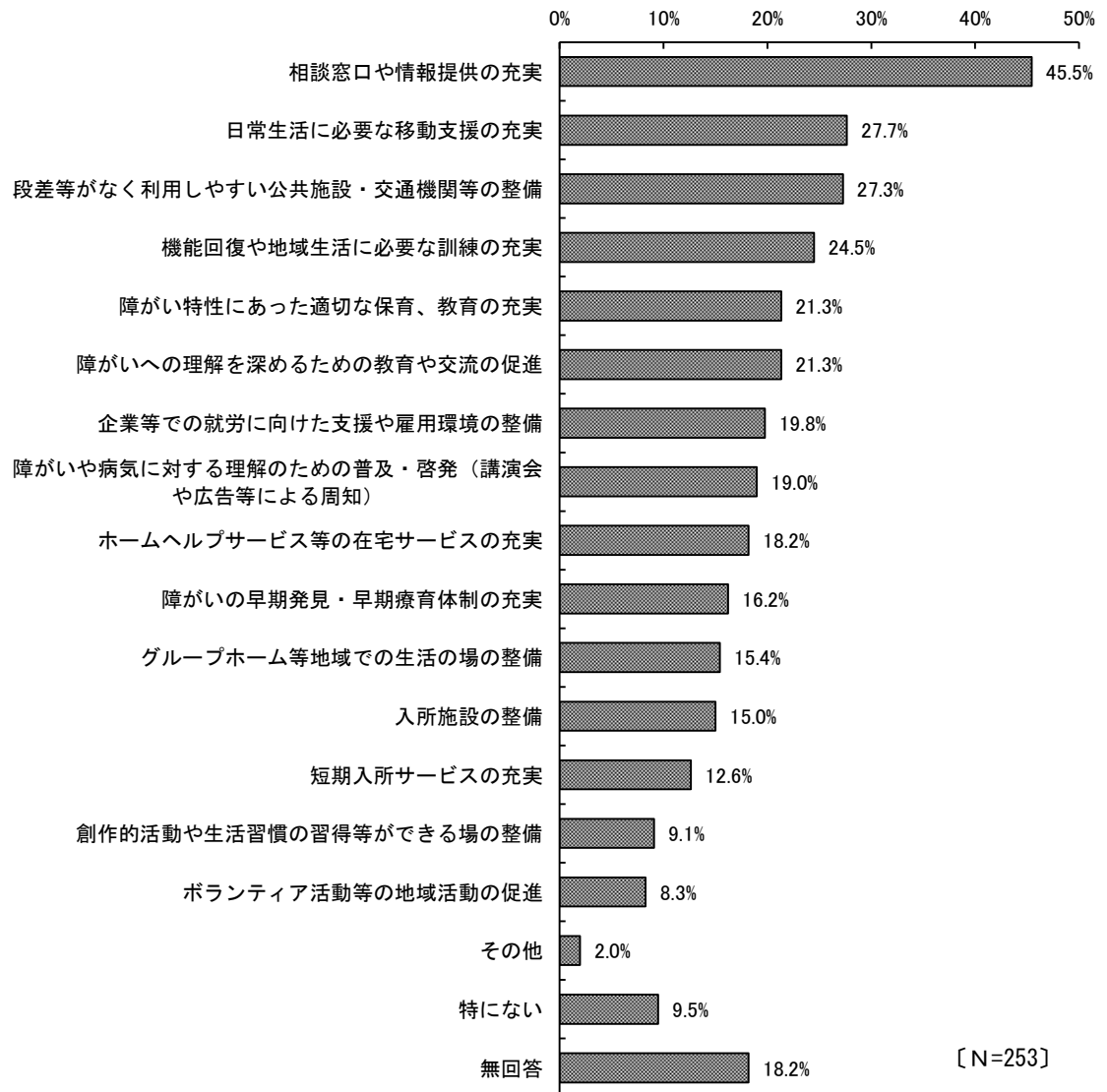
問 36 障がいのある人もない人も共に地域で生活できるような共生社会をめざすために町が力を入れるべきことは何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)



共生社会をめざすために町が力を入れるべきことは、「障がい者の一般企業への就労の促進」が31.2%で最も高く、次いで「地域行事への障がい者の参加を促進し、地域住民等との交流の場を増やすこと」（29.2%）、「学校での障がいに関する教育や情報の提供」（28.9%）、「障がいについての正しい知識を普及啓発するための講演会等を開催すること」（24.5%）の順となっています。

#### 4) 障がい者が地域で自立して生活を送るために重要な取り組み

問 37 障がい者が地域で自立して生活を送るために、重要と思う取り組みは何ですか。  
(あてはまるものすべてに○)



障がい者が地域で自立して生活を送るために重要な取り組みは、「相談窓口や情報提供の充実」が45.5%で最も高く、次いで「日常生活に必要な移動支援の充実」(27.7%)、「段差等がなく利用しやすい公共施設・交通機関等の整備」(27.3%)、「機能回復や地域生活に必要な訓練の充実」(24.5%)、「障がい特性にあった適切な保育、教育の充実」、「障がいへの理解を深めるための教育や交流の促進」(共に21.3%)の順となっています。

【障がい者が地域で自立して生活を送るために重要な取り組み×年齢別】

	調査数	1 相談窓口 や情報提 供の充実	2 機能回復 や地域生 活に必要な 訓練の充 実	3 創作的活 動や生活 習慣の習 得等がで きる場の 整備	4 ホームヘ ルプサー ビス等の 在宅サー ビスの充 実	5 日常生活 に必要な 移動支援 の充実	6 グループ ホーム等 地域での 生活の場 の整備	7 短期入所 サービスの 充実	8 入所施設 の整備	9 障がいの 早期発見 ・早期療 育体制の 充実
全 体	253	45.5%	24.5%	9.1%	18.2%	27.7%	15.4%	12.6%	15.0%	16.2%
18～19歳	3	100.0%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	66.7%	66.7%	66.7%	33.3%
20～29歳	10	60.0%	20.0%	0.0%	20.0%	20.0%	30.0%	0.0%	10.0%	20.0%
30～39歳	15	40.0%	40.0%	6.7%	26.7%	40.0%	33.3%	26.7%	33.3%	40.0%
40～49歳	12	66.7%	8.3%	8.3%	16.7%	41.7%	0.0%	8.3%	16.7%	25.0%
50～59歳	20	50.0%	50.0%	10.0%	20.0%	45.0%	20.0%	5.0%	5.0%	30.0%
60～69歳	43	46.5%	18.6%	11.6%	18.6%	30.2%	11.6%	11.6%	14.0%	18.6%
70～79歳	61	42.6%	21.3%	8.2%	11.5%	16.4%	8.2%	6.6%	13.1%	3.3%
80歳以上	78	39.7%	25.6%	10.3%	23.1%	26.9%	17.9%	19.2%	15.4%	16.7%
無 回 答	11	45.5%	18.2%	0.0%	9.1%	27.3%	9.1%	0.0%	9.1%	0.0%

上段：件数 下段：構成比

	10 障がい特 性にあっ た適切な 保育、教 育の充実	11 企業等 での就労 に向けた 支援や雇 用環境の 整備	12 ボランテ ィア活動 等の地域 活動の促 進	13 段差等が なく利用 しやすい 公共施設 ・交通機 関等の整 備	14 障がいへ の理解を 深めるた めの教育 や交流の 促進	15 障がいや 病気に対 する理解 のための 普及・啓 発（講演 会や広告 等による 周知）	16 その他	17 特にな い	無回答
全 体	21.3%	19.8%	8.3%	27.3%	21.3%	19.0%	2.0%	9.5%	18.2%
18～19歳	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	66.7%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%
20～29歳	80.0%	60.0%	10.0%	10.0%	40.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30～39歳	46.7%	26.7%	26.7%	53.3%	66.7%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%
40～49歳	16.7%	33.3%	0.0%	0.0%	16.7%	33.3%	0.0%	0.0%	8.3%
50～59歳	30.0%	40.0%	10.0%	35.0%	35.0%	30.0%	15.0%	0.0%	10.0%
60～69歳	14.0%	20.9%	9.3%	25.6%	16.3%	16.3%	0.0%	14.0%	16.3%
70～79歳	16.4%	13.1%	3.3%	29.5%	9.8%	4.9%	0.0%	16.4%	26.2%
80歳以上	15.4%	11.5%	9.0%	28.2%	19.2%	19.2%	2.6%	10.3%	20.5%
無 回 答	9.1%	18.2%	0.0%	18.2%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	36.4%

## (11) 意見・要望について

- ・実のある社会福祉、実行のある対応を願う。[男性・無回答・身体障害者手帳]
- ・心臓に障がいがあり疲れやすい体だ。障がい者年金を申請しても、認定してもらえない。人によって認定が違うように思う。町からも国へ要望を上げてもらいたい。[男性・20～29歳・身体障害者手帳]
- ・家の近くから乗れる「町のバス」がほしい [男性・80歳以上・身体障害者手帳]
- ・庄内町に生まれ、金銭、経済的には大変お世話になっているが、保育園には通ったが鶴岡養護施設を卒業し、今は他町の事業所に通っている。今後は入所することになるが、やはり他市町にお世話になるしかない。希望すれば、全て庄内町で生活できるような環境になるとありがたい。[女性・30～39歳・身体障害者手帳,療育手帳]
- ・車椅子のないお店がまだまだあり残念に思う。障がい者用のトイレも少なく、健常者が使用している場合などがあり困ることもある。[女性・50～59歳・身体障害者手帳]
- ・舗装具購入の補助を受けている者だが、申請に窓口に行かなくてはならないのだが、電話での申請ではダメか。一生元に戻ることはできなく、今後高齢になるにつれ、自分で行けなくなった場合のことを考えた場合。現在申請から承認書が届くまで10日間から2週間くらいかかっているが、もっと短期間にはならないか。[女性・60～69歳・身体障害者手帳]
- ・老人福祉センターの中に椅子を取り入れてほしい。正座のできない身体障がい者の集まり（行事）のときに大変不便を感じている。なるべく早く用意してもらいたい。老人福祉センターを土曜日と日曜日也可以使用できるようにしてほしい。特に4月5月の花見のとき、天気の良い日室内でお花見ができればありがたい。部落に老人クラブも百歳体操もなく、公民館に集まる機会がないので、老人の集まる計画を考えてほしい。子供たちは村の人と会うと挨拶してくれるが、大人同士の挨拶ができていないのは寂しい。民生委員は一人暮らしや高齢者の見守りをしてほしい。声かけもしてほしいと思う。[女性・80歳以上・身体障害者手帳]
- ・公共交通機関が充実していないと、働きたくても移動手段がないことで、就労をあきらめなくてはならないということがあると思う。町では高齢者向けの交通手段をメインに考えているようだが、働きたい障がい者の多くも交通弱者であることを考えていただきたい。[男性・20～29歳・療育手帳]
- ・自分が相談できる場所が庄内町役場の福祉協議会しかなく、悩み事、障がい者・精神障がいの手帳を申請する場所が限られているので、もう少し活動できる箇所を増やしてほしいと考える。[男性・30～39歳・療育手帳]
- ・庄内町は広いので、障がい者と一般の人とイベントができる場所を使って、交流会みたいにできたらいいと思う。[男性・30～39歳・療育手帳]
- ・まだまだ障がい者を理解していないところもあるし、障がい者の立場としてはすごく不安になることもあるし、冷たい目で見られ辛いときもある。障がい者のための雇用がもう少し良くなると良いのだが、庄内町にも障がい者のための作業所がもっとあると良いと思う。A型が少ないのもっとあれば良いと思う。[女性・50～59歳・療育手帳]

- ・病院、役場、介護施設を通じ、まだまだたくさんの面で力を入れてほしいと感じるこの頃である。[女性・40～49歳・精神障害者保健福祉手帳]
- ・障がい重い子供に、うつ病を持つ父親。これから義母も認知症が始まりそうな予想。全てに関して八方塞がり逃げ道がないような気持ちになり、気落ちし不安も出て自分も心療内科に通院はしている。親の会には入ってたまに会ったり、催しに参加するのは少し安心を得たり気晴らしができていい。先のことを考えて育てる、生活をするということもわかるがなかなか。日々が、毎日が精一杯の手いっぱい、嬉しい、笑うなど明るい感情が年々減ってきていると思う。でもこれも考えても仕方ない。日々精いっぱい生きるだけ。[男性・18～19歳・療育手帳]
- ・作業所の指導員のパワハラはないのか疑問。親が高齢になったら子供の将来が心配。相談する施設が少ないので困る。庄内町ではどこに相談すればよいかわからない。[女性・70～79歳・療育手帳]
- ・私は今グループホームに入所しているが、現実には家があり私に家族がいないためなかなか家に帰れない。いったいつ帰れるのかとても不安。[男性・50～59歳・精神障害者保健福祉手帳]
- ・病気を持っていない方々だと、本当に20年以上悩み続けている人たちの気持ちを理解するのは難しいと思う。[女性・無回答・精神障害者保健福祉手帳]
- ・あれくれ、これくれではなく、自立するプライド、意志を持った個人としての自覚覚悟の育成。[男性・70～79歳・身体障害者手帳]
- ・障がい者だからといって、特別扱いすることなく、本人にとって必要最低限度の対応を望む。現状維持で満足。[男性・80歳以上・身体障害者手帳]
- ・もっと自分も勉強しなければと思う [女性・60～69歳・身体障害者手帳]
- ・庄内町の就労施設の工賃アップの取り組みをお願いしたい。山形県は全国でも一番低い県、その中でも庄内町は、施設により差はあると思われるが低い。労働に見合った対価を。[男性・20～29歳・身体障害者手帳,療育手帳]
- ・現在、なんとか働いているが、パソコン操作が苦手な私は毎日大変である。コロナ以来、その日その日で在宅ワークの人もおり、朝礼でさえもT e a m sで行う。業務連絡も報告等もチャットやパソコンに入力している。定年になっても毎日学ぶことが沢山ある。実際、毎日通勤するのも容易なことではない。できることなら、就職を希望するのであれば、パソコン知識は必要だと思う。在宅ワークも可能となるように。[女性・60～69歳・身体障害者手帳]
- ・少しでも福祉の輪を広げたら良いと思い、自分の人生の残り年齢的に高齢になってきた。何か人のために役に立ちたいと思い、今現在ボランティア活動をしている。ちょっとした気持ちで心が温かな気持ちになる。障がい者になりたくてなったわけではないので、急に体の変化で障がい者に何が起きるかわからないものだ。お互い様の気持ちで生活していこうと思う。[男性・70～79歳・身体障害者手帳]
- ・災害時の避難について、山形県は災害が少ないのでみんな真剣さがないと思う。自分は歩けないので最低限度のリュックは準備しても背負えないし、避難所に行っても下に座れないし、歩行器がないと歩けないからどうなるのか心配。現在、病院の受診時はボラ



- ンティアの人に連れて行ってもらっている。[女性・80歳以上・身体障害者手帳]
- ・排便、歩行困難等になったらアンケートの回答が変わると思う。今のところ自活しているので以上のとおりである。[男性・80歳以上・身体障害者手帳]
  - ・満足している。特にない。[男性・80歳以上・身体障害者手帳]
  - ・障がいがあり相談に行った際「歩けますよね。そんなに重い病気じゃないですよね」と福祉課の人に言われ、すごく気分が悪くなった。歩けば障がいじゃないとでも言うのか。やっとの思いで歩いているし、いろんな障がいの人がいる。発言を気を付けてもっと寄り添ってほしいと思う。[男性・30～39歳・身体障害者手帳]
  - ・高齢者、障がい者が住めるバリアフリーの住宅、アパートの確保。障がい児者がいる家庭への支援、町からの声かけが少ない。本当に困っている障がい児者を育てる親を外側から判断せず、内側から相談に乗ってほしい。入浴サービスのある生活介護事業所を他市に任せるのではなく、庄内町で確保してほしい。親の高齢化をもっと重要視してほしい。アンケートを重度障がい児者だけのを作成してほしい。[男性・30～39歳・身体障害者手帳,療育手帳]
  - ・前よりも町の補助がなくなった。他の市町村よりも補助金の割合が少ない。役場の窓口の対応が悪い（特に男性）。タクシー券もなくなった。日常生活用具給付申請書のコピーもしてもらえなくなった。個人負担が増えた。非常に不満だ。[男性・60～69歳・身体障害者手帳]
  - ・以前のタクシー券はどうなったのか。なんの通知もなく終わりだろうか。40枚のタクシー券はありがたく頂いた。88歳になってこれから人生の終着まで2ヶ月に1回の酒田の病院までと思ったが、終わりでは諦めるしかないか。[男性・80歳以上・身体障害者手帳]
  - ・問37「2. 機能回復や地域生活に必要な訓練」のような支援が65歳未満だと何もなかった。とても不満だった。[女性・50～59歳・身体障害者手帳]
  - ・自分は普通に生活できて毎日仕事へも通っている。手帳を持っているというだけで重度障がい者と同等の扱いを受けるのはおかしい。大いに見直しが必要。手帳を持っているというだけでいろいろお金も取られる。払いたくない。送付されてくる用紙も不要。見直ししてほしい。[女性・60～69歳・身体障害者手帳]
  - ・障がいを持つ人には本人でないとわからないことが心身ともに多くある。アンケートを取ってくれるのはありがたいことだが、やはり一人ひとりの話を良く聴くことに尽きると思う。町の人たちの意識の違いもつらいことで多々あった。[女性・60～69歳・精神障害者保健福祉手帳]
  - ・部落自治会などの行事・作業等に不参加日当などの手数料を払わなければならない、大変なときがあるので、なんとかしてもらいたいときがある。[男性・60～69歳・身体障害者手帳]
  - ・このアンケートが少しでも今後の生活に活かされることを希望する。[女性・80歳以上・身体障害者手帳]
  - ・両股関節が人工関節のため、5年後10年後の自分がどうなっているか心配。障害者制度がより良くなることを期待している。障害者年金も全体的に還元されるようお願い

したい。私の場合、働いているために障害者年金は0円だ。[女性・70～79歳・身体障害者手帳]

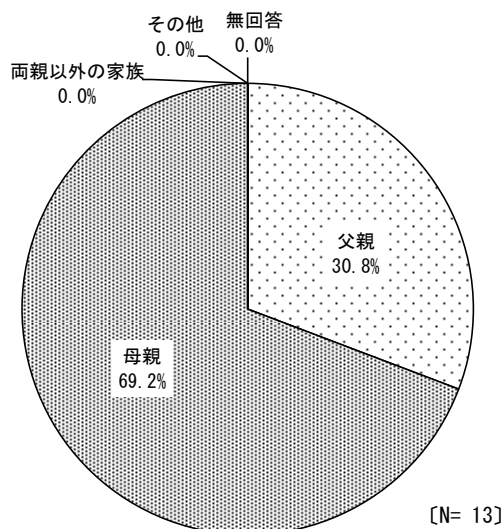
- ・重度の身体障がい（児）者医療証をいただいている。日本海病院で手術をした際に、町の対応で素早く退院することができ、今でも感謝している。[男性・80歳以上・身体障害者手帳]
- ・自分の手足が不自由になって初めて、やってほしい事とやってあげられる事が少しずつれていると思った。声かけのありがたさ、手すりのありがたさ。時間が経つにつれて治っていくものと思っていたが、これ以上は見込めないことがはっきりしてしまい心が折れた。努力を続ける力となれる言葉や協力者がほしい。今はリハビリの先生が頼り。いい先生と巡り会えた。同じ境遇の同じ年代の友は絶対ほしい。[女性・60～69歳・身体障害者手帳]
- ・県の査定により障がい者から除外されてからも、いまだにこのようなアンケートが来ることがおかしいと思うし、調査してみてもはどうだろうか。[男性・70～79歳・無回答]
- ・質問が多すぎる。字が小さすぎる。[男性・50～59歳・身体障害者手帳]
- ・これだけの設問に答えるのは大変だった。[女性・70～79歳・身体障害者手帳]

## 2. 障がい児（保護者）実態・意向調査

### (1) 保護者の方について

#### 1) 回答者

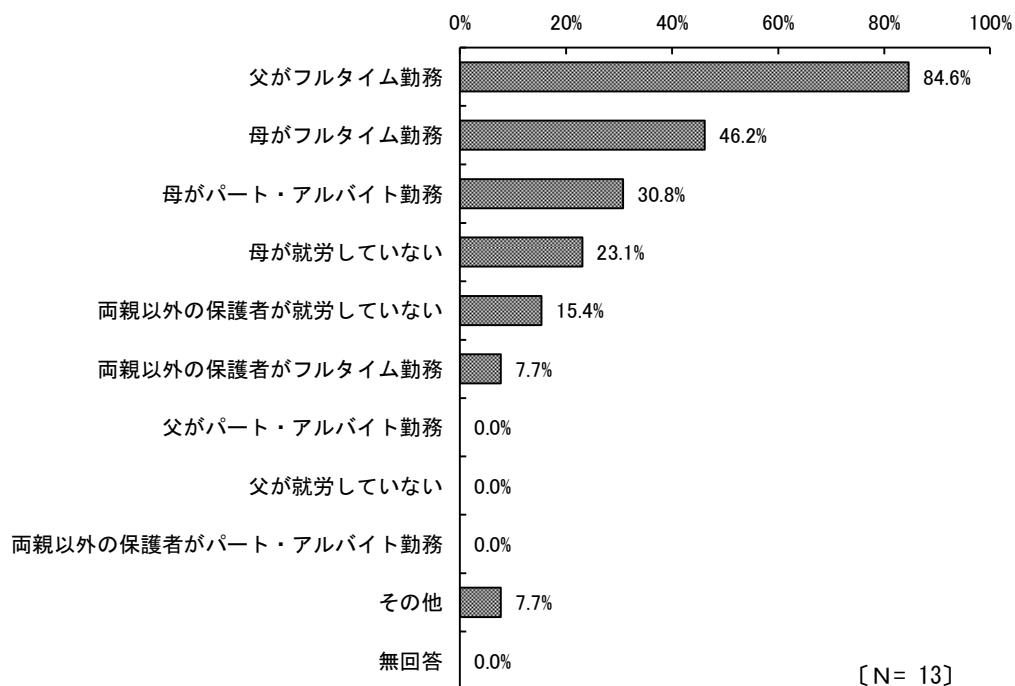
問1 この調査に回答していただく方は、どなたですか。（1つに○）



この調査の回答者は、「父親」が30.8%、「母親」が69.2%となっています。

#### 2) 保護者の就労状況

問2 お子さんの保護者の方の就労状況を教えてください。  
(あてはまるものすべてに○)

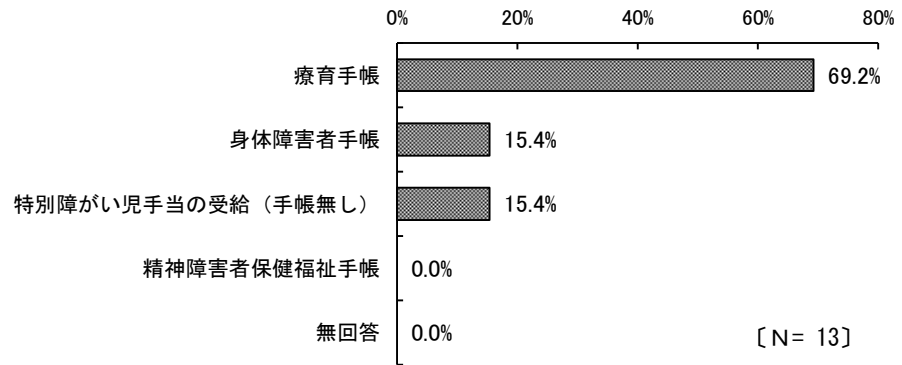


保護者の就労状況は、「父がフルタイム勤務」が84.6%で最も高く、次いで「母がフルタイム勤務」（46.2%）、「母がパート・アルバイト勤務」（30.8%）、「母が就労していない」（23.1%）の順となっています。

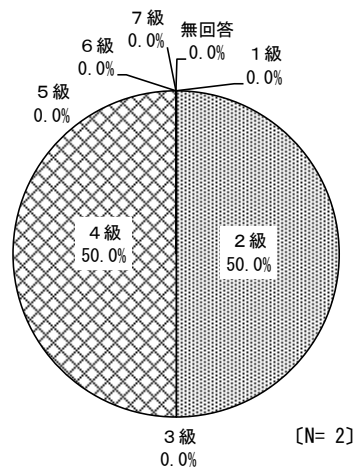
(2) 子どものことについて

1) 持っている障がい者手帳及び障がいの程度

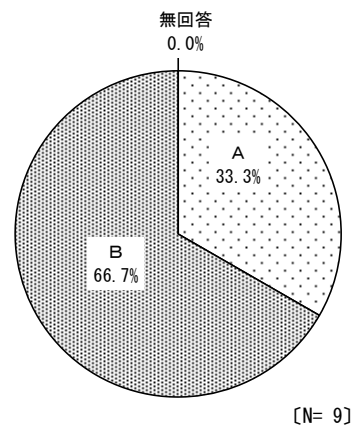
問4 お子さんがお持ちの障がい者手帳、障がいの程度を記入してください。  
(あてはまるものすべてに○)



【身体障害者手帳】



【療育手帳】



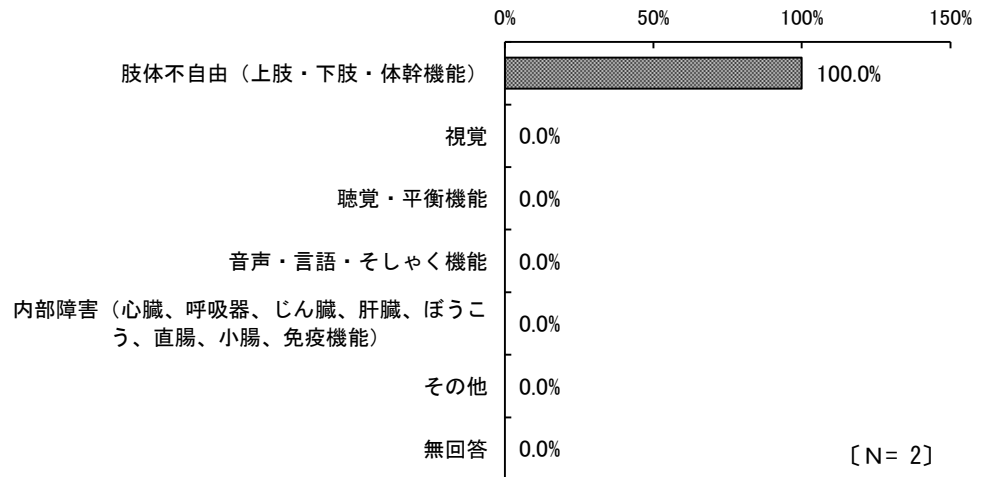
持っている障害者手帳は、「療育手帳」が69.2%で最も高く、次いで「身体障害者手帳」、「特別障がい児手当の受給(手帳無し)」(共に15.4%)の順となっています。また、「精神障害者保健福祉手帳」を所持している方はいませんでした。

障がいの程度は、身体障害者手帳では「2級」、「4級」が共に50.0%となっています。療育手帳では「B」が66.7%、「A」が33.3%となっています。

## ①主な障がいの部位

★問4で「1. 身体障害者手帳」と回答した方にかがいます。

問4-1 主な障がいの部位はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

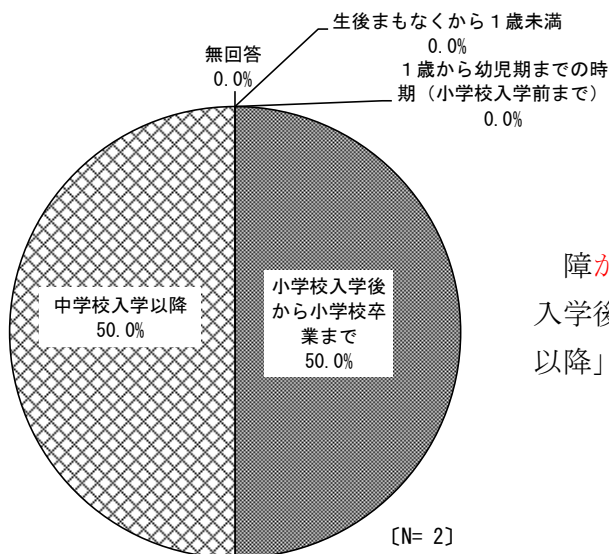


主な障がいの部位は、「肢体不自由 (上肢・下肢・体幹機能)」が 100.0% となっています。

## 2) 障がい者手帳交付時期

★障がい者手帳をお持ちのお子さんにかがいます。

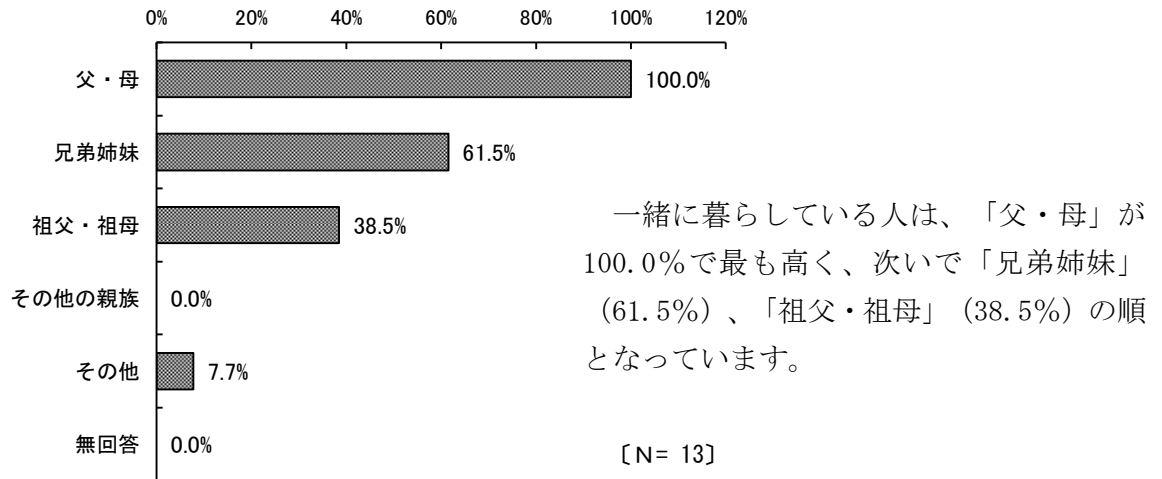
問5 障がい者手帳をはじめて交付されたのはいつですか。(1つに○)



障がい者手帳の交付の時期は、「小学校入学後から小学校卒業まで」、「中学校入学以降」が共に 50.0% となっています。

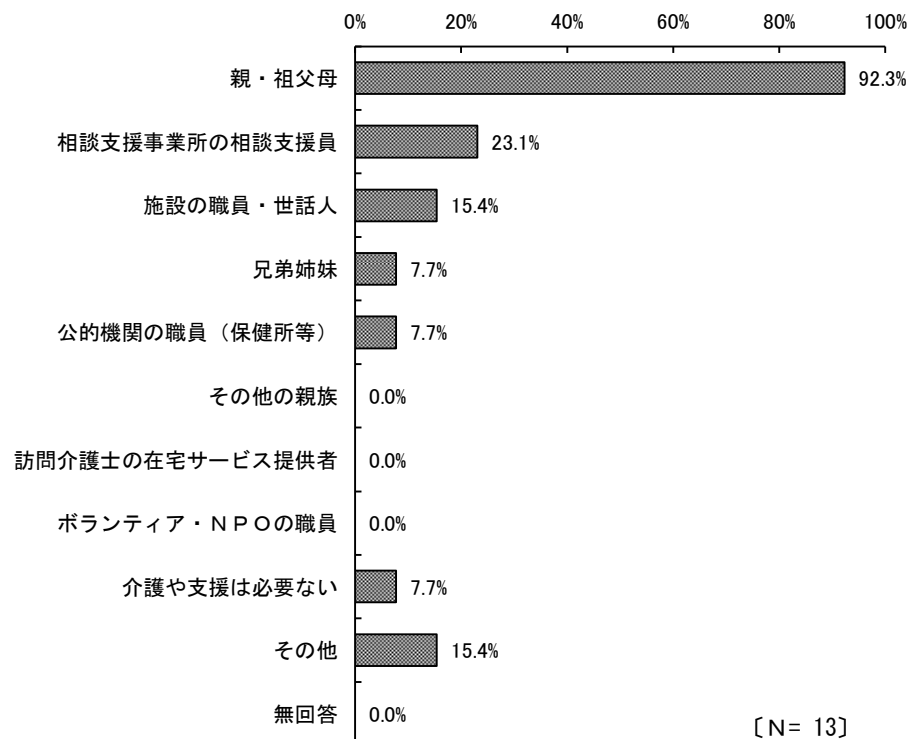
### 3) 一緒に暮らしている人

問6 お子さんはどなたと一緒に暮らしていますか。(あてはまるものすべてに○)



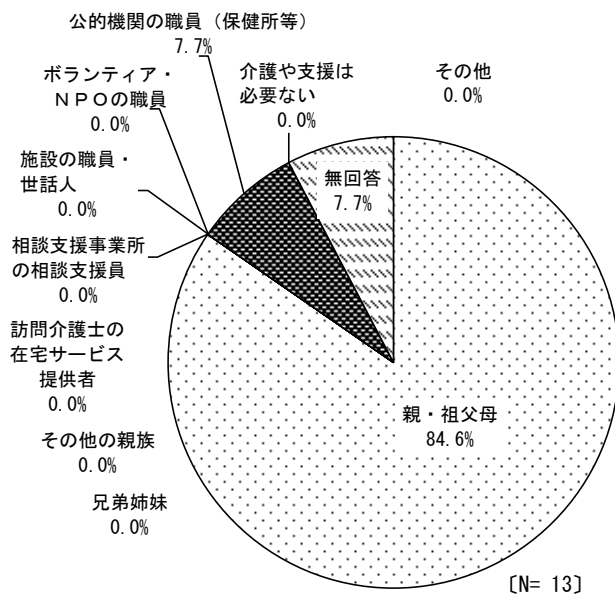
### 4) 介護や支援をしている人

問7 お子さんの介護や支援をしている人はどなたですか。  
(あてはまるものすべてに○、そのうち主に介護や支援をしている人の番号をご記入ください。)



介護や支援をしている人は、「親・祖父母」が92.3%で最も高く、次いで「相談支援事業所の相談支援員」(23.1%)、「施設の職員・世話人」、「その他」(共に15.4%)の順となっています。

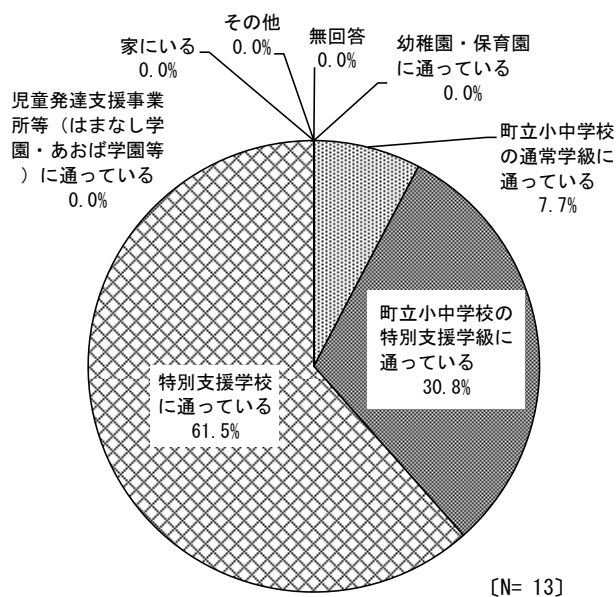
## 5) 主に介護や支援をしている人



主に介護や支援をしている人は、「親・祖父母」が84.6%、「公的機関の職員（保健所等）」が7.7%となっています。

## 6) 平日の日中の過ごし方

問8 お子さんは、平日の日中、主にどのように過ごしていますか。（1つに○）

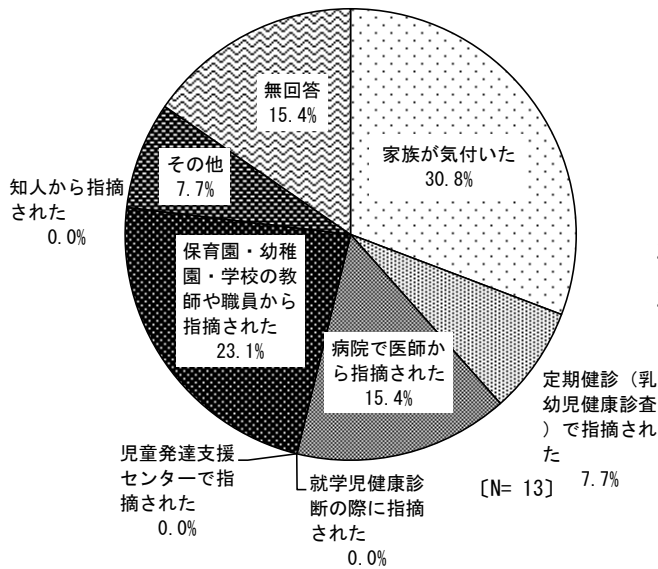


平日の日中の過ごし方は、「特別支援学校に通っている」が61.5%、「町立小中学校の特別支援学級に通っている」が30.8%、「町立小中学校の通常学級に通っている」が7.7%となっています。

(3) 発達の不安や障がい気付いたときについて

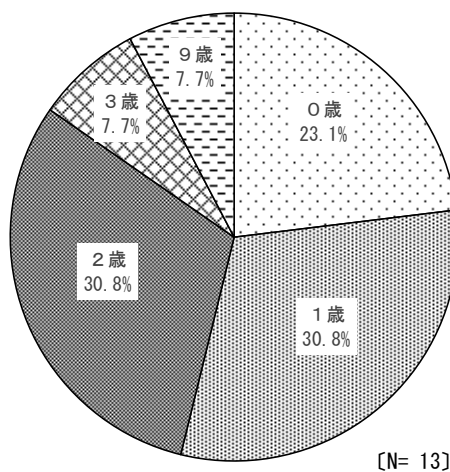
1) 発達の不安や障がい気付いたきっかけ

問9 お子さんの発達の不安や障がい気付いたきっかけは何ですか。(1つに○)  
また、それはいつごろですか。年齢を記入してください。



発達の不安や障がい気付いたきっかけは、「家族が気付いた」が30.8%、「保育園・幼稚園・学校の教師や職員から指摘された」が23.1%、「病院で医師から指摘された」が15.4%となっています。

2) 発達の不安や障がい気付いた年齢

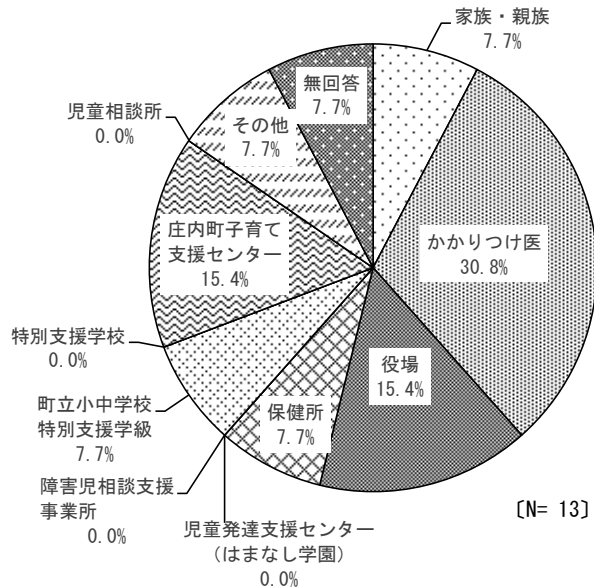


発達の不安や障がい気付いた年齢は、「1歳」、「2歳」が共に30.8%、「0歳」が23.1%、「3歳」、「9歳」が共に7.7%となっています。



### 3) 発達の不安や障がいに気付いた時に相談した人または場所

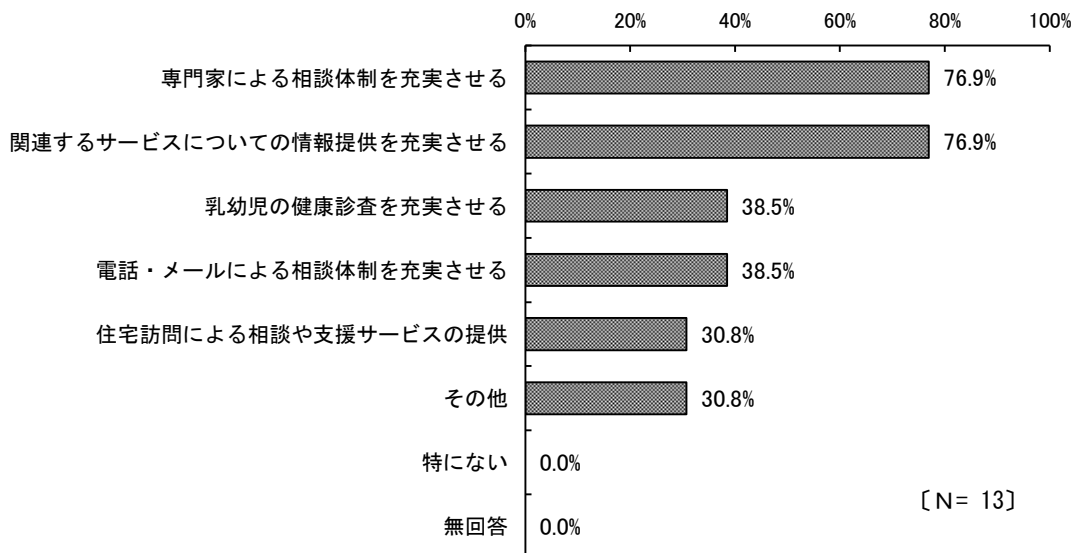
問 10 お子さんの発達の不安や障がいに気付いたとき、誰に、(どこに) 相談しましたか。(1つに○)



発達の不安や障がいに気付いた時に相談した人または場所は、「かかりつけ医」が30.8%、「役場」、「庄内町子育て支援センター」が共に15.4%となっています。

### 4) 早期に適切な支援を受けるために必要なこと

問 11 発達に関する不安や障がいのあるお子さんが早期に適切な支援を受けるために必要なことは何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)



早期に適切な支援を受けるために必要なことは、「専門家による相談体制を充実させる」、「関連するサービスについての情報提供を充実させる」が共に76.9%で最も高く、「乳幼児の健康診査を充実させる」、「電話・メールによる相談体制を充実させる」(共に38.5%)、「住宅訪問による相談や支援サービスの提供」、「その他」(共に30.8%)の順となっています。

#### (4) 教育・療育について

##### 1) [就学前の子ども] 療育や支援について充実させるべきこと

★就学前のお子さんについてお聞きします。

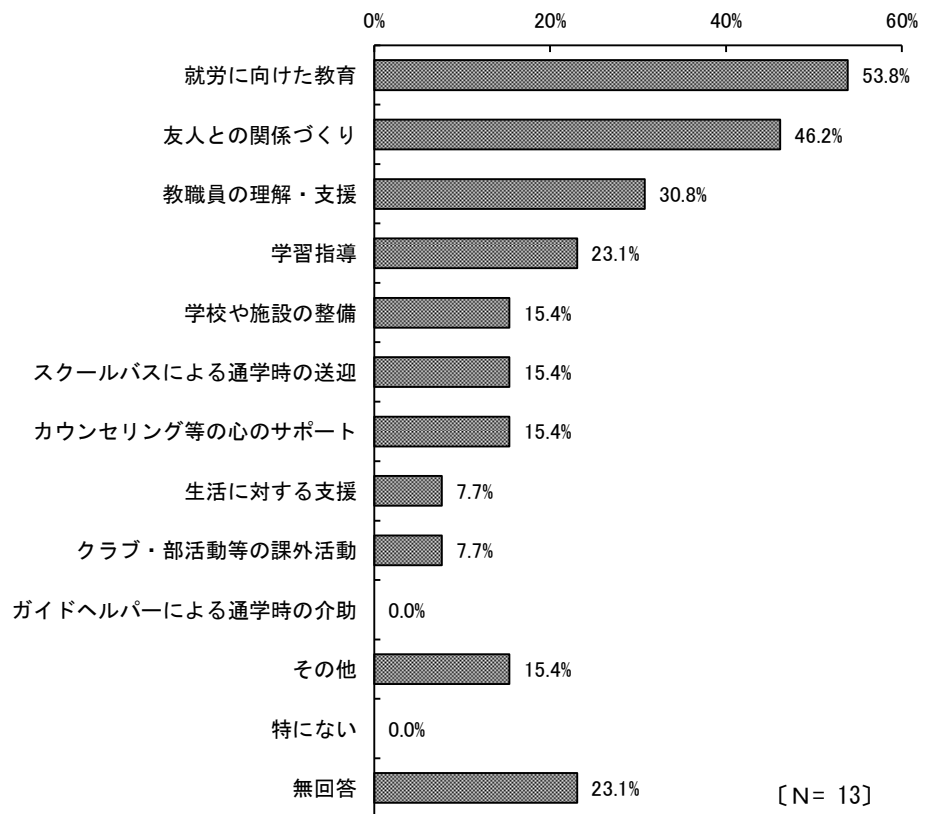
問 12 お子さんが受けている療育や支援について、充実させるべきだと思う点がありますか。(あてはまるもの3つまでに○)

就学前の子どもの回答はありませんでした。

##### 2) [就学中の子ども] 教育や学校生活について充実させるべきこと

★就学中のお子さんについてお聞きします。

問 13 お子さんが受けている教育や、学校生活について、充実させるべきだと思う点がありますか。(あてはまるもの3つまでに○)

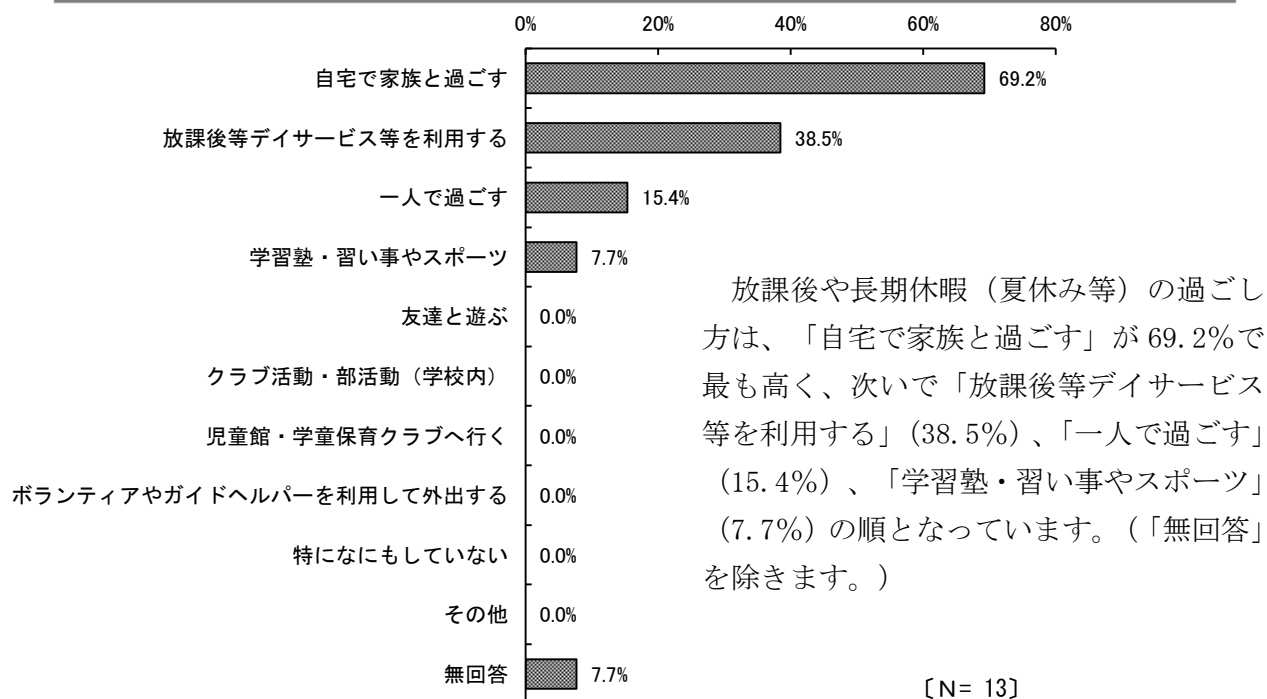


教育や学校生活について充実させるべきことは、「就労に向けた教育」が 53.8%で最も高く、次いで「友人との関係づくり」(46.2%)、「教職員の理解・支援」(30.8%)、「学習指導」(23.1%)の順となっています。(「無回答」を除きます。)

### 3) [就学中の子ども] 放課後や長期休暇（夏休み等）の過ごし方

★就学中のお子さんについてお聞きします。

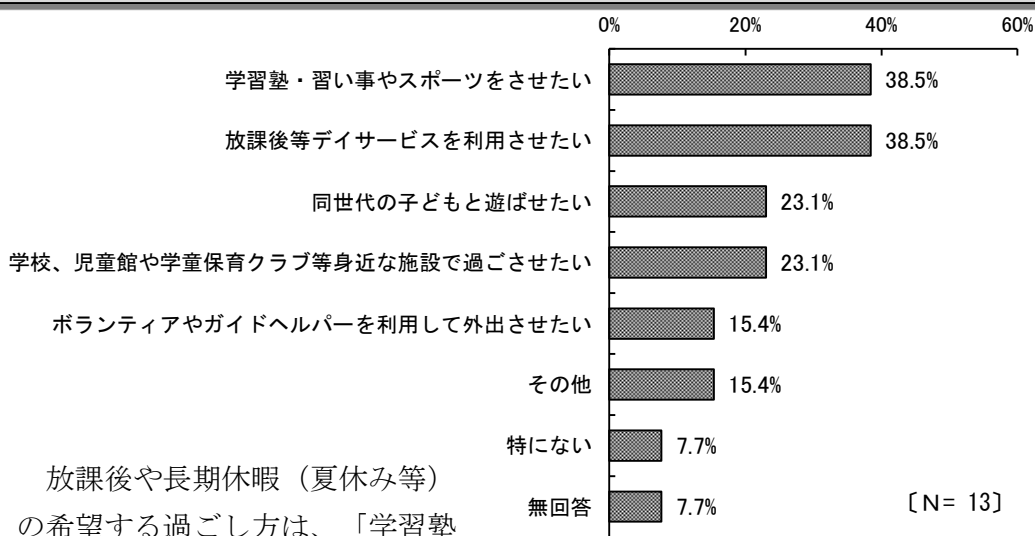
問 14 現在、おさんは放課後や夏休み等の長期休暇はどのように過ごしていますか。  
（あてはまるものすべてに○）



### 4) [就学中の子ども] 放課後や長期休暇（夏休み等）の希望する過ごし方

★就学中のお子さんについてお聞きします。

問 15 今後、お子さんには放課後や夏休み等の長期休暇をどのように過ごしてほしいですか。（あてはまるもの3つまでに○）

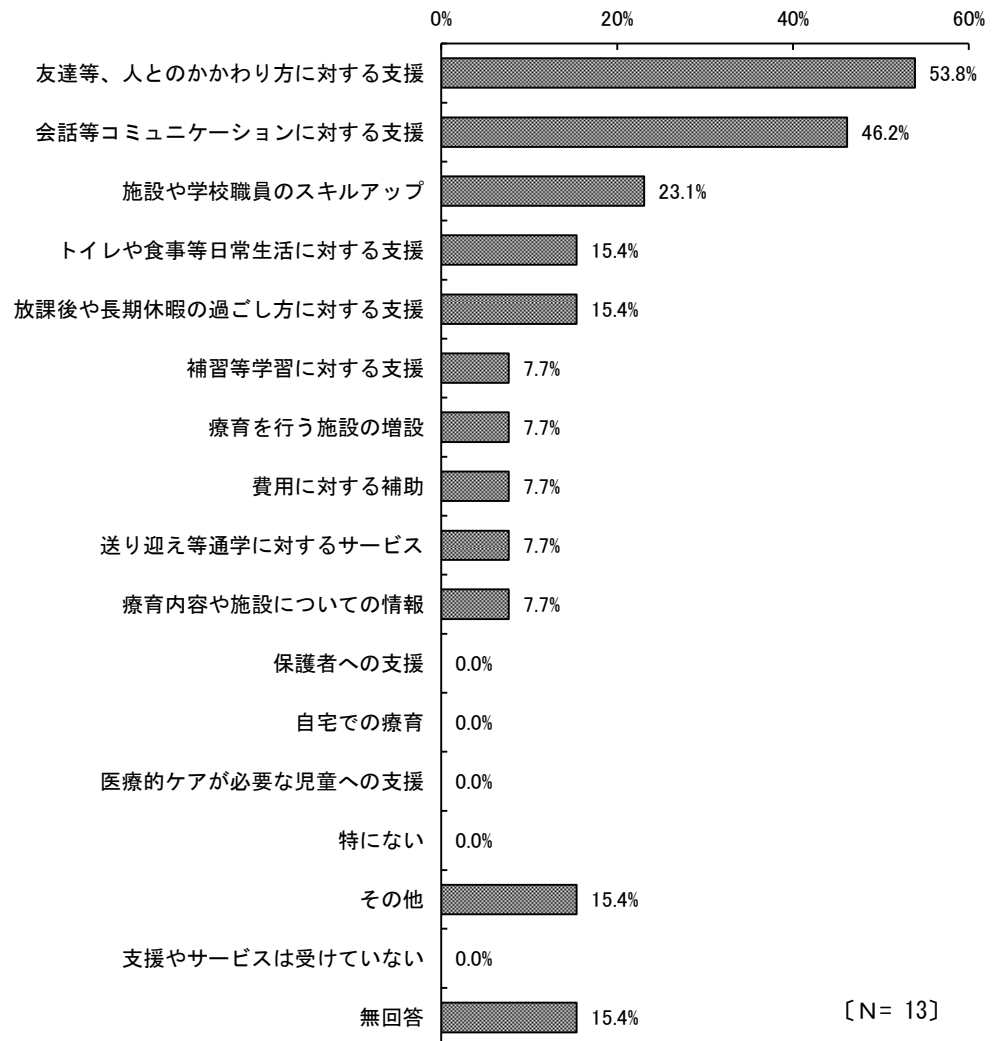


放課後や長期休暇（夏休み等）の希望する過ごし方は、「学習塾・習い事やスポーツをさせたい」、「放課後等デイサービスを利用させたい」が共に38.5%で最も高く、次いで「同世代の子どもと遊ばせたい」、「学校、児童館や学童保育クラブ等身近な施設で過ごさせたい」（共に23.1%）の順となっています。

5)〔就学中の子ども〕療育や支援について充実させるべきこと

★ 就学中のお子さんについてお聞きします。

問 16 お子さんが受けている療育や支援について、充実させるべきだと思う点はありませんか。（あてはまるもの3つまでに○）

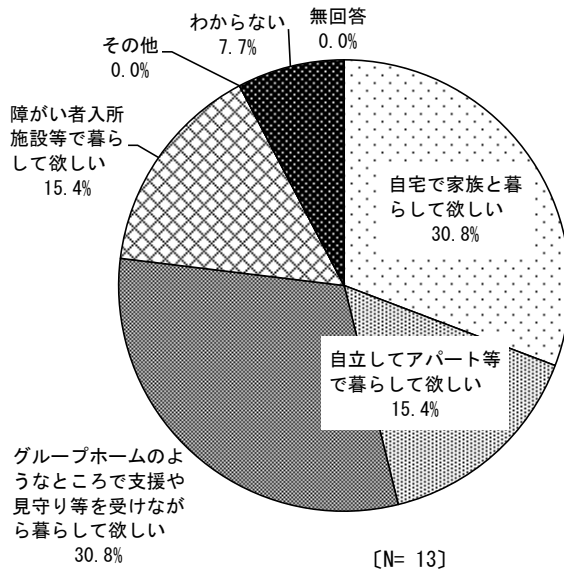


療育や支援について充実させるべきことは、「友達等、人とのかかわり方に対する支援」が53.8%で最も高く、次いで「会話等コミュニケーションに対する支援」(46.2%)、「施設や学校職員のスキルアップ」(23.1%)、「トイレや食事等日常生活に対する支援」、「放課後や長期休暇の過ごし方に対する支援」、「その他」(共に15.4%)の順となっています。（「無回答」を除きます。）

(5) 子どもの将来のことについて

1) 将来の暮らし方

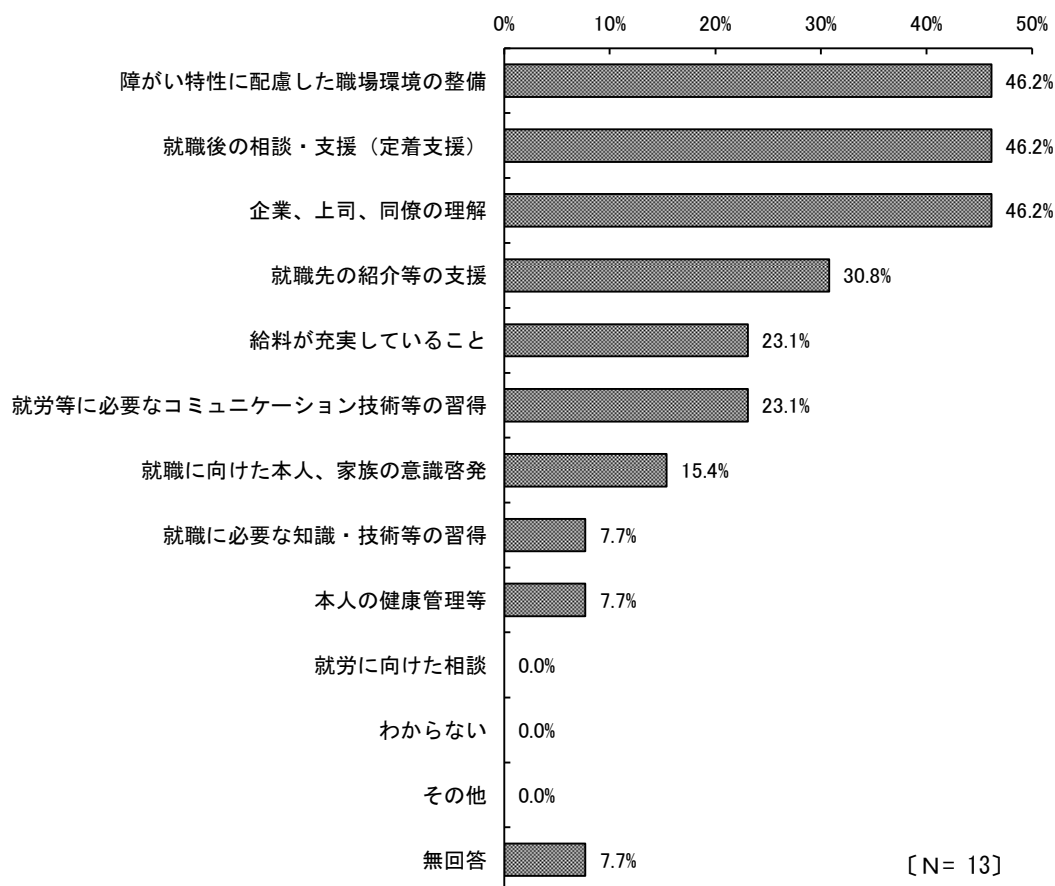
問 17 お子さんには、将来どのように暮らしてほしいですか。(1つに○)



将来の暮らし方は、「自宅で家族と暮らして欲しい」、「グループホームのようなところで支援や見守り等を受けながら暮らして欲しい」が共に 30.8%、「自立してアパート等で暮らして欲しい」、「障がい者入所施設等で暮らして欲しい」が共に 15.4%となっています。

## 2) 将来仕事に就くために重要なこと

問 18 お子さんが将来仕事に就くために重要だと思われることは何ですか。  
(あてはまるもの3つまでに○)

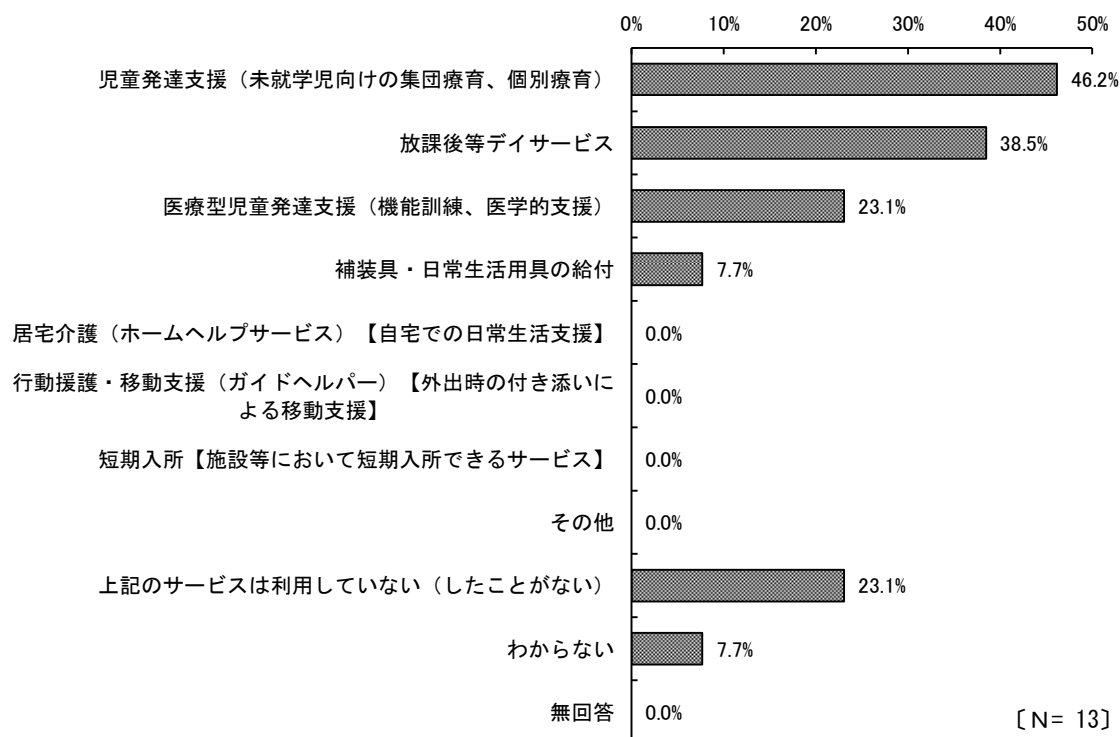


将来仕事に就くために重要なことは、「障がい特性に配慮した職場環境の整備」、「就職後の相談・支援（定着支援）」、「企業、上司、同僚の理解」が46.2%で最も高く、次いで「就職先の紹介等の支援」（30.8%）、「給料が充実していること」、「就労等に必要なコミュニケーション技術等の習得」（共に23.1%）の順となっています。

## (6) サービスについて

### 1) サービスの利用状況

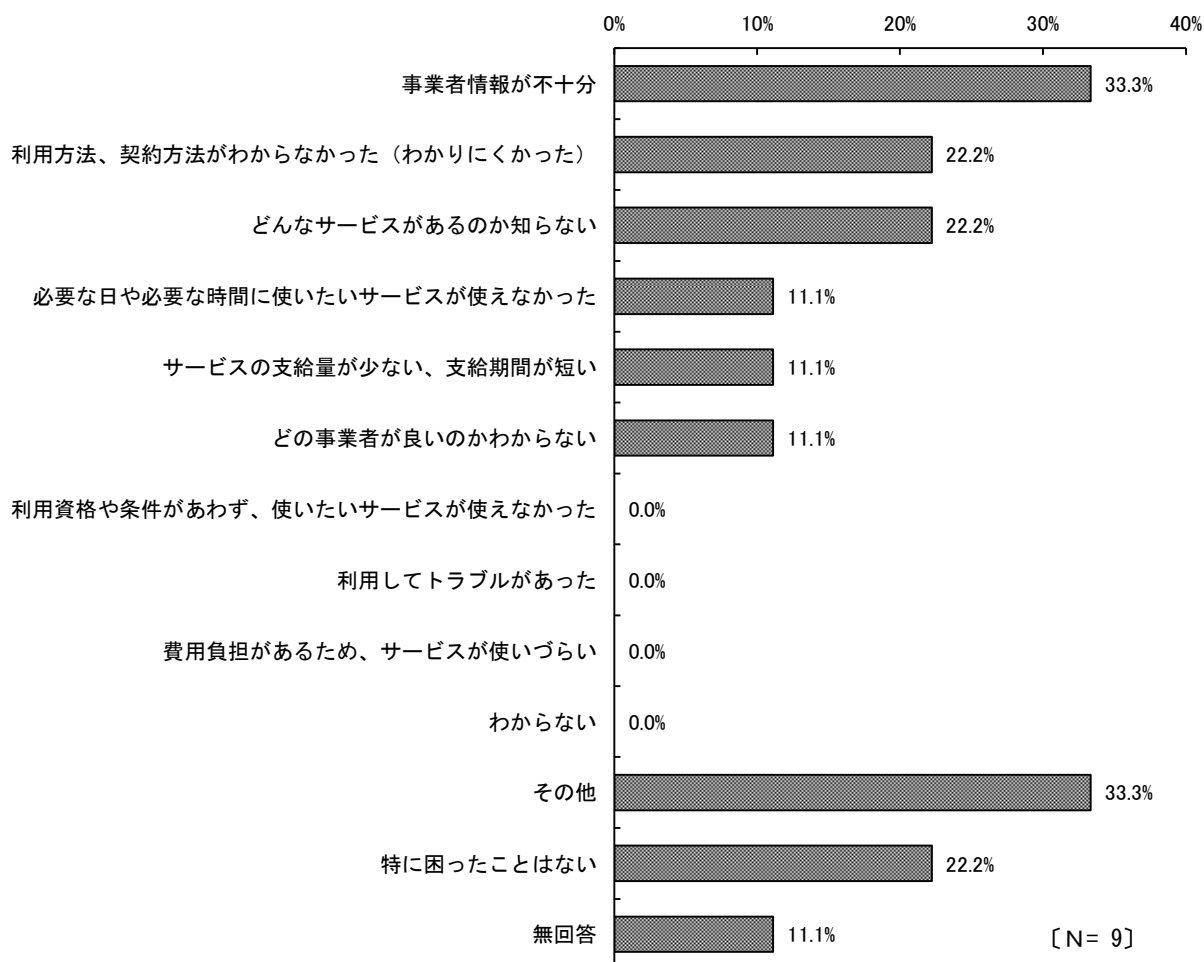
問 19 以下のサービスを利用していますか。(したことがありますか)  
(あてはまるものすべてに○)



サービスの利用状況は、「児童発達支援 (未就学児向けの集団療育、個別療育)」が 46.2%で最も高く、次いで「放課後等デイサービス」(38.5%)、「医療型児童発達支援 (機能訓練、医学的支援)」、「上記のサービスは利用していない (したことがない)」(共に 23.1%)、「補装具・日常生活用具の給付」、「わからない」(共に 7.7%)の順となっています。

①サービスを利用するときに困ったこと

★問 19 で「1～8 サービスを利用している」と回答した方にうかがいます。  
 問 19-1 サービスを利用するときに何か困ったことはありましたか。  
 (あてはまるものすべてに○)

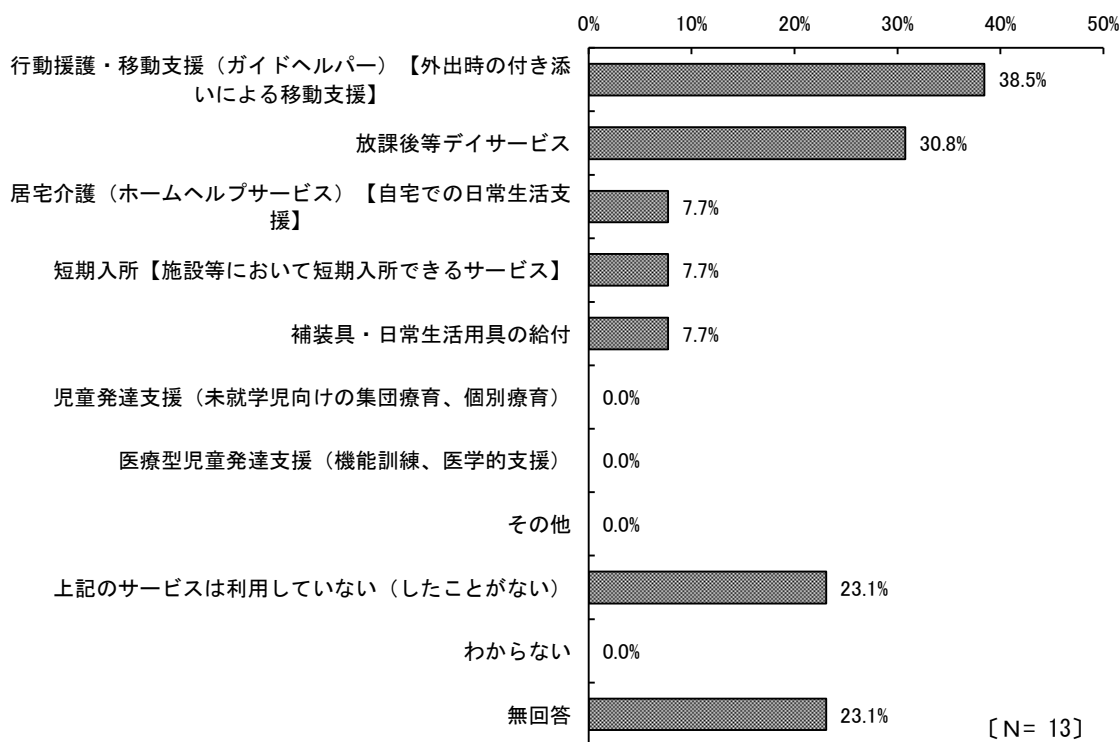


サービスを利用するときに困ったことは、「事業者情報が不十分」、「その他」が共に 33.3%で最も高く、次いで「利用方法、契約方法がわからなかった(わかりにくかった)」、「どんなサービスがあるのか知らない」、「特に困ったことはない」(共に 22.2%)の順となっています。



## 2) 利用したいサービス

問 20 今後、以下の福祉サービスの中で、利用したいサービスはありますか。  
(あてはまるもの3つまでに○)

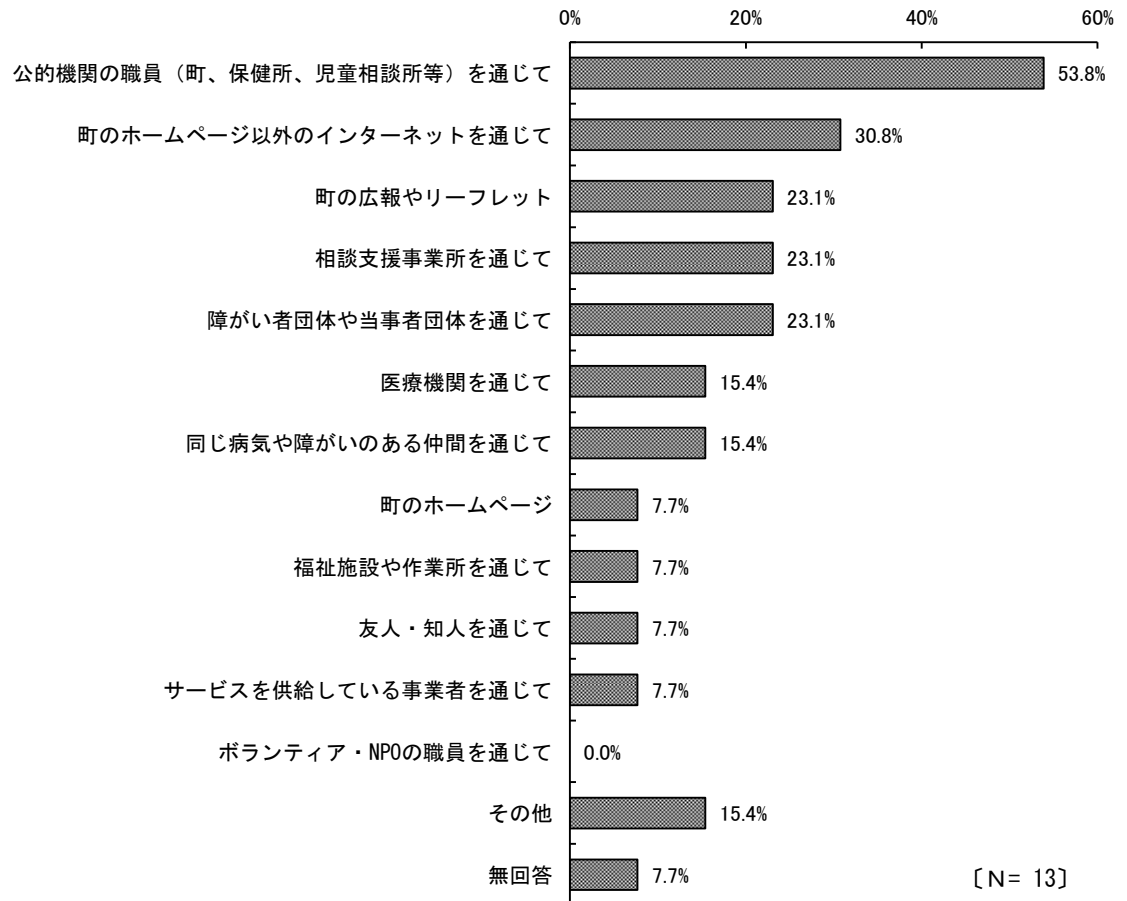


利用したいサービスは、「行動援護・移動支援 (ガイドヘルパー) 【外出時の付き添いによる移動支援】」が 38.5% で最も高く、次いで「放課後等デイサービス」(30.8%)、「上記のサービスは利用していない (したことがない)」(23.1%)、「居宅介護 (ホームヘルプサービス) 【自宅での日常生活支援】」、「短期入所 【施設等において短期入所できるサービス】」、「補装具・日常生活用具の給付」(共に 7.7%) の順となっています。(「無回答」を除きます。)

(7) 情報入手について

1) 情報の入手方法

問 21 発達に関する不安や障がいのこと、お子さんが使えるサービスのことについて、どのように情報を得ていますか。(あてはまるものすべてに○)

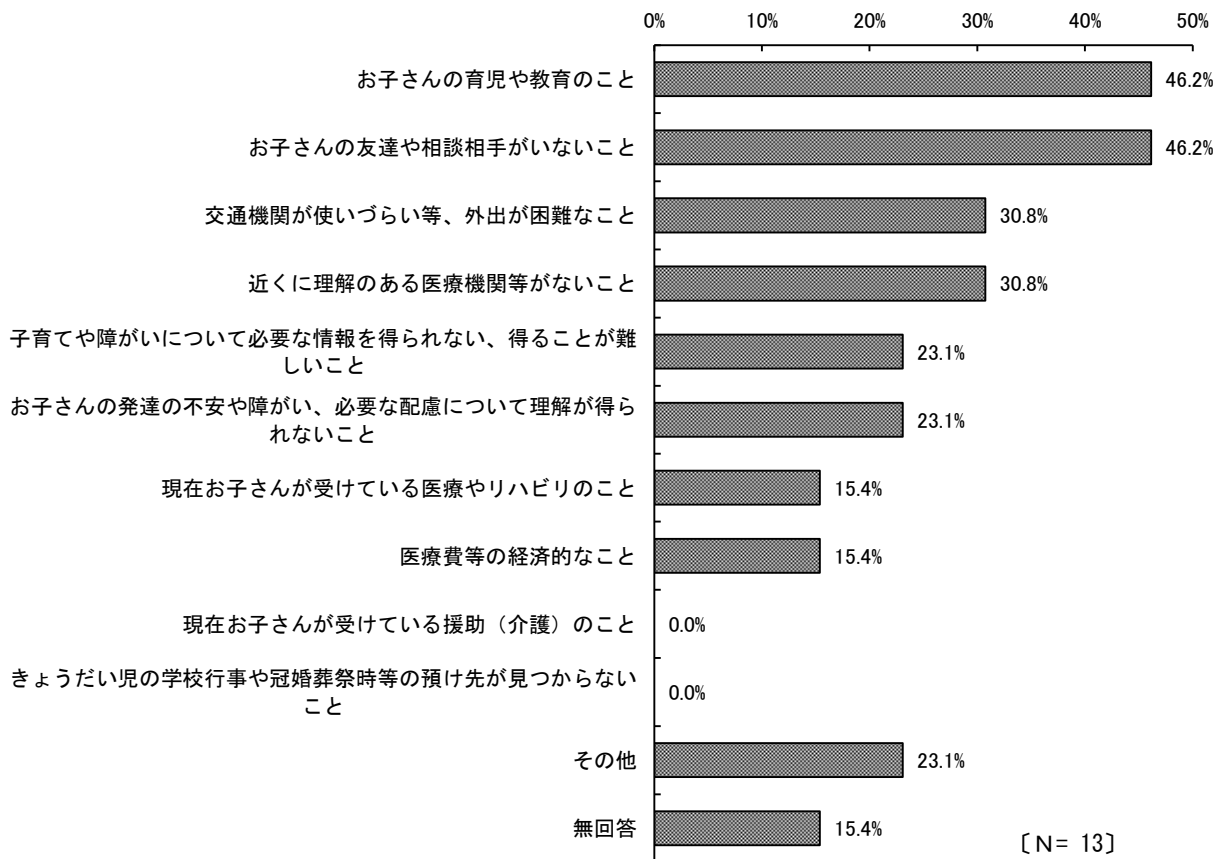


情報の入手方法は、「公的機関の職員（町、保健所、児童相談所等）を通じて」が 53.8% で最も高く、次いで「町のホームページ以外のインターネットを通じて」（30.8%）、「町の広報やリーフレット」、「相談支援事業所を通じて」、「障がい者団体や当事者団体を通じて」（共に 23.1%）の順となっています。

(8) 相談について

1) 悩みごとや困りごと

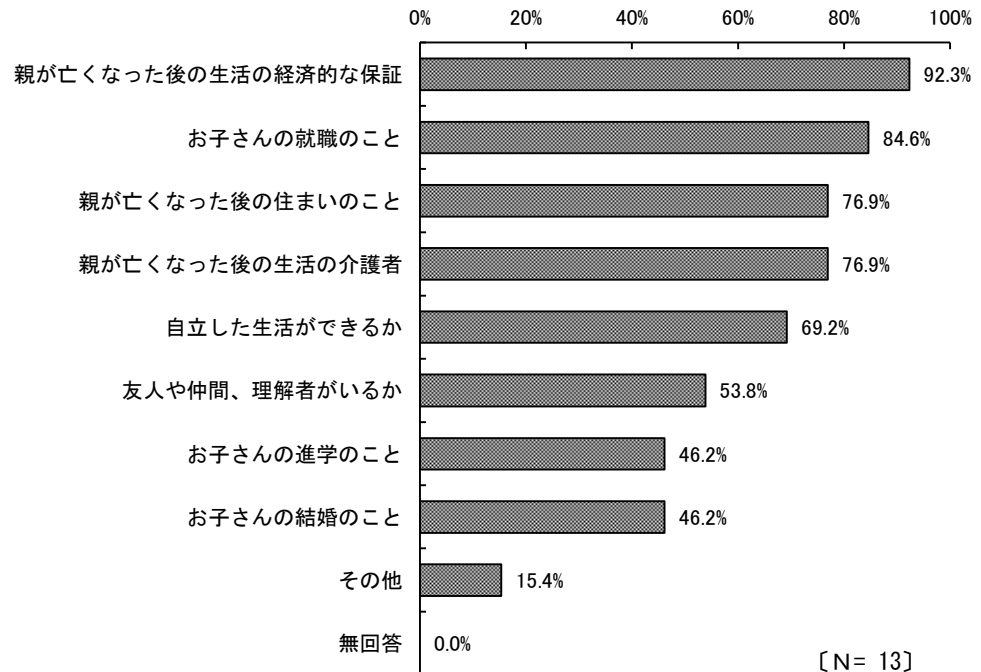
問 22 お子さんのことで現在悩みごとや困ったことがありますか。  
(あてはまるものすべてに○)



悩みごとや困りごとは、「お子さんの育児や教育のこと」、「お子さんの友達や相談相手がいないこと」が共に 46.2% で最も高く、次いで「交通機関が使いづらい等、外出が困難なこと」、「近くに理解のある医療機関等がないこと」（共に 30.8%）、「子育てや障がいについて必要な情報を得られない、得ることが難しいこと」、「お子さんの発達の不安や障がい、必要な配慮について理解が得られないこと」、「その他」（共に 23.1%）の順となっています。

## 2) 将来のことで不安に思うこと

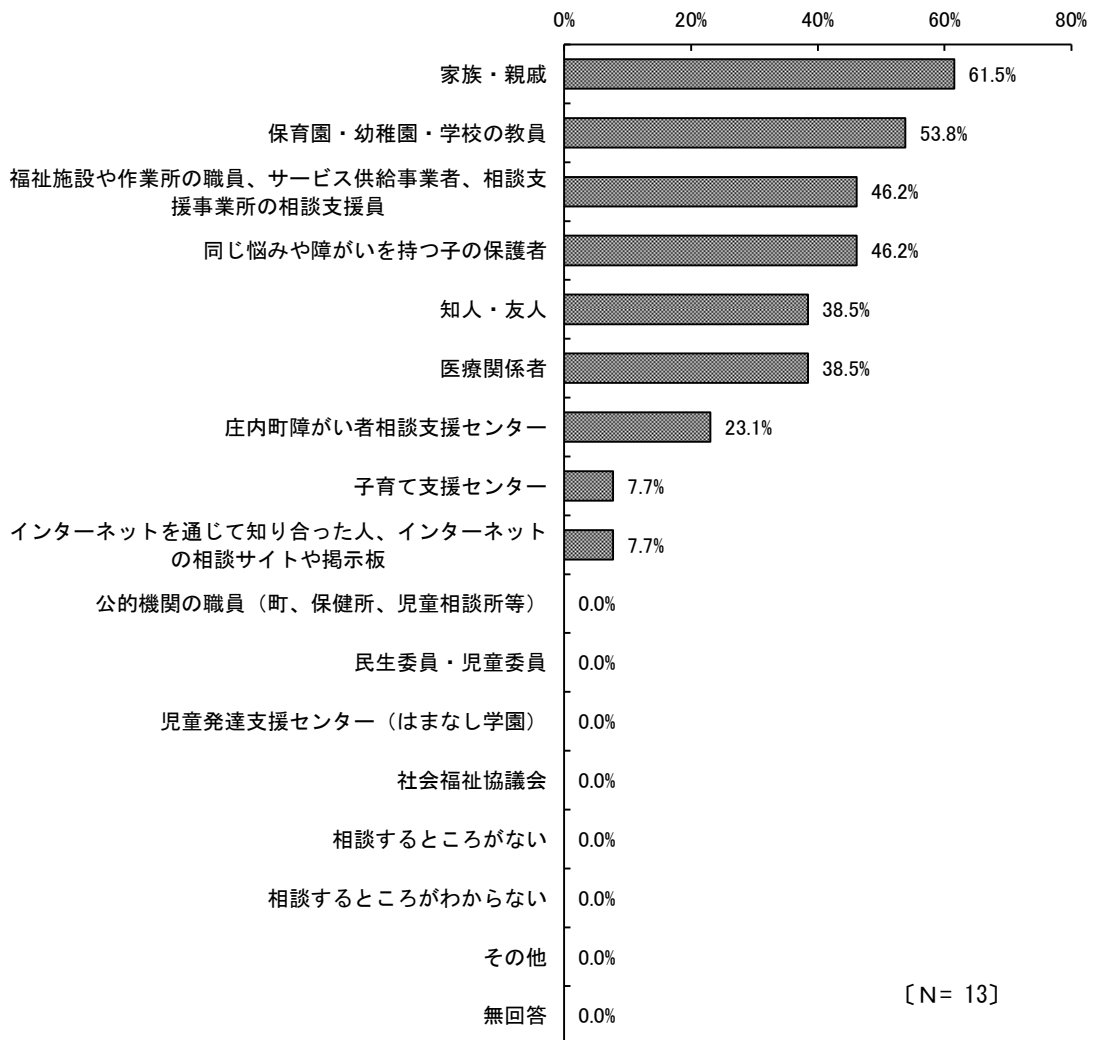
問 23 お子さんの将来のことで不安に思うことはありますか。  
(あてはまるものすべてに○)



将来のことで不安に思うことは、「親が亡くなった後の生活の経済的な保証」が92.3%で最も高く、次いで「お子さんの就職のこと」(84.6%)、「親が亡くなった後の住まいのこと」、「親が亡くなった後の生活の介護者」(共に76.9%)の順となっています。

### 3) 悩みごとや困りごとを相談する相手

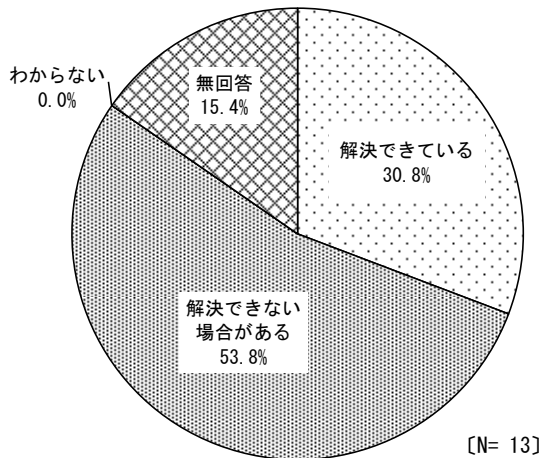
問 24 お子さんのことで悩んでいることや困っていることについて、相談するのは誰ですか。(あてはまるものすべてに○)



悩みごとや困りごとを相談する相手は、「家族・親戚」が61.5%で最も高く、次いで「保育園・幼稚園・学校の教員」（53.8%）、「福祉施設や作業所の職員、サービス供給事業者、相談支援事業所の相談支援員」、「同じ悩みや障がいを持つ子の保護者」（共に46.2%）の順となっています。

#### 4) 悩みごとや困りごとの解決状況

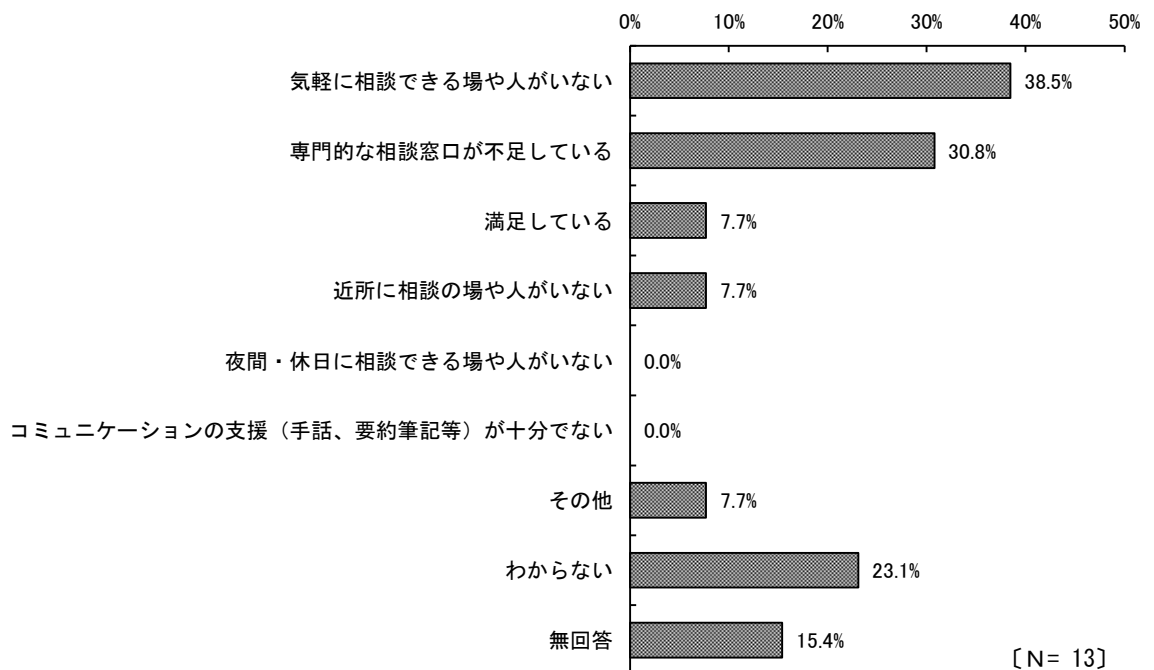
問 25 問 24 で回答した相談先に相談することで、悩みや困ったことは解決できていますか。(1つに○)



悩みごとや困りごとの解決状況は、「解決できない場合がある」が53.8%、「解決できている」が30.8%となっています。

#### 5) 相談支援体制について感じていること

問 26 現在の困ったときの相談支援体制について、どのように感じていますか。(あてはまるものすべてに○)

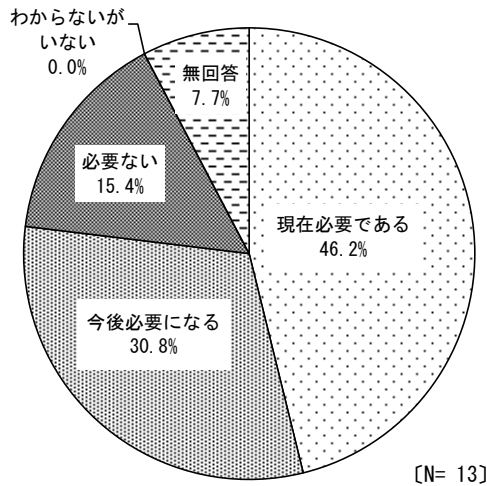


相談支援体制について感じていることは、「気軽に相談できる場や人がいない」が38.5%で最も高く、次いで「専門的な相談窓口が不足している」(30.8%)、「わからない」(23.1%)の順となっています。

(9) 保護者・家族への支援について

1) 保護者や家族へ支援することの必要性

問 27 保護者や家族への支援は必要ですか。(1つに○)

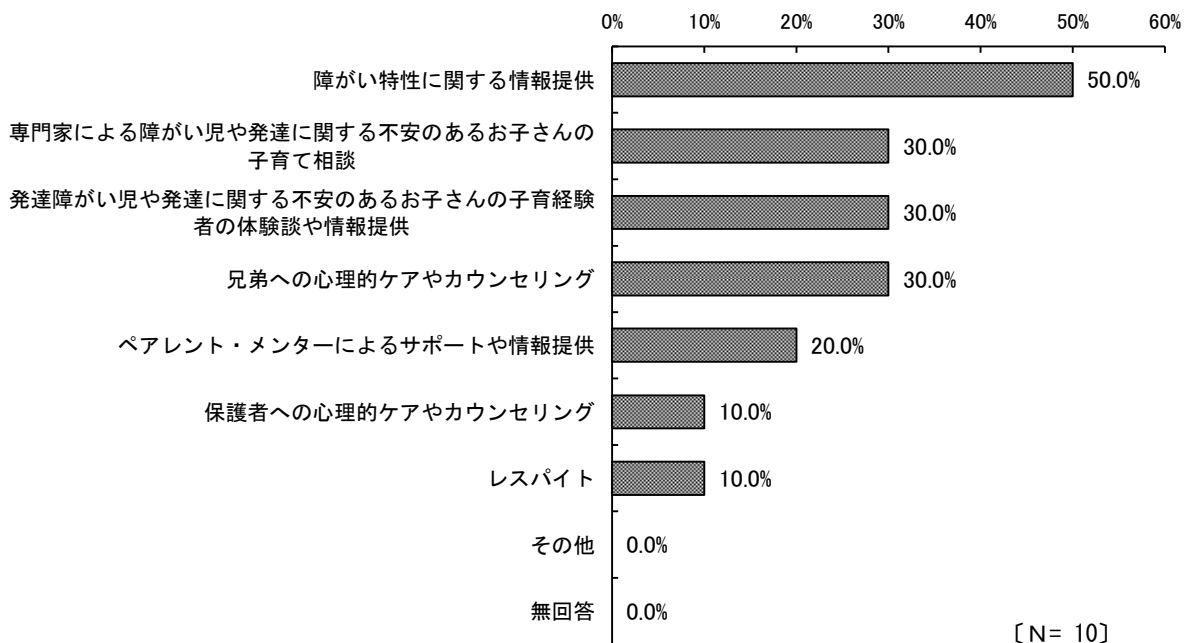


保護者や家族へ支援することの必要性は、「現在必要である」が46.2%、「今後必要になる」が30.8%、「必要ない」が15.4%となっています。

①必要な支援

★問 27 で「1. 現在必要である」、「2. 今後必要になる」と回答した方にうかがいます。

問 27-1 どのような支援が必要ですか。(あてはまるものすべてに○)

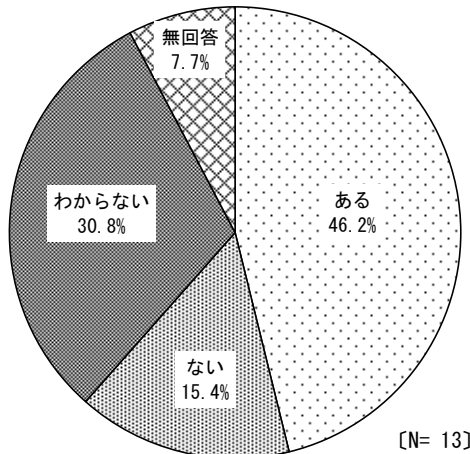


必要な支援は、「障がい特性に関する情報提供」が50.0%で最も高く、次いで「専門家による障がい児や発達に関する不安のあるお子さんの子育て相談」、「発達障がい児や発達に関する不安のあるお子さんの子育て経験者の体験談や情報提供」、「兄弟への心理的ケアやカウンセリング」（共に30.0%）の順となっています。

(10) 理解や配慮について

1) 周囲からの理解や配慮

問 28 これまでに障がいや病気を理由として周囲からの理解や配慮が感じられなかったことはありますか。(1つに○)

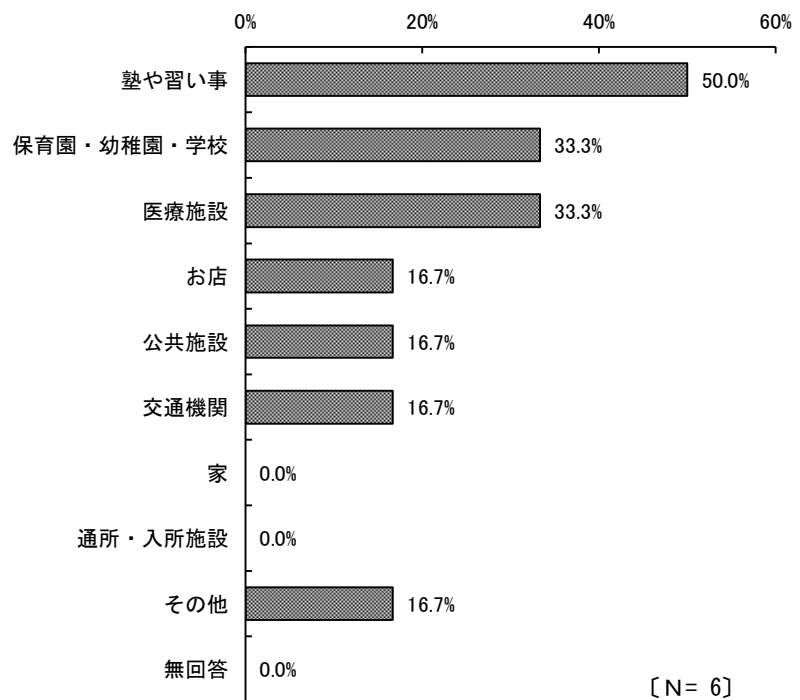


周囲からの理解や配慮は、「ある」が46.2%、「わからない」が30.8%、「ない」が15.4%となっています。

★問 28 で「1. ある」と回答した方にうかがいます。

問 28-1 ①どこで、②誰から、③どんなことでしたか。(あてはまるものすべてに○)

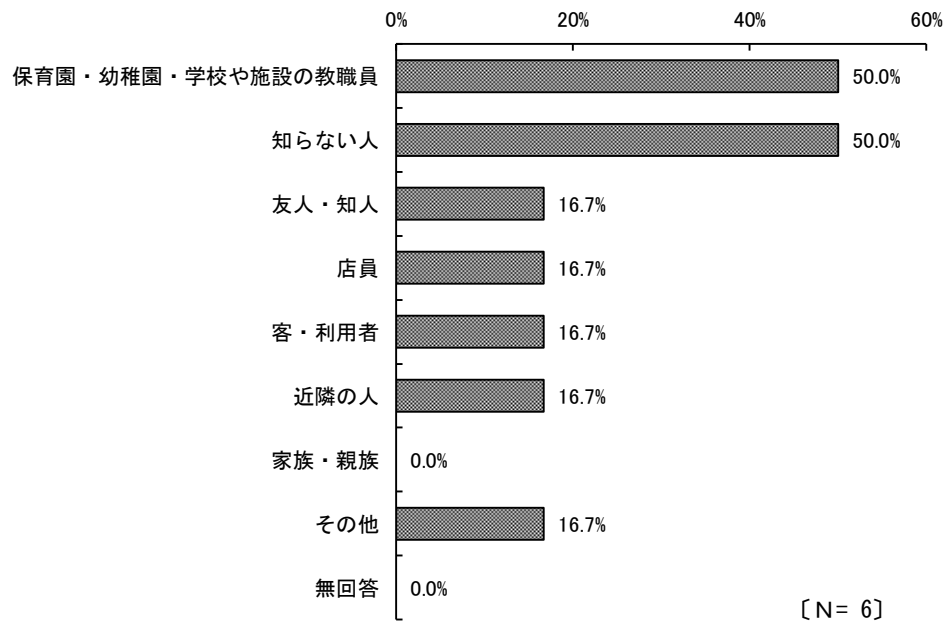
①理解や配慮が感じられなかった場所



理解や配慮が感じられなかった場所は、「塾や習い事」が50.0%で最も高く、次いで「保育園・幼稚園・学校」、「医療施設」（共に33.3%）、「お店」、「公共施設」、「交通機関」、「その他」（共に16.7%）の順となっています。

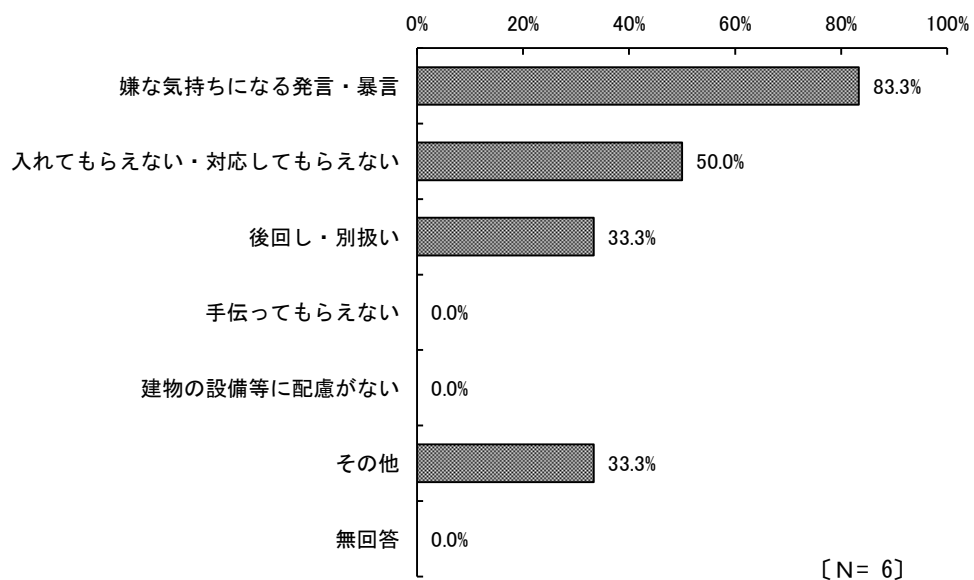


## ②理解や配慮が感じられなかった人



理解や配慮が感じられなかった人は、「保育園・幼稚園・学校や施設の教職員」、「知らない人」が50.0%で最も高く、次いで「友人・知人」、「店員」、「客・利用者」、「近隣の人」、「その他」（共に16.7%）の順となっています。

## ③理解や配慮が感じられなかったこと

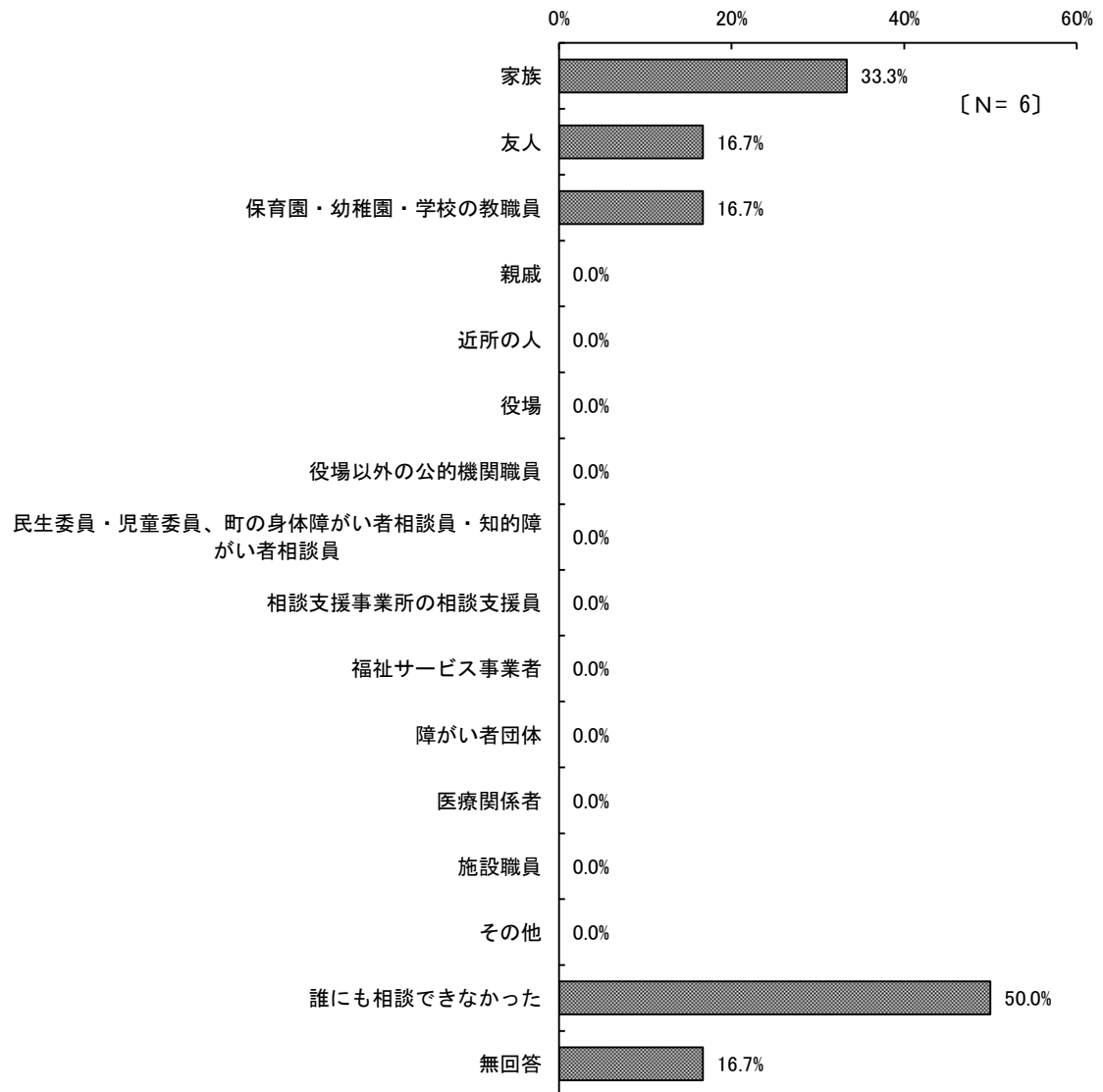


理解や配慮が感じられなかったことは、「嫌な気持ちになる発言・暴言」が83.3%で最も高く、次いで「入れてもらえない・対応してもらえない」（50.0%）、「後回し・別扱い」、「その他」（共に33.3%）の順となっています。

#### ④相談した人または場所

★問 28 で「1. ある」と回答した方にうかがいます。

問 28-2 誰またはどんなところに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

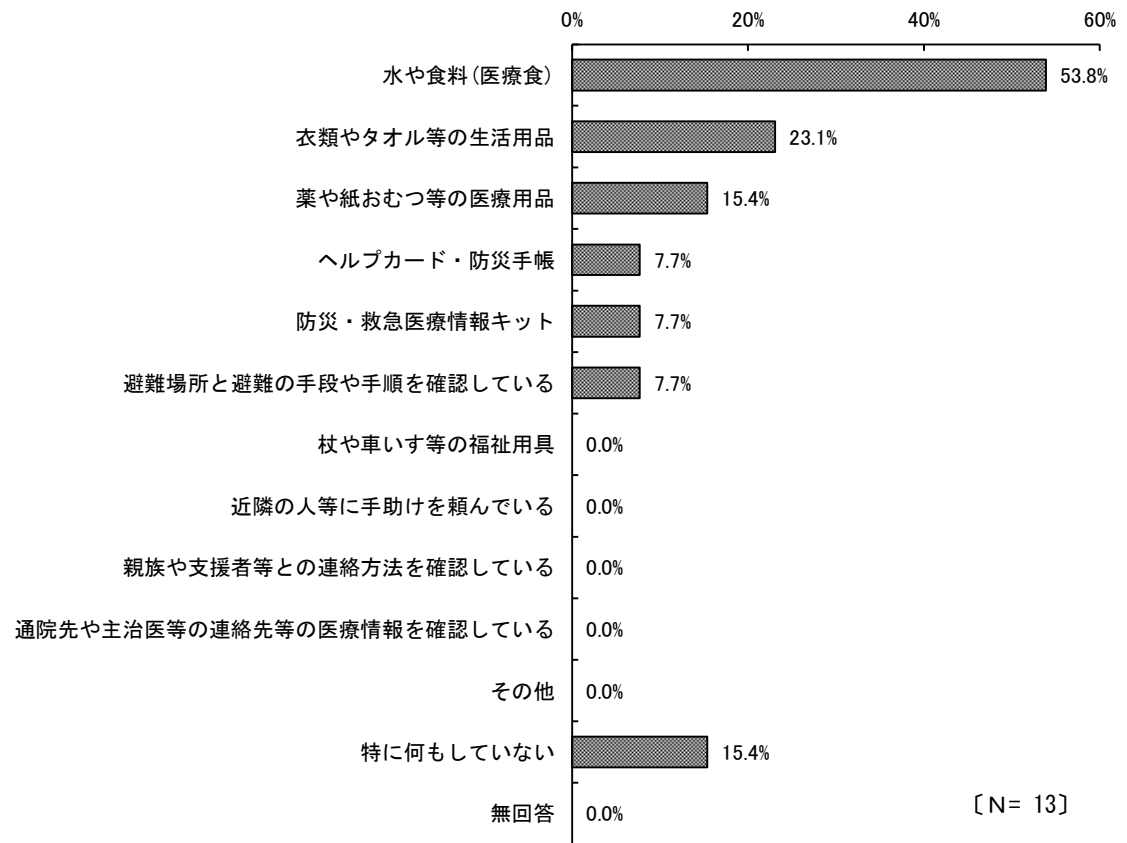


相談した人または場所は、「誰にも相談できなかった」が 50.0%で最も高く、次いで「家族」(33.3%)、「友人」、「保育園・幼稚園・学校の教職員」(共に 16.7%)の順となっています。(「無回答」を除きます。)

(11) 災害時のことについて

1) 災害に備えて準備しているもの

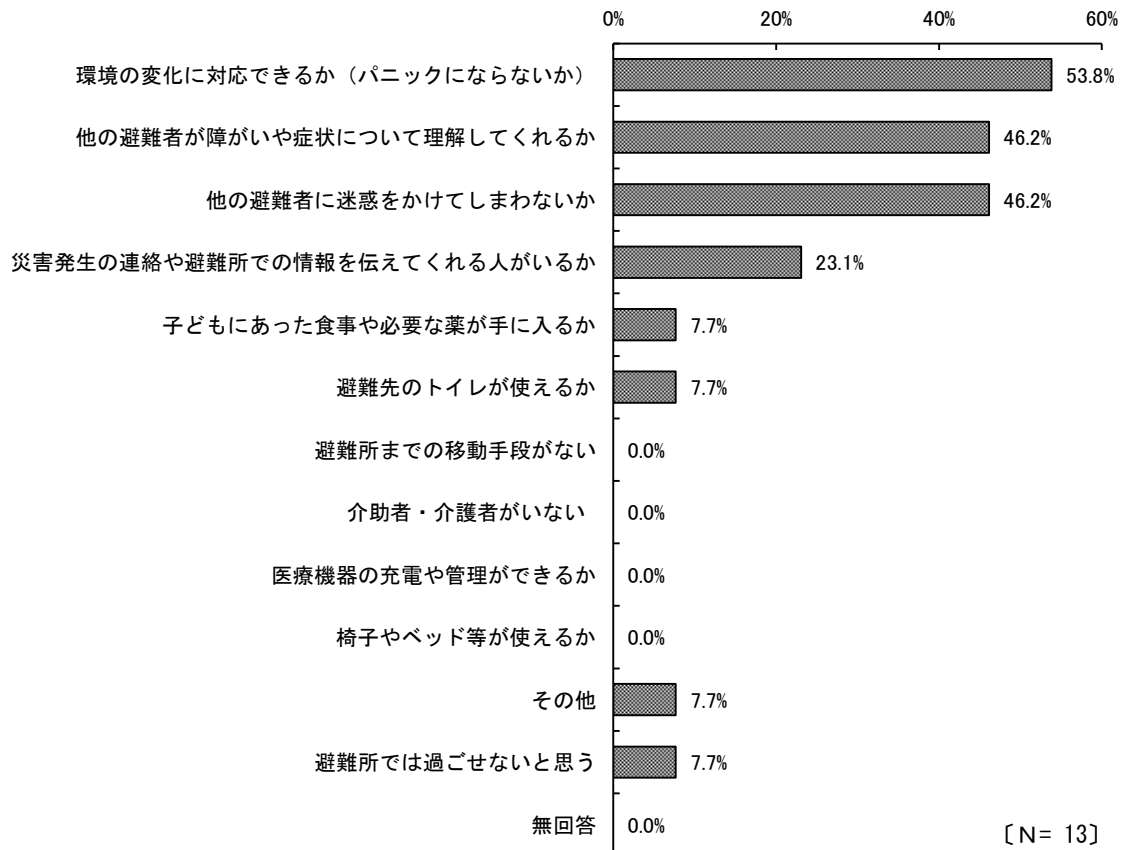
問 29 災害が起こった時に備え、準備しているものはありますか。  
(あてはまるものすべてに○)



災害に備えて準備しているものは、「水や食料(医療食)」が 53.8%で最も高く、次いで「衣類やタオル等の生活用品」(23.1%)、「薬や紙おむつ等の医療用品」、「特に何もしていない」(共に 15.4%)の順となっています。

## 2) 避難所での生活に感じる不安

問 30 災害発生時や避難所での生活で、不安に思うことはありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

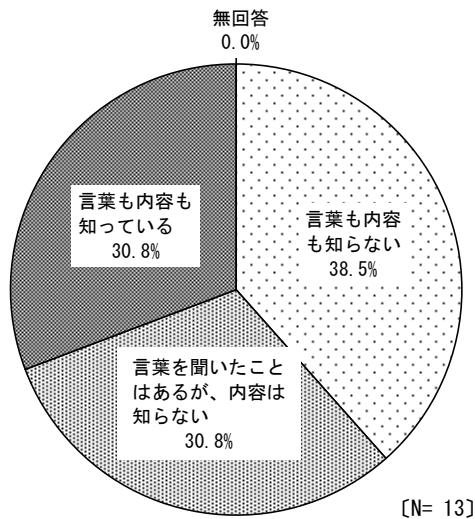


避難所での生活に感じる不安は、「環境の変化に対応できるか (パニックにならないか)」が 53.8% で最も高く、次いで「他の避難者が障がいや症状について理解してくれるか」、「他の避難者に迷惑をかけてしまわないか」(共に 46.2%)、「災害発生の連絡や避難所での情報を伝えてくれる人がいるか」(23.1%) の順となっています。

(12) 障がい児・者のための取り組みについて

1) 「障害者差別解消法」の周知

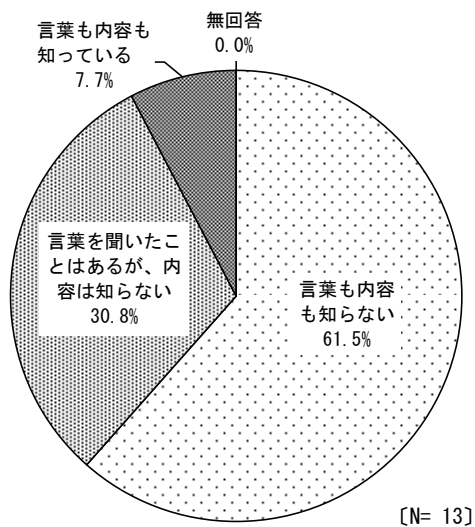
問 31 あなたは「障害者差別解消法」についてご存じですか。(1つに○)



「障害者差別解消法」の周知は、「言葉も内容も知らない」が38.5%、「言葉を聞いたことはあるが、内容は知らない」、「言葉も内容も知っている」が共に30.8%となっています。

2) 「庄内町障がいのある人もない人も共に生きるまちづくり条例」の周知

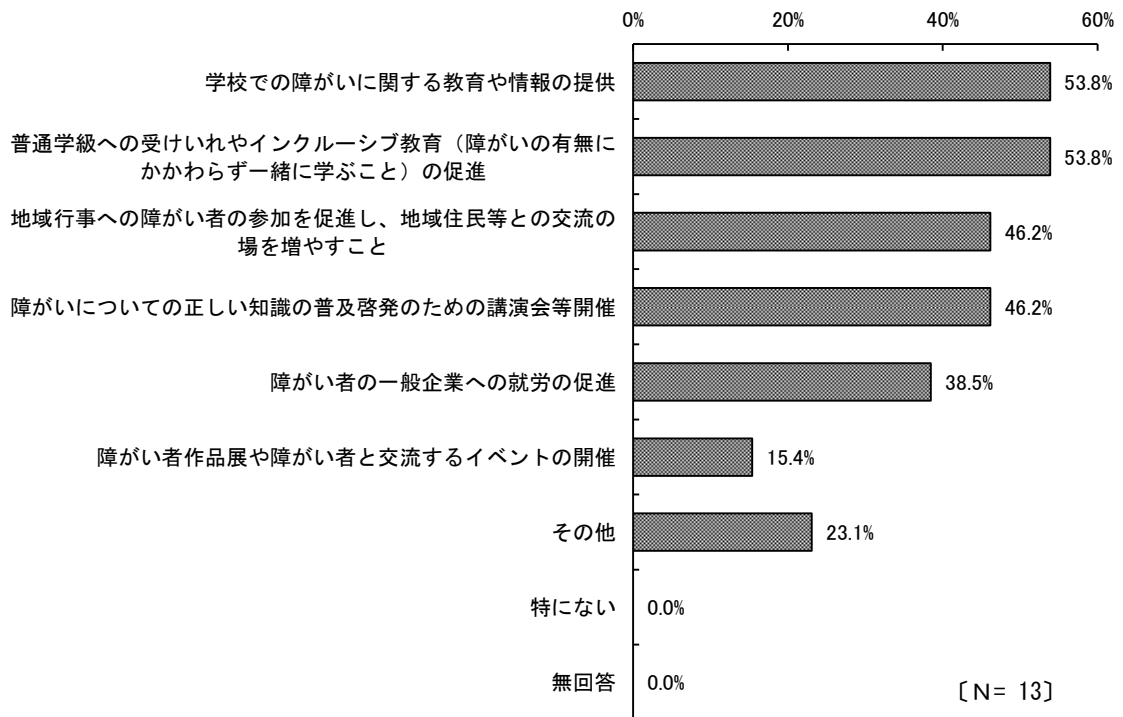
問 32 あなたは「庄内町障がいのある人もない人も共に生きるまちづくり条例」についてご存じですか。(1つに○)



「庄内町障がいのある人もない人も共に生きるまちづくり条例」の周知は、「言葉も内容も知らない」が61.5%、「言葉を聞いたことはあるが、内容は知らない」が30.8%、「言葉も内容も知っている」が7.7%となっています。

### 3) 共生社会をめざすために町が力をいれるべきこと

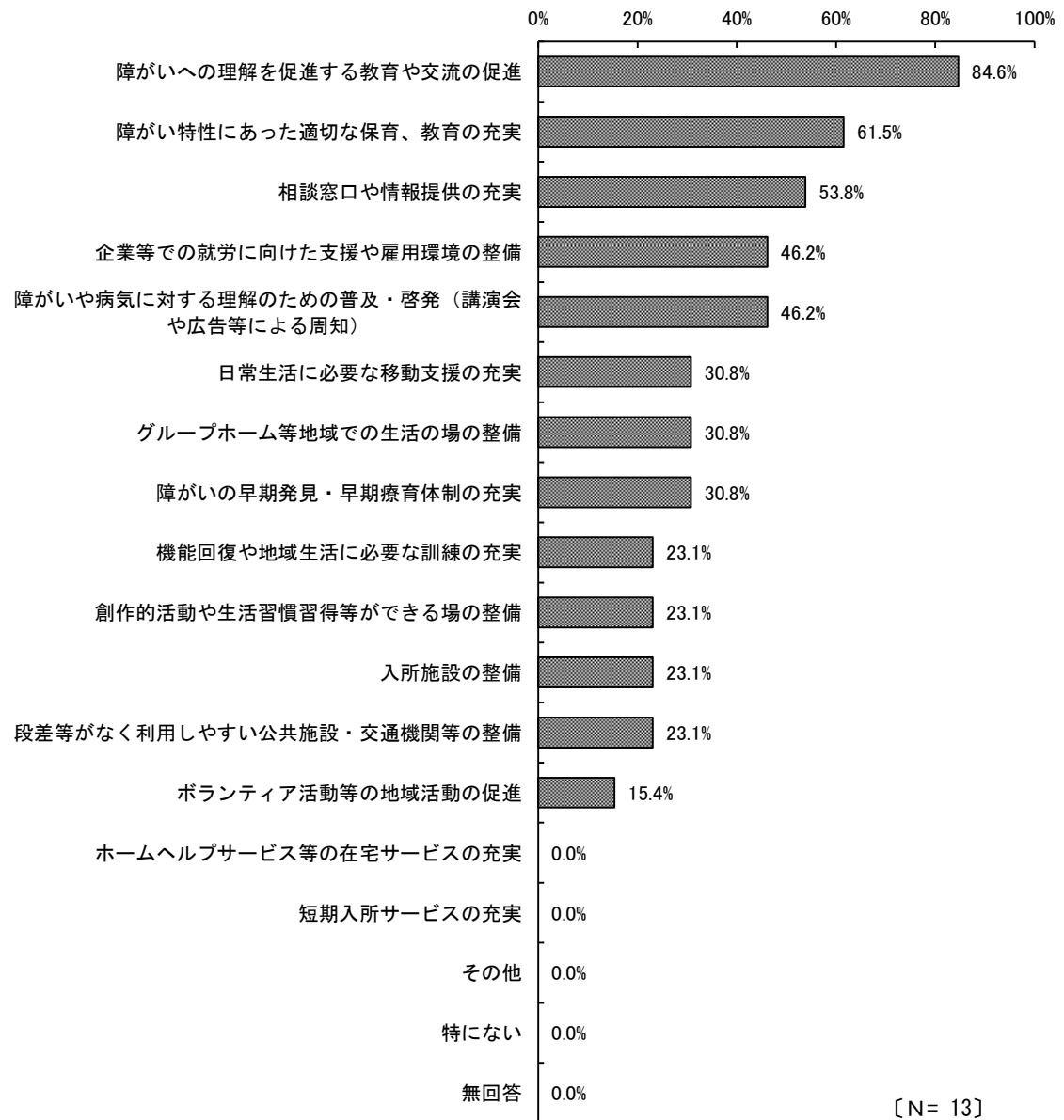
問 33 障がいのある人もない人も共に地域で生活できるような共生社会をめざすために町が力をいれるべきことは何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)



共生社会をめざすために町が力をいれるべきことは、「学校での障がいに関する教育や情報の提供」、「普通学級への受け入れやインクルーシブ教育（障がいの有無にかかわらず一緒に学ぶこと）の促進」が共に 53.8%で最も高く、次いで「地域行事への障がい者の参加を促進し、地域住民等との交流の場を増やすこと」、「障がいについての正しい知識の普及啓発のための講演会等開催」（共に 46.2%）の順となっています。

#### 4) 障がい児・者が地域で自立して生活を送るために重要な取り組み

問 34 障がい児・者が地域で自立して生活を送るために、重要と思う取り組みは何ですか。  
(あてはまるものすべてに○)



障がい児・者が地域で自立して生活を送るために重要な取り組みは、「障がいへの理解を促進する教育や交流の促進」が84.6%で最も高く、次いで「障がい特性にあった適切な保育、教育の充実」（61.5%）、「相談窓口や情報提供の充実」（53.8%）、「企業等での就労に向けた支援や雇用環境の整備」、「障がいや病気に対する理解のための普及・啓発（講演会や広告等による周知）」（共に46.2%）の順となっています。

### (13) 意見・要望について

- ・障がいや病気に関しては、100か0ではなく、グレーな方もたくさんいると思う。そういう認知も社会的になされてきている中で、なるべく区分けをせずに幼少期からお互いに認知できる関係づくりが必要なのではないかと思う。娘が小学時代、そのように教育頂いて大変ありがたいと思った。また、「障がい」というと健常者との区分けになってしまうけれど、「できること」、「できないこと」、「苦手なこと」、「得意なこと」は区分別がないと思っている。そのような考え方から、助け合う気持ちが醸成できれば良いと思う。激しい運動ができないので、生活習慣にできるような運動を習えとよいと思う。
- ・本人がバスで移動できないか調べたら、限られた日と時間しかなく、親が年老いて車の運転ができなくなったらどうすればいいのか、大変不安に感じている。せめて徒歩圏内に生活必需品を購入できる店、医療が利用できる場所に本人が住むことができればと思うが不安しかない。
- ・発達支援センターを、町長の公約を守って作る
- ・学校で普通の子ども達にも障がいの理解ができるような教育もしてほしいと思う。先生達もよく経験がないのでと言ってくるので、理解してもらえない時がある。
- ・今回のアンケートが少しでも良い方向へ反映されることを期待する。

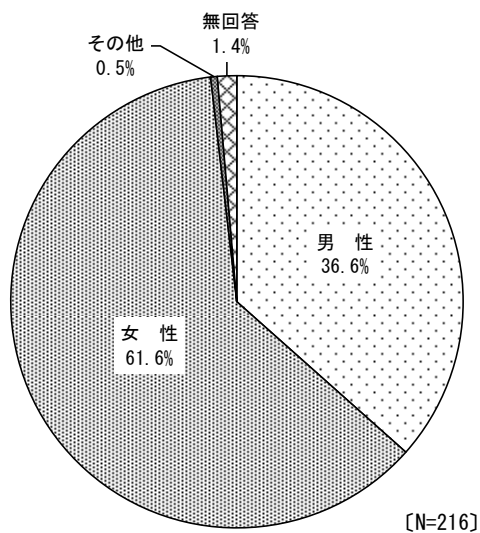


### 3. 障がい者（児）以外の町民意識調査

#### (1) あなた自身について

##### 1) 性別

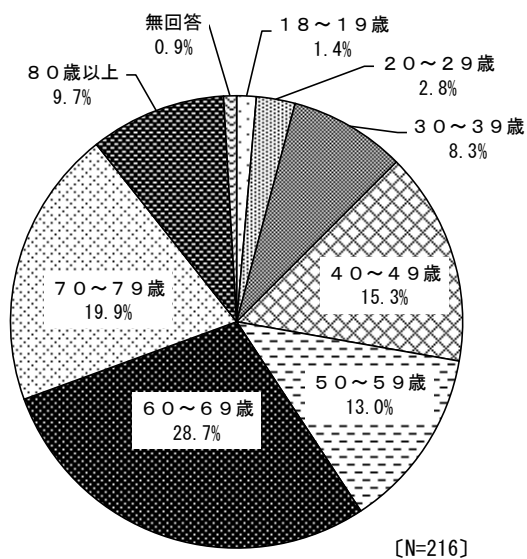
問1 あなたの性別はどちらですか。(1つに○)



性別は、「女性」が61.6%、「男性」が36.6%、「その他」が0.5%となっています。

##### 2) 年齢

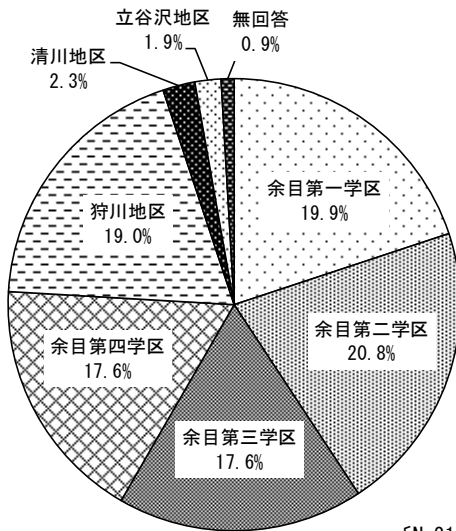
問2 あなたの年齢（令和5年7月1日現在）は次のどれですか。(1つに○)



年齢は、「60~69歳」が28.7%、「70~79歳」が19.9%、「40~49歳」が15.3%となっています。

### 3) 居住地区

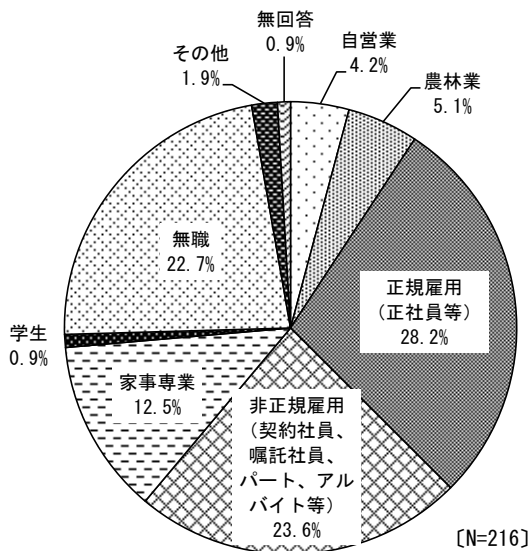
問3 あなたはどちらの地区にお住まいですか。(1つに○)



居住地区は、「余目第二学区」が20.8%、「余目第一学区」が19.9%、「狩川地区」が19.0%となっています。

### 4) 職業

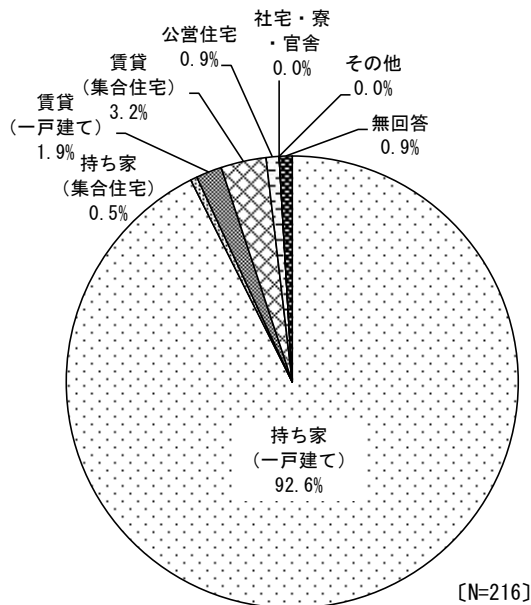
問4 あなたの主な職業は何ですか。(1つに○)



職業は、「正規雇用(正社員等)」が28.2%、「非正規雇用(契約社員、嘱託社員、パート、アルバイト等)」が23.6%、「無職」が22.7%となっています。

## 5) 住居形態

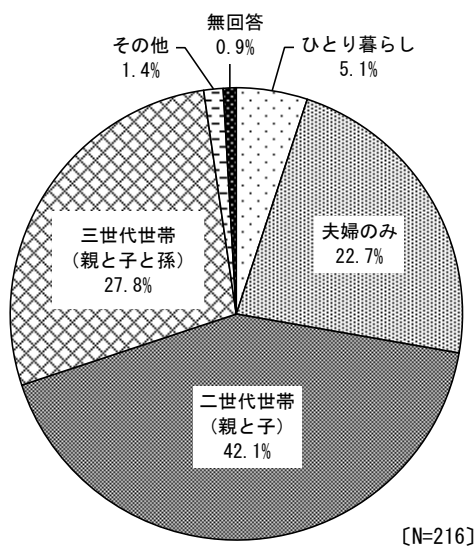
問5 あなたの住居形態はどれにあたりますか。(1つに○)



住居形態は、「持ち家(一戸建て)」が92.6%、「賃貸(集合住宅)」が3.2%、「賃貸(一戸建て)」が1.9%となっています。

## 6) 家族構成

問6 あなたの家族構成はどのようになっていますか。(1つに○)

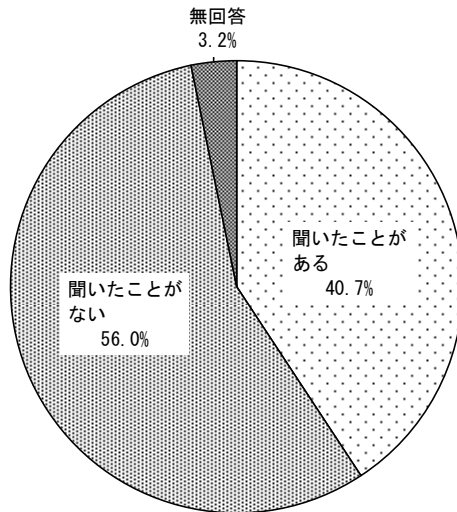


家族構成は、「二世代会帯(親と子)」が42.1%、「三世代会帯(親と子と孫)」が27.8%、「夫婦のみ」が22.7%となっています。

(2) ノーマライゼーション等について

1) 「ノーマライゼーション」または「共生社会」という言葉の周知

問7 あなたは、障がいのある人が社会の構成員として、地域の中で共に生活を送れるようにすることを目指すという「ノーマライゼーション」または「共生社会」という言葉を聞いたことがありますか。(1つに○)

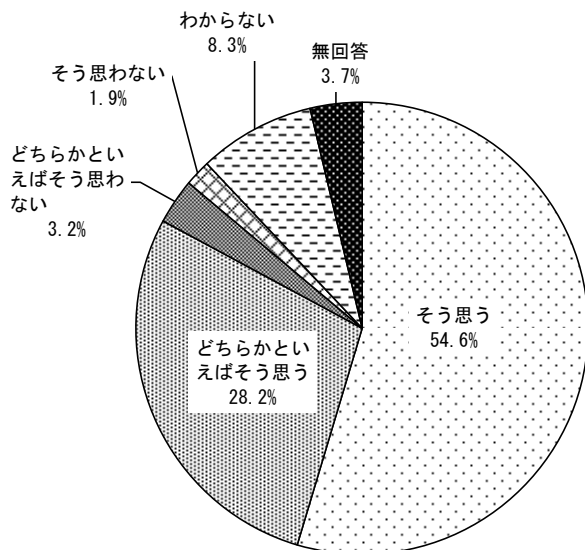


「ノーマライゼーション」または「共生社会」という言葉の周知は、「聞いたことがない」が56.0%、「聞いたことがある」が40.7%となっています。

[N=216]

2) 「障がいのある人が身近で普通に生活しているのが当たり前である」という考え方について

問8 あなたは、「障がいのある人が身近で普通に生活しているのが当たり前である」という考え方についてはどう思いますか。(1つに○)

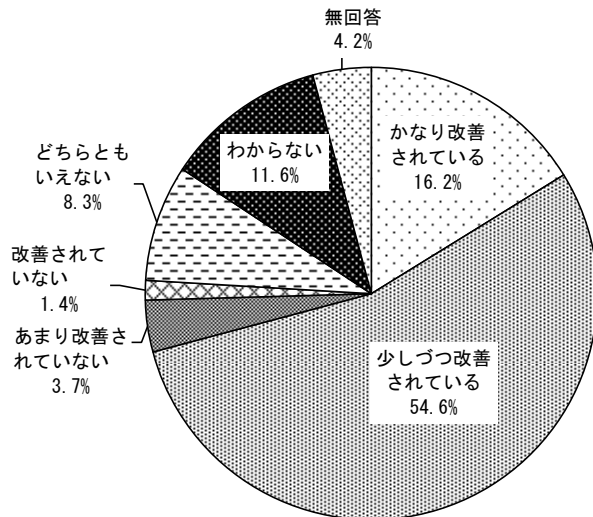


「障がいのある人が身近で普通に生活しているのが当たり前である」という考え方については、「そう思う」が54.6%、「どちらかといえばそう思う」が28.2%、「わからない」が8.3%となっています。

[N=216]

### 3) 障がいのある人に対する差別や偏見の改善

問9 あなたは、以前と比べて障がいのある人に対する差別や偏見は改善されたと思いますか。(1つに○)



[N=216]

障がいのある人に対する差別や偏見が改善されたかは、「少しずつ改善されている」が 54.6%、「かなり改善されている」が 16.2%、「わからない」が 11.6%となっています。

#### ①改善されていないと感じた場面

★問9で「3. あまり改善されていない」、「4. 改善されていない」と回答した方にかがいます。

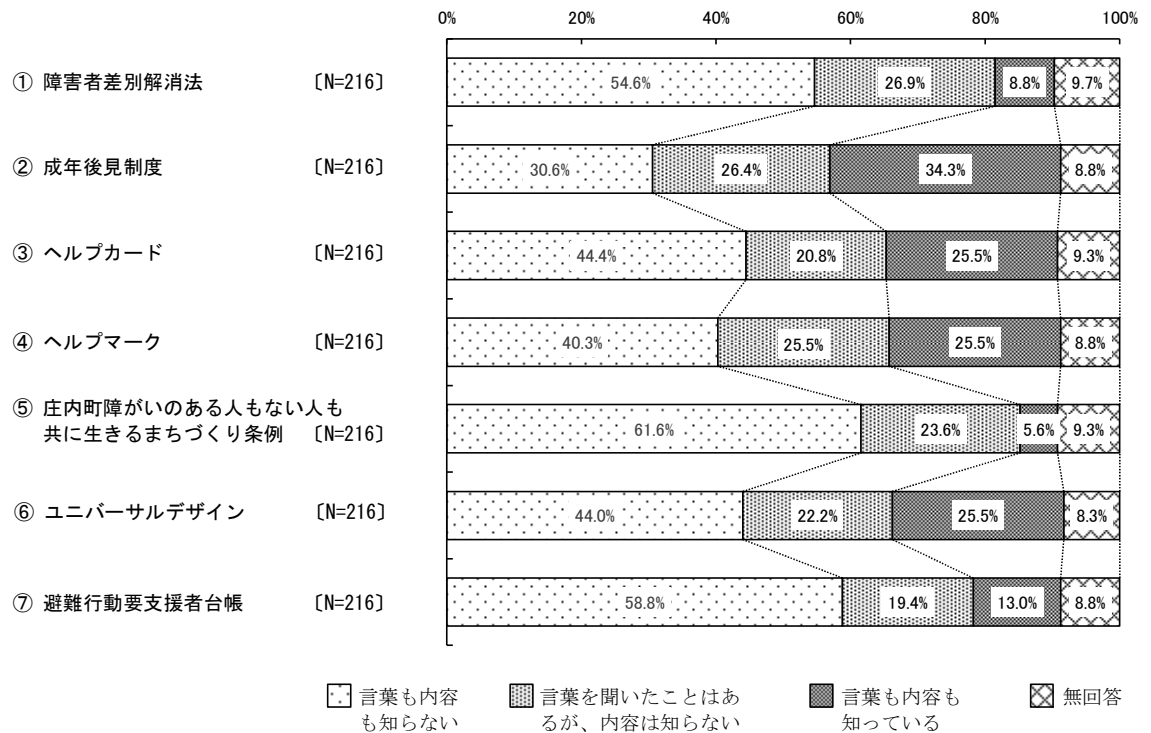
問9-1 改善されていないと感じた場面について具体的にお書きください。

- ・障がい者を雇用しているパン屋の製品を意識的に購入しない者を見た。私自身も進んで購入したいと思わない。そのような潜在的な差別意識は根強くあり、初等教育など早い段階から、障がいのある人とともにいることが当たり前にならなければ、変わらないと思う。
- ・身近に障がい者の環境がなく、特段の実感はない。ただ、パラリンピックなど報道などでは周知されるようになってきていると思う。
- ・近くに障がい者がいないため
- ・身体障がいではバリアフリーになっていないと思うから。学校生活では知的障がいと一緒に学習していない。
- ・もともと差別や偏見はもっていない。常に同等な目線でみているつもりでいる。ただし、接し方などは、良く理解した上で関わっていく必要があると思う。
- ・障がいのある人の施設がないため、酒田市、鶴岡市に行かなければならない。余目町の人は町からでなくてもよい方法をつくってってもらいたい。
- ・自分の中で、以前同様の意識しか持っていないから。
- ・高齢者や子ども達に、障がい者に対しての知識や活動していることすらわからない人が多くいると思うので、どこかで偏見はあると思う。もっと発信してほしい。

### (3) 福祉に対する関心について

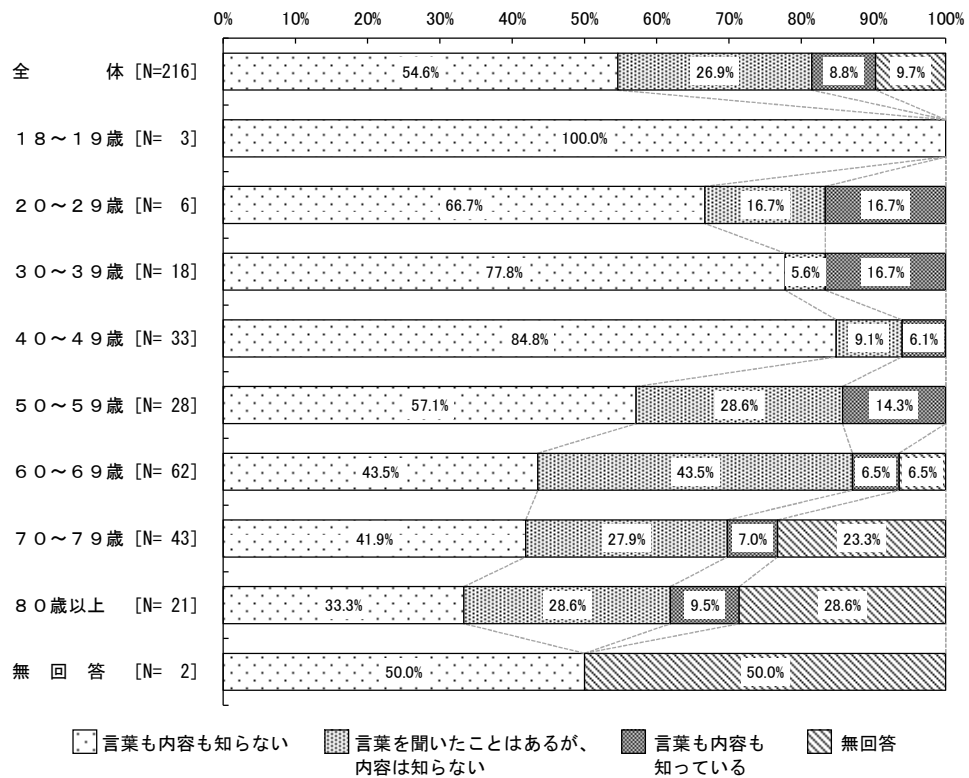
#### 1) 障がい者等に関する法制度や活動の周知

問 10 あなたは、障がい者等に関する、次の法制度や活動をご存じですか。  
 (①から⑦について、それぞれ1つに○)

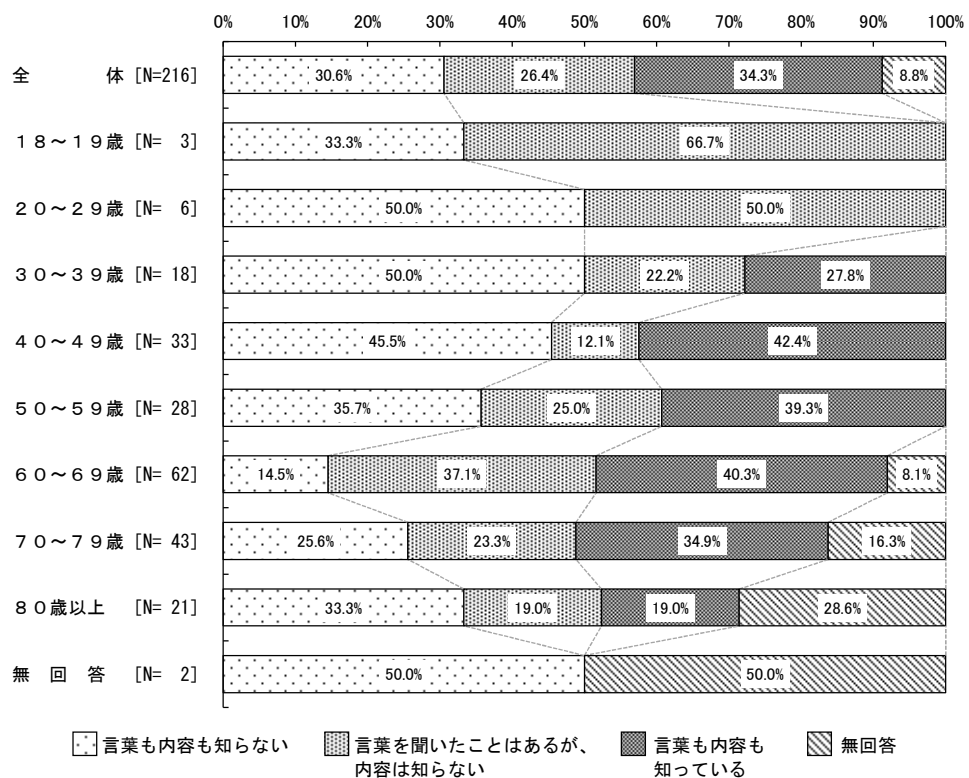


障がい者等に関する法制度や活動を知っているかは、①障害者差別解消法では、「言葉も内容も知らない」が 54.6%、「言葉を聞いたことはあるが、内容は知らない」が 26.9%、「言葉も内容も知っている」が 8.8%となっています。②成年後見制度では、「言葉も内容も知っている」が 34.3%、「言葉も内容も知らない」が 30.6%、「言葉を聞いたことはあるが、内容は知らない」が 26.4%となっています。③ヘルプカードでは、「言葉も内容も知らない」が 44.4%、「言葉も内容も知っている」が 25.5%、「言葉を聞いたことはあるが、内容は知らない」が 20.8%となっています。④ヘルプマークでは、「言葉も内容も知らない」が 40.3%、「言葉を聞いたことはあるが、内容は知らない」、「言葉も内容も知っている」が共に 25.5%となっています。⑤庄内町障がいのある人もない人も共に生きるまちづくり条例では、「言葉も内容も知らない」が 61.6%、「言葉を聞いたことはあるが、内容は知らない」が 23.6%、「言葉も内容も知っている」が 5.6%となっています。⑥ユニバーサルデザインでは、「言葉も内容も知らない」が 44.0%、「言葉も内容も知っている」が 25.5%、「言葉を聞いたことはあるが、内容は知らない」が 22.2%となっています。⑦避難行動要支援者台帳では、「言葉も内容も知らない」が 58.8%、「言葉を聞いたことはあるが、内容は知らない」が 19.4%、「言葉も内容も知っている」が 13.0%となっています。

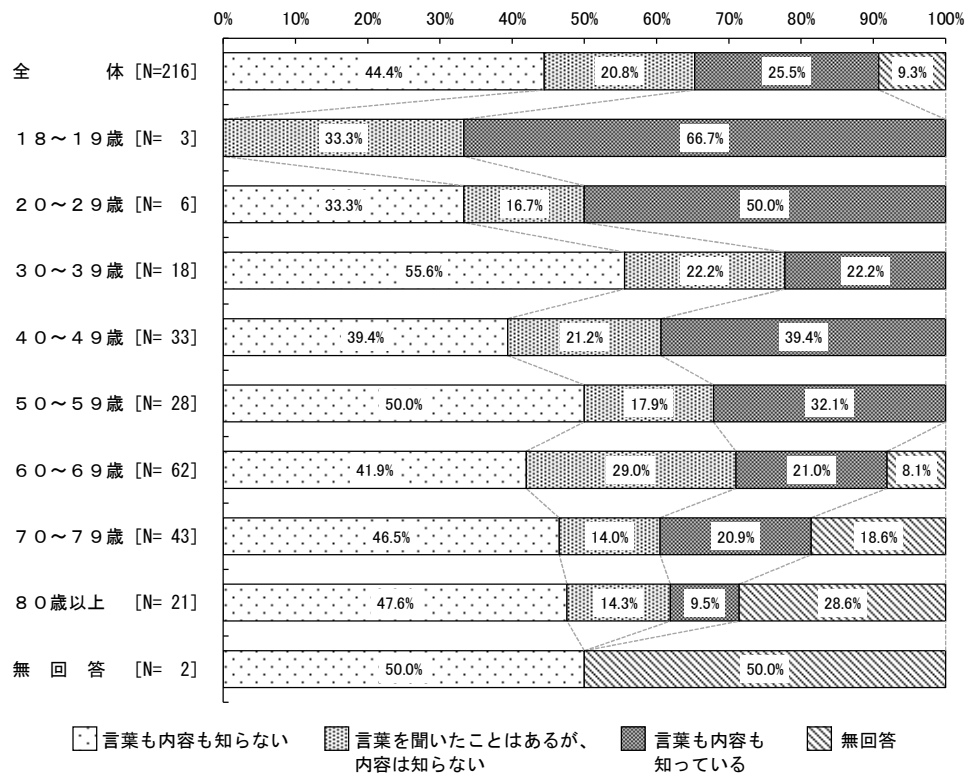
【①障害者差別解消法の周知×年齢別】



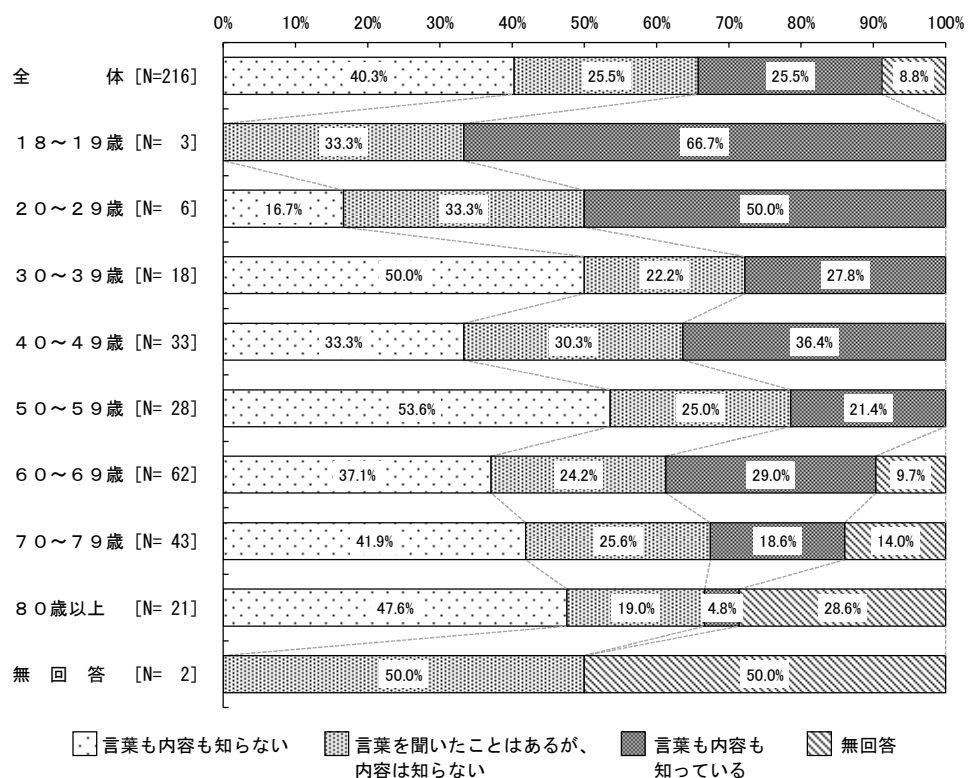
【②成年後見制度の周知×年齢別】



### 【③ヘルプカードの周知×年齢別】

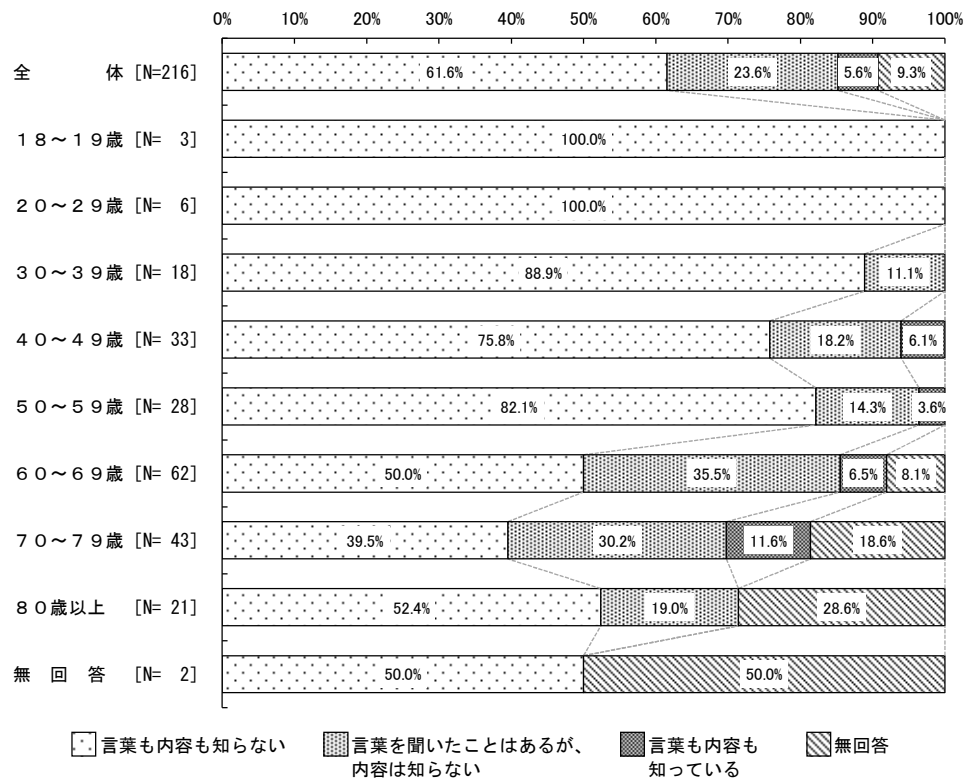


### 【④ヘルプマークの周知×年齢別】

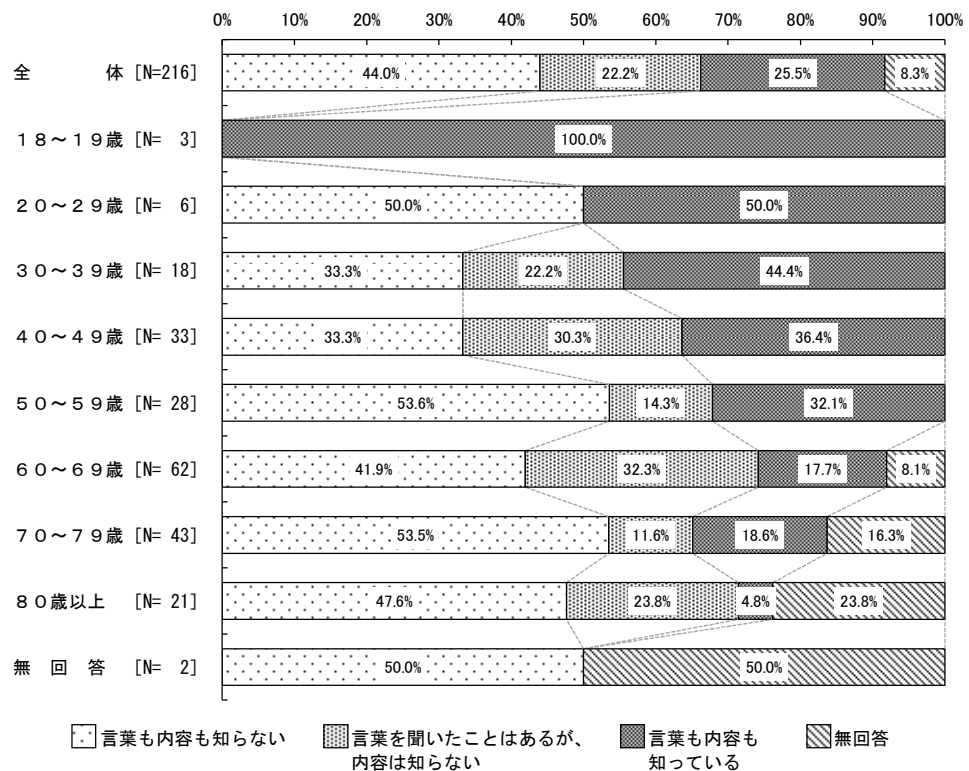




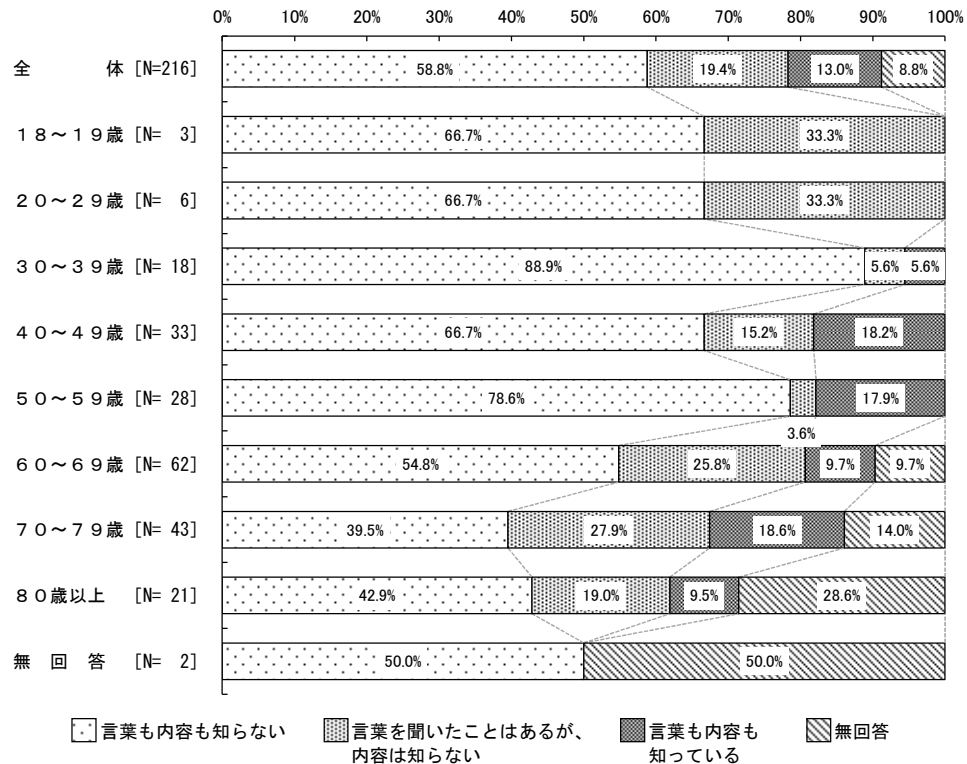
【⑤庄内町障がいのある人もない人も共に生きるまちづくりの周知×年齢別】



【⑥ユニバーサルデザインの周知×年齢別】



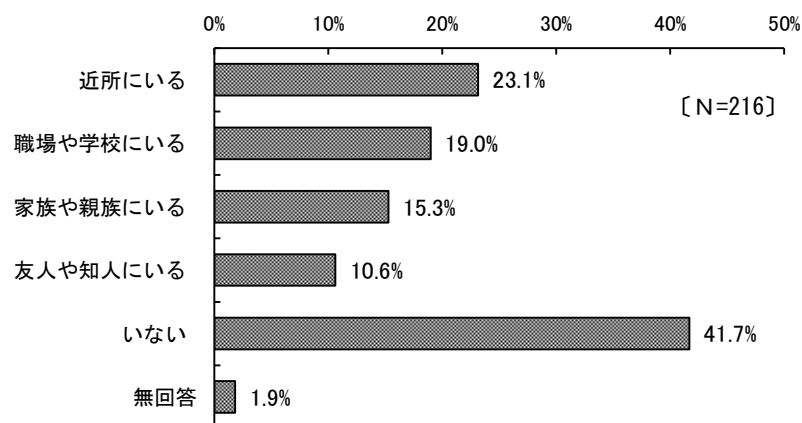
【⑦避難行動要支援者台帳の周知×年齢別】



(4) 障がいのある人とのふれあいについて

1) まわりに障がいのある人がいるか

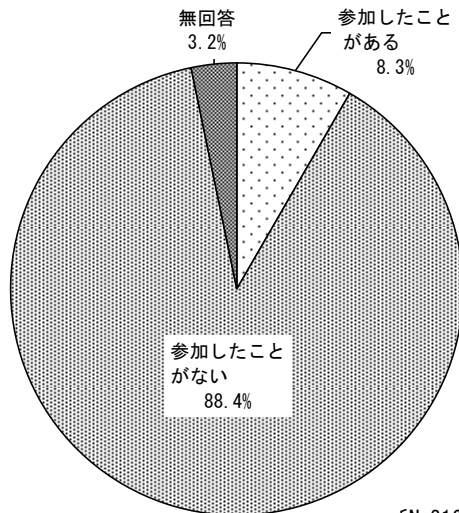
問 11 あなたのまわりに、障がいのある人はいますか。(あてはまるものすべてに○)



まわりに障がいのある人がいるかは、「いない」が41.7%で最も高く、次いで「近所にいる」(23.1%)、「職場や学校にいる」(19.0%)、「家族や親族にいる」(15.3%)、「友人や知人にいる」(10.6%)の順となっています。

## 2) 地域で行われている交流活動や催し、ボランティア活動への参加の有無

問 12 障がいのある人、ない人相互の交流活動や催しやボランティア活動が地域で行われていますが、あなたは、そのような活動に参加したことがありますか。  
(1つに○)

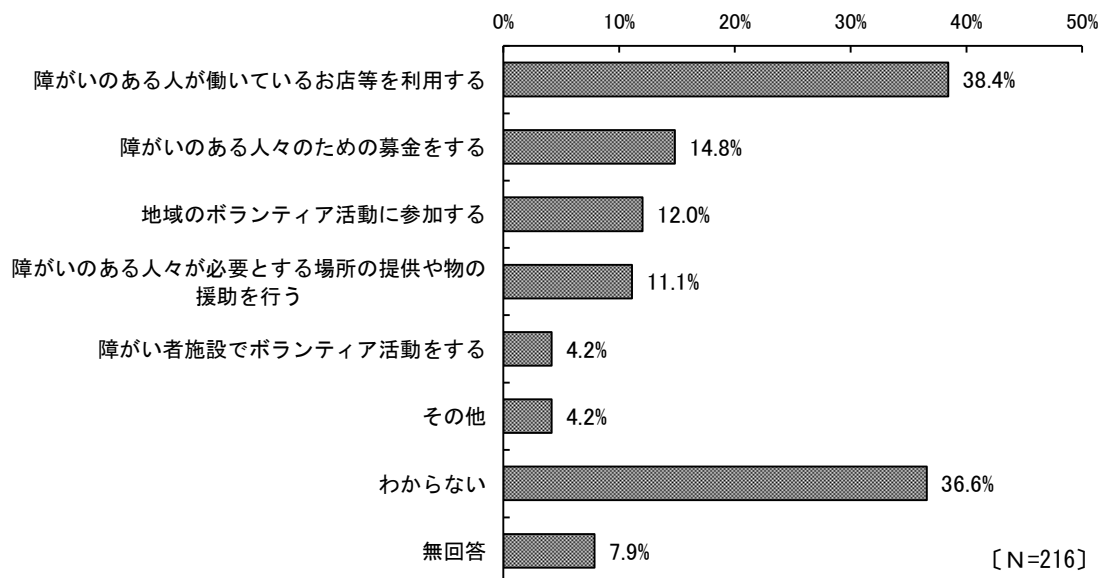


地域で行われている交流活動や催し、ボランティア活動への参加の有無は、「参加したことがない」が88.4%、「参加したことがある」が8.3%となっています。

[N=216]

## 3) 今後参加したい交流活動や催し、ボランティア活動

問 13 あなたは、今後、どのような交流活動や催しやボランティア活動に参加したいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)



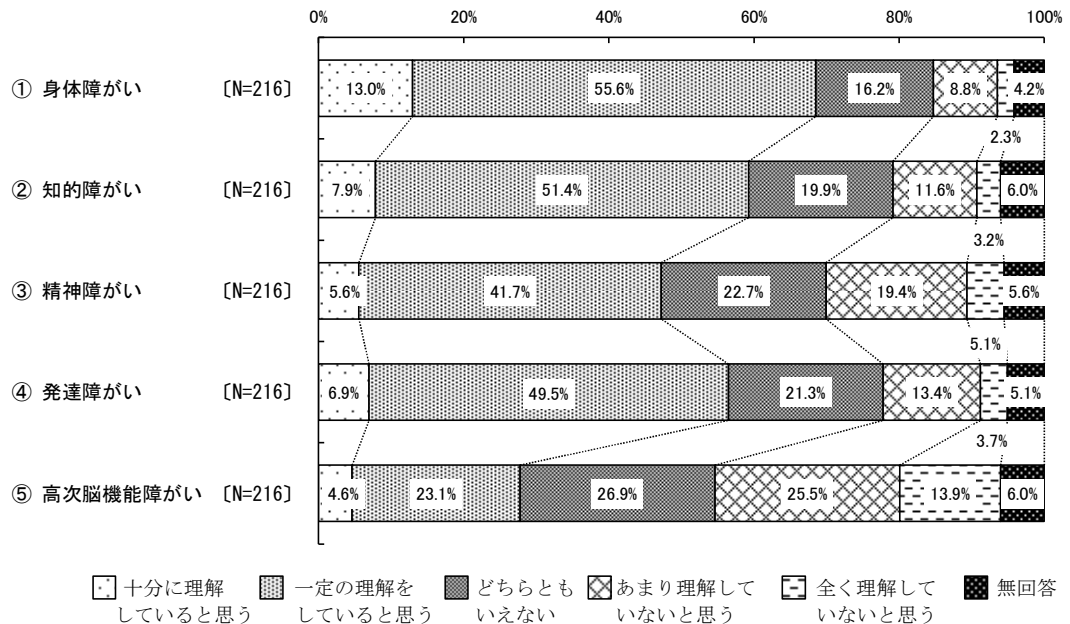
[N=216]

今後参加したい交流活動や催し、ボランティア活動は、「障がいのある人が働いているお店等を利用する」が38.4%で最も高く、次いで「わからない」(36.6%)、「障がいのある人々のための募金をする」(14.8%)、「地域のボランティア活動に参加する」(12.0%)、「障がいのある人々が必要とする場所の提供や物の援助を行う」(11.1%)の順となっています。

#### 4) 障がい者等に対する考え方

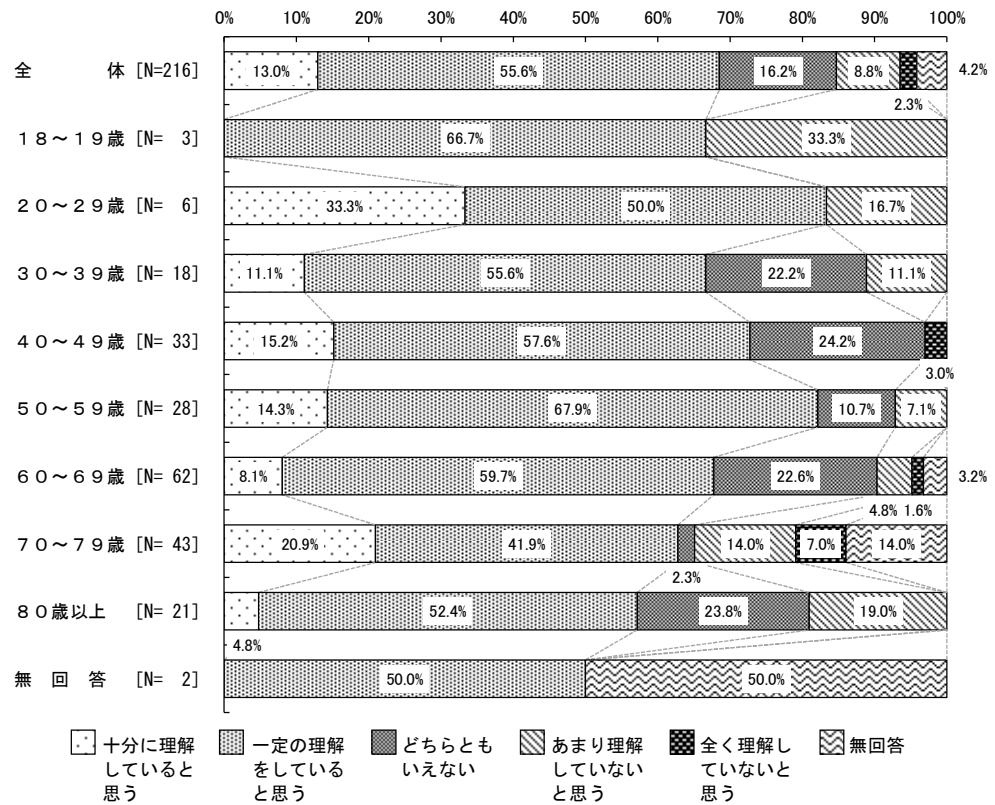
問 14 あなたは、障がい者等に対してどのようにお考えですか。

(①から⑤についてそれぞれ1つに○)

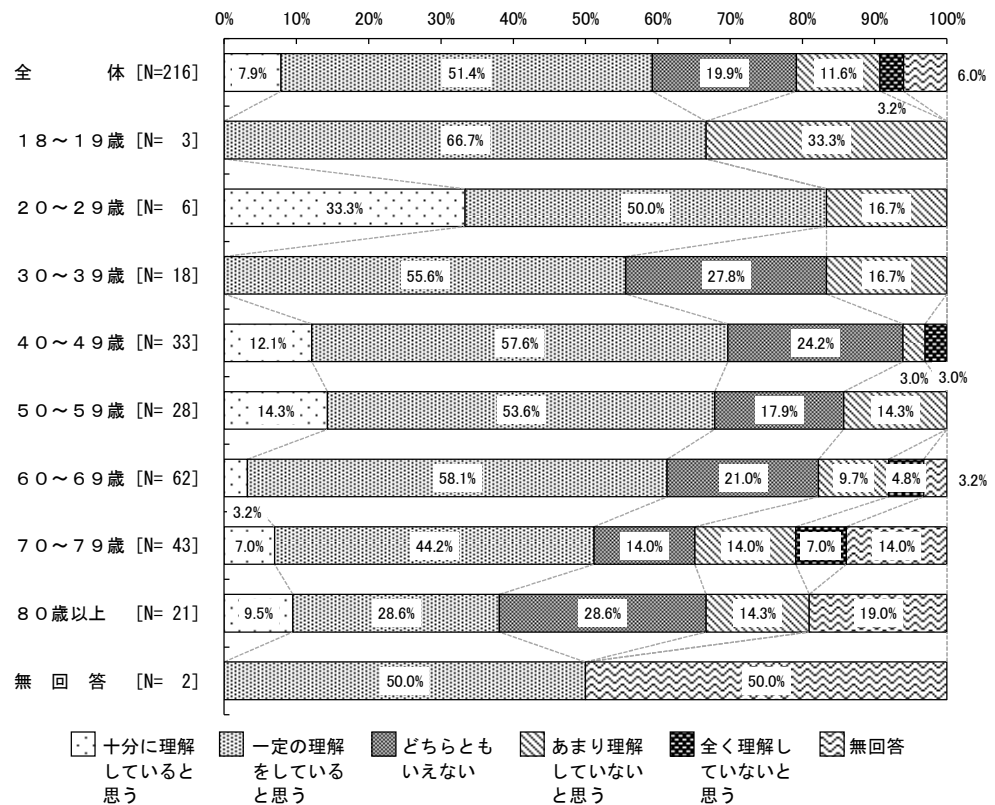


障がい者等に対する考え方は、①身体障がいでは、「十分に理解していると思う」と「一定の理解をしていると思う」を合わせた『理解していると思う』は68.6%となっています。一方、「あまり理解していないと思う」と「全く理解していないと思う」を合わせた『理解していないと思う』は11.1%、「どちらともいえない」は16.2%となっています。②知的障がいでは、「十分に理解していると思う」と「一定の理解をしていると思う」を合わせた『理解していると思う』は59.3%となっています。一方、「あまり理解していないと思う」と「全く理解していないと思う」を合わせた『理解していないと思う』は14.8%、「どちらともいえない」は19.9%となっています。③精神障がいでは、「十分に理解していると思う」と「一定の理解をしていると思う」を合わせた『理解していると思う』は47.3%となっています。一方、「あまり理解していないと思う」と「全く理解していないと思う」を合わせた『理解していないと思う』は24.5%、「どちらともいえない」は22.7%となっています。④発達障がいでは、「十分に理解していると思う」と「一定の理解をしていると思う」を合わせた『理解していると思う』は56.4%となっています。一方、「あまり理解していないと思う」と「全く理解していないと思う」を合わせた『理解していないと思う』は17.1%、「どちらともいえない」は21.3%となっています。⑤高次脳機能障がいでは、「十分に理解していると思う」と「一定の理解をしていると思う」を合わせた『理解していると思う』は27.7%となっています。一方、「あまり理解していないと思う」と「全く理解していないと思う」を合わせた『理解していないと思う』は39.4%、「どちらともいえない」は26.9%となっています。

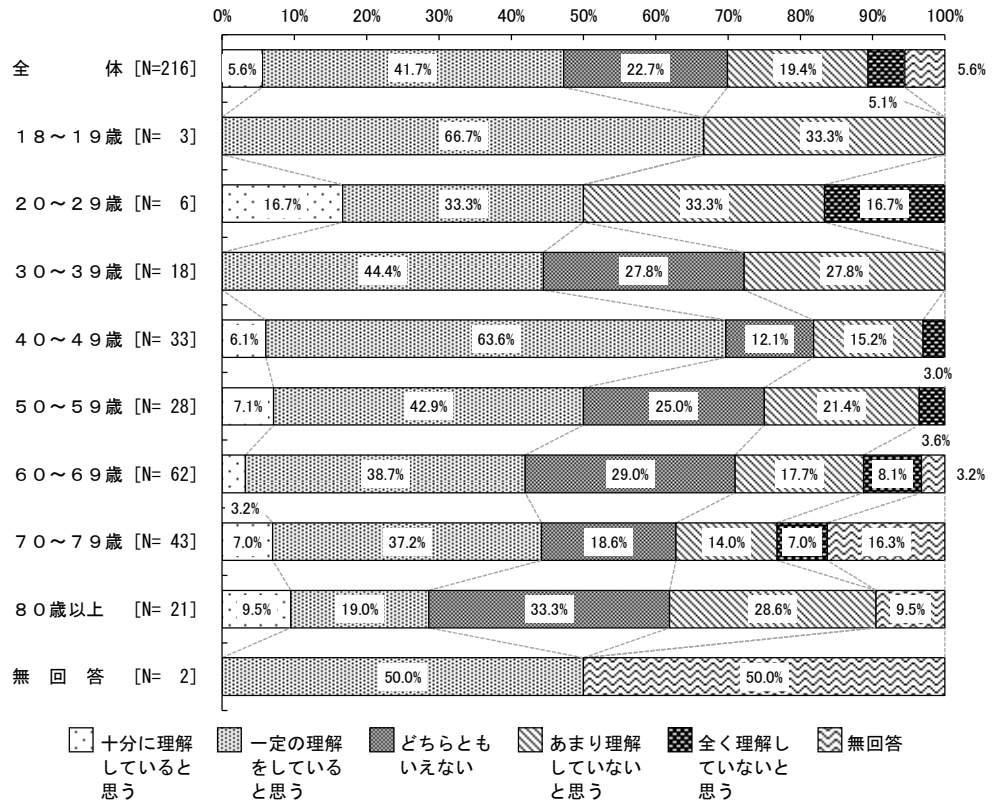
【①身体障がいに対する考え方×年齢別】



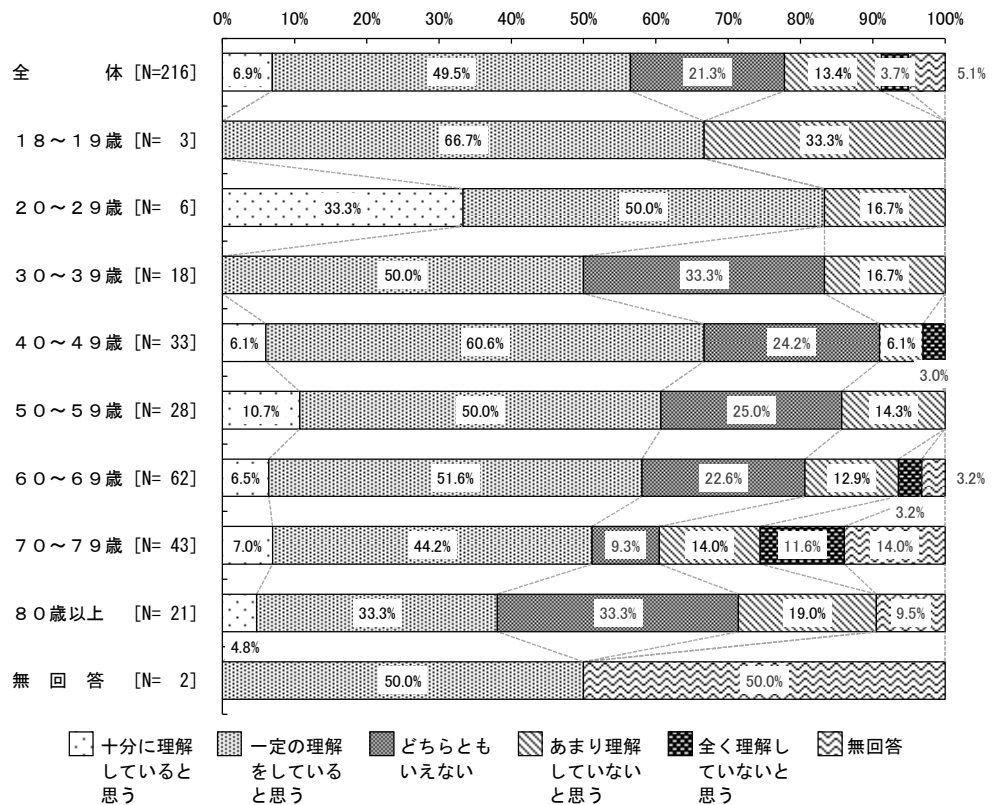
【②知的障がいに対する考え方×年齢別】



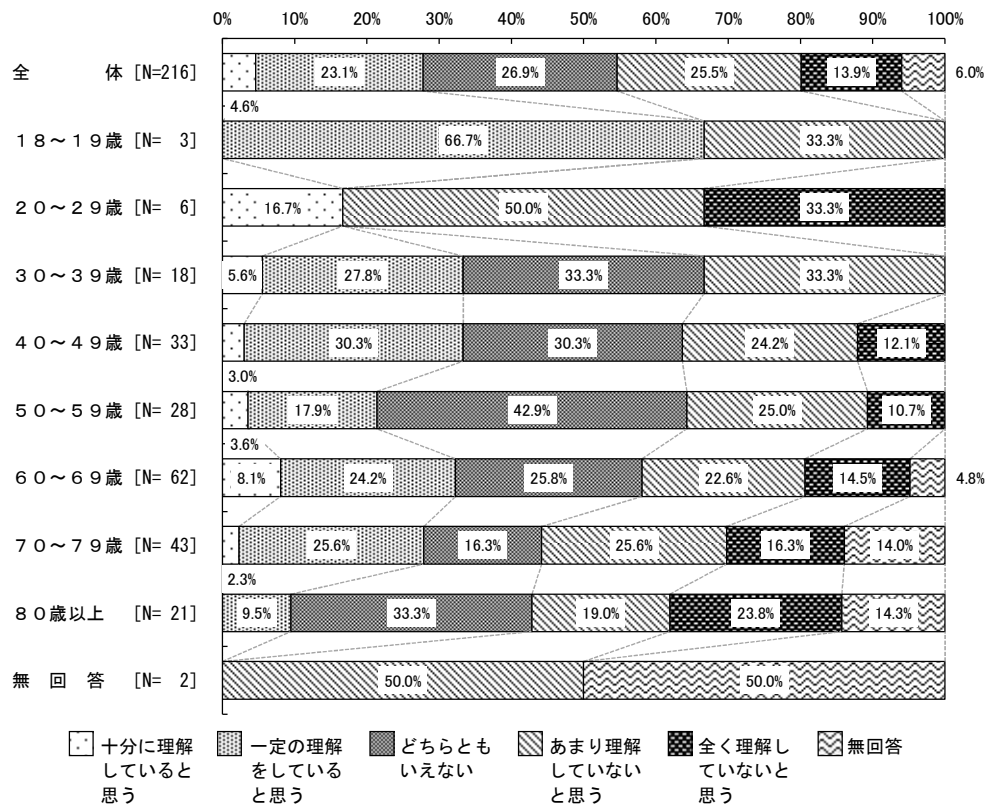
【③精神障がいに対する考え方×年齢別】



【④発達障がいに対する考え方×年齢別】

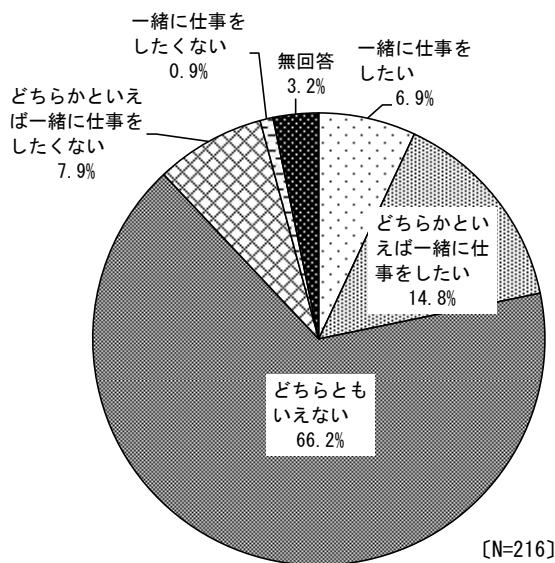


【⑤高次脳機能障がいに対する考え方×年齢別】



5) 障がいのある人と一緒に仕事をする

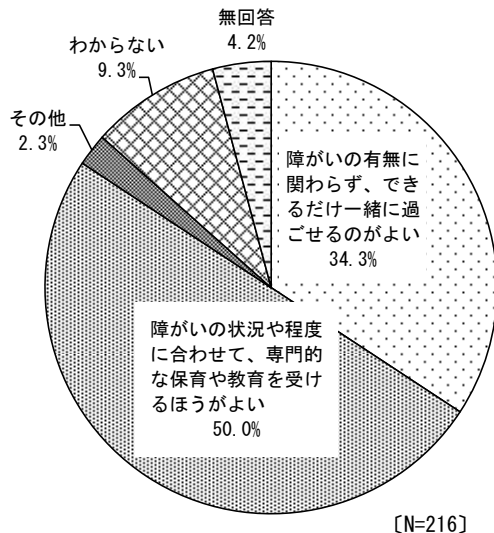
問 15 あなたは、障がいのある人と一緒に仕事をするについてどう思いますか。  
(1つに○)



障がいのある人と一緒に仕事をする事は、「どちらともいえない」が66.2%、「どちらかといえば一緒に仕事をしたい」が14.8%、「どちらかといえば一緒に仕事をしたくない」が7.9%となっています。

6) 障がいの有無に関わらず、子どもたちが学んだり、保育を受けることについて

問 16 障がいの有無に関わらず、子どもたちが一緒に学んだり、保育を受けることについて、あなたの考えに一番近いものはどれですか。(1つに○)

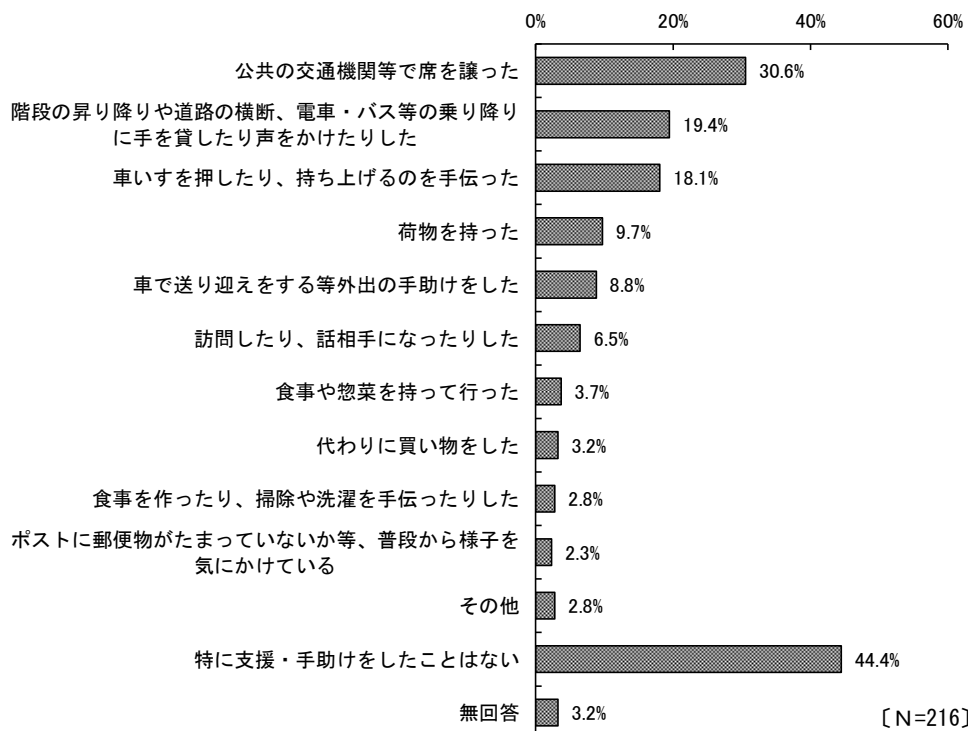


障がいの有無に関わらず、子どもたちが学んだり、保育を受けることについては、「障がいの状況や程度に合わせて、専門的な保育や教育を受けるほうがよい」が50.0%、「障がいの有無に関わらず、できるだけ一緒に過ごせるのがよい」が34.3%、「わからない」が9.3%となっています。

(5) 障がいのある人への日常的な支援・手助けについて

1) 支援・手助けの有無

問 17 あなたは、個人として障がいのある方に次のような支援・手助けをしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)



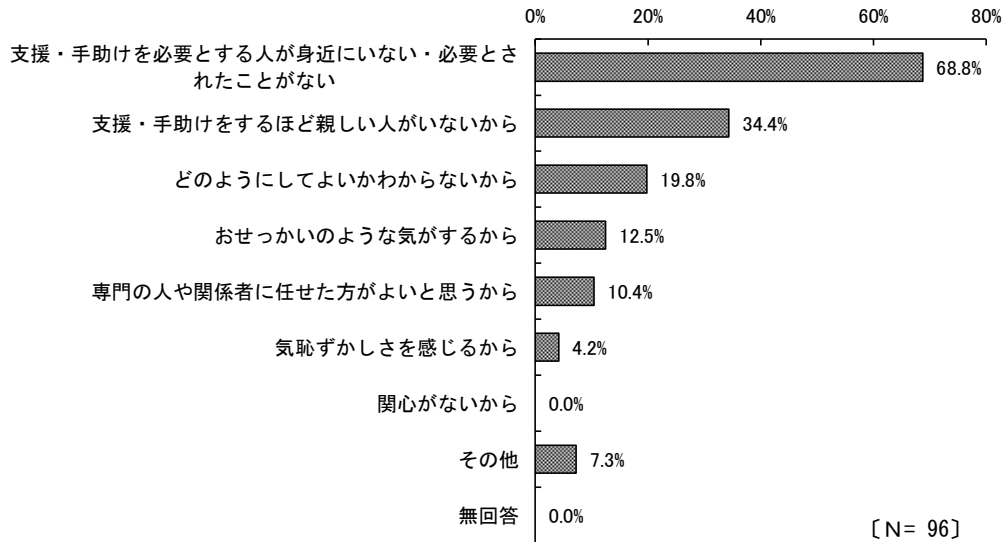
支援・手助けの有無は、「特に支援・手助けをしたことはない」が44.4%で最も高く、次いで「公共の交通機関等で席を譲った」(30.6%)、「階段の昇り降りや道路の横断、電車・バス等の乗り降りに手を貸したり声をかけたりした」(19.4%)、「車いすを押したり、持ち上げるのを手伝った」(18.1%)の順となっています。



### ①支援や手助けしたことがない理由

★問 17 で「12. 特に支援・手助けをしたことはない」と回答した方にうかがいます。

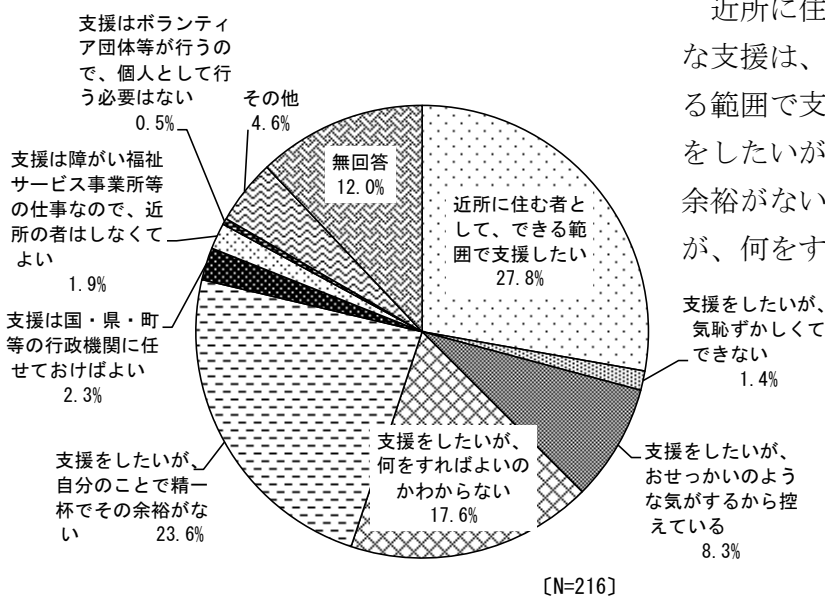
問 17-1 支援や手助けしたことがない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)



支援や手助けしたことがない理由は、「支援・手助けを必要とする人が身近にいない・必要とされたことがない」が68.8%で最も高く、次いで「支援・手助けをするほど親しい人がいないから」(34.4%)、「どのようにしてよいかわからないから」(19.8%)、「おせっかいのような気がするから」(12.5%)の順となっています。

### 3) 近所に住む障がいのある方への日常的な支援

問 18 近所に住む障がいのある方への日常的な支援について、あなたの考えに一番近いものはどれですか。(1つに○)

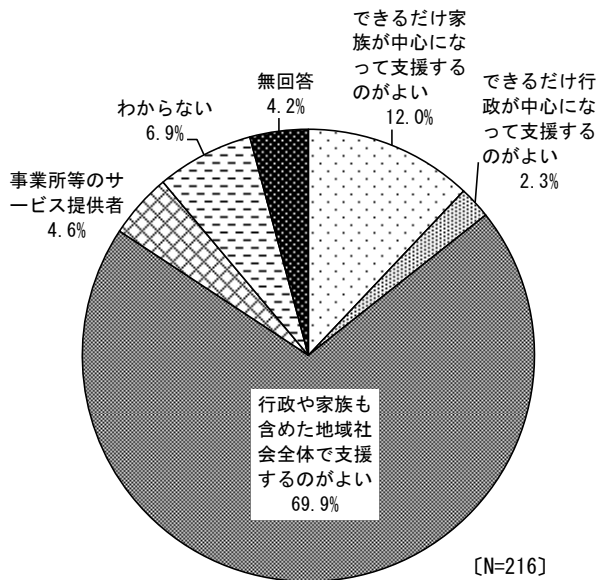


近所に住む障がいのある方への日常的な支援は、「近所に住む者として、できる範囲で支援したい」が27.8%、「支援をしたいが、自分のことで精一杯でその余裕がない」が23.6%、「支援をしたいが、何をすればよいかわからない」が17.6%となっています。

(6) 障がい者施策について

1) 障がいのある人の身の回りの支援を担う人

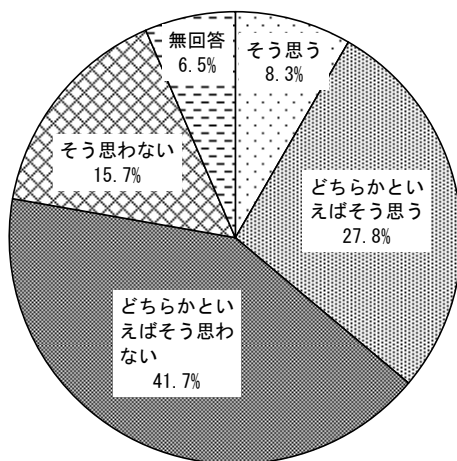
問 19 あなたは、障がいのある人の身の回りの支援は、主として誰が担うのがよいと思いますか。(1つに○)



障がいのある人の身の回りの支援を担う人は、「行政や家族も含めた地域社会全体で支援するのがよい」が69.9%、「できるだけ家族が中心になって支援するのがよい」が12.0%、「わからない」が6.9%となっています。

2) 「誰もが共に支えあい、自立して自分らしく、安心して暮らせるまちづくり」の基本理念の浸透の有無

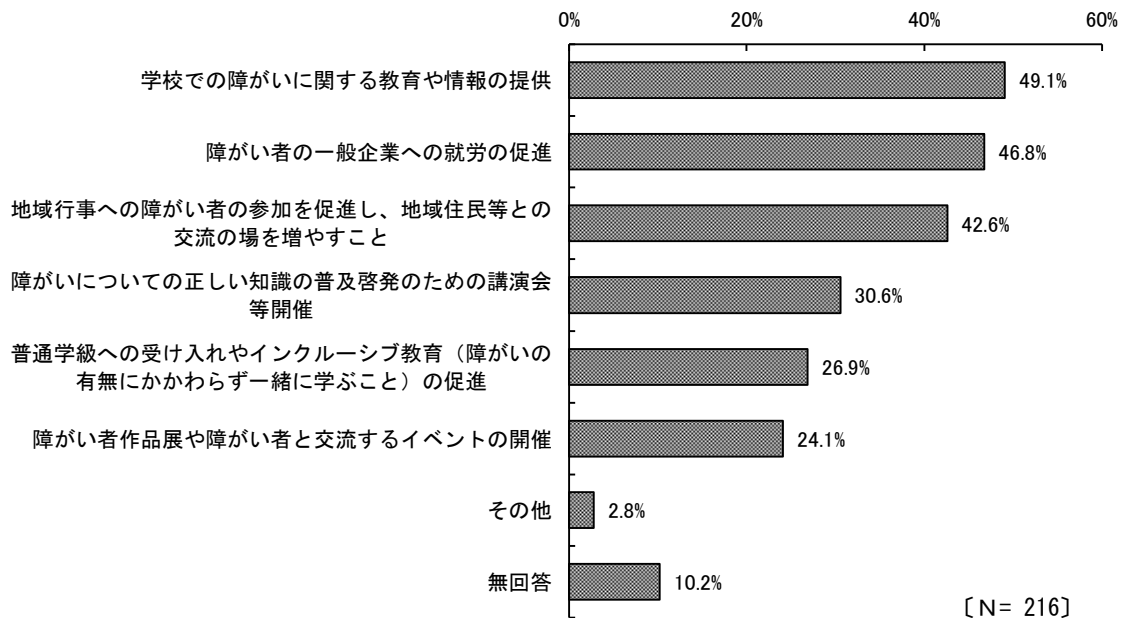
問 20 町では、現行の障がい者計画で「誰もが共に支えあい、自立して自分らしく、安心して暮らせるまちづくり」の実現をめざしています。あなたは、この計画の基本理念（基本的な考え方）が町民に浸透していると思いますか。(1つに○)



「誰もが共に支えあい、自立して自分らしく、安心して暮らせるまちづくり」の基本理念の浸透の有無は、「どちらかといえばそう思わない」が41.7%、「どちらかといえばそう思う」が27.8%、「そう思わない」が15.7%となっています。

### 3) 共生社会をめざすために町が力を入れるべきこと

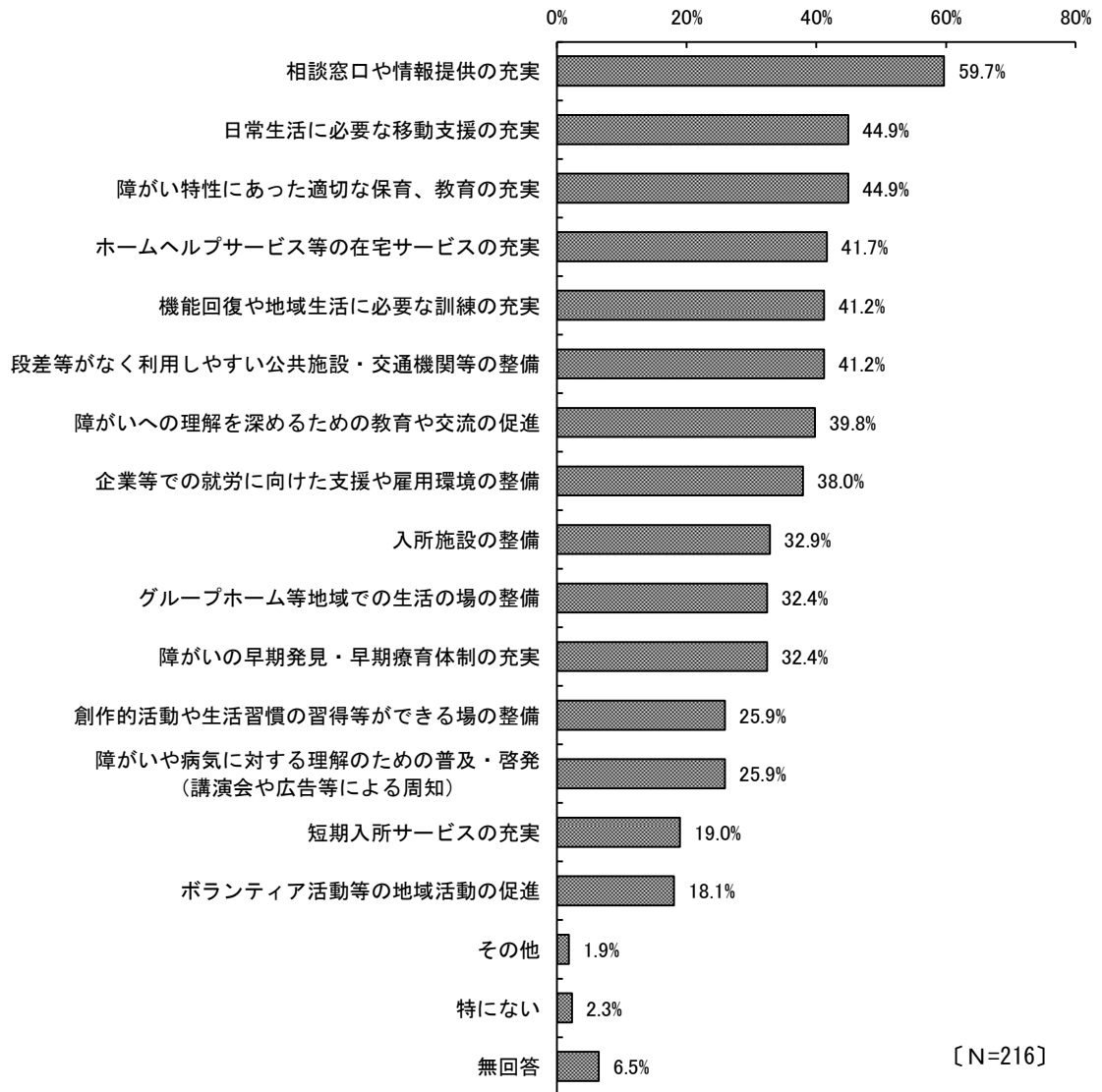
問 21 障がいのある人もない人も共に地域で生活できるような共生社会をめざすために町が力を入れるべきことは何だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)



共生社会をめざすために町が力を入れるべきことは、「学校での障がいに関する教育や情報の提供」が 49.1%で最も高く、次いで「障がい者の一般企業への就労の促進」（46.8%）、「地域行事への障がい者の参加を促進し、地域住民等との交流の場を増やすこと」（42.6%）、「障がいについての正しい知識の普及啓発のための講演会等開催」（30.6%）の順となっています。

#### 4) 障がいのある人が地域で自立して生活を送るために重要な取り組み

問 22 障がいのある人が地域で自立して生活を送るために、重要と思う取り組みは何ですか。(あてはまるものすべてに○)



障がいのある人が地域で自立して生活を送るために重要な取り組みは、「相談窓口や情報提供の充実」が 59.7% で最も高く、次いで「日常生活に必要な移動支援の充実」、「障がい特性にあった適切な保育、教育の充実」（共に 44.9%）、「ホームヘルプサービス等の在宅サービスの充実」（41.7%）の順となっています。

【障がいのある人が地域で自立して生活を送るために重要な取り組み×年齢別】

	調査数	1 相談窓口 や情報提 供の充実	2 機能回復 や地域生 活に必要な訓練の 充実	3 創作的活動や生活 習慣の習得等ができる場の 整備	4 ホームヘルプサー ビス等の 在宅サー ビスの充 実	5 日常生活 に必要な 移動支援 の充実	6 グループ ホーム等 地域での 生活の場 の整備	7 短期入所 サービスの 充実	8 入所施設 の整備	9 障がいの 早期発見 ・早期療 育体制の 充実
全 体	216	59.7%	41.2%	25.9%	41.7%	44.9%	32.4%	19.0%	32.9%	32.4%
18～19歳	3	66.7%	33.3%	33.3%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20～29歳	6	66.7%	33.3%	33.3%	33.3%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%
30～39歳	18	55.6%	50.0%	27.8%	50.0%	44.4%	27.8%	11.1%	33.3%	27.8%
40～49歳	33	57.6%	30.3%	24.2%	36.4%	51.5%	33.3%	21.2%	30.3%	39.4%
50～59歳	28	57.1%	42.9%	25.0%	35.7%	53.6%	28.6%	17.9%	28.6%	28.6%
60～69歳	62	67.7%	45.2%	29.0%	48.4%	43.5%	32.3%	24.2%	29.0%	33.9%
70～79歳	43	51.2%	37.2%	23.3%	32.6%	34.9%	41.9%	16.3%	44.2%	23.3%
80歳以上	21	66.7%	52.4%	23.8%	57.1%	47.6%	33.3%	23.8%	42.9%	52.4%
無 回 答	2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%

上段：件数 下段：構成比

	10 障がい特 性にあっ た適切な 保育、教 育の充実	11 企業等 での就労 に向けた 支援や雇 用環境の 整備	12 ボラン ティア活 動等の地 域活動の 促進	13 段差等が なく利用 しやすい 公共施設 ・交通機 関等の整 備	14 障がいへ の理解を 深めるた めの教育 や交流の 促進	15 障がいや 病気に対 する理解 のための 普及・啓 発（講演 会や広告 等による 周知）	16 その他	17 特にな い	無回答
全 体	44.9%	38.0%	18.1%	41.2%	39.8%	25.9%	1.9%	2.3%	6.5%
18～19歳	33.3%	33.3%	0.0%	100.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
20～29歳	33.3%	16.7%	0.0%	33.3%	50.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
30～39歳	44.4%	33.3%	16.7%	44.4%	38.9%	16.7%	0.0%	5.6%	11.1%
40～49歳	60.6%	51.5%	18.2%	57.6%	42.4%	18.2%	3.0%	0.0%	3.0%
50～59歳	42.9%	46.4%	25.0%	39.3%	42.9%	35.7%	3.6%	3.6%	3.6%
60～69歳	48.4%	37.1%	19.4%	38.7%	43.5%	27.4%	1.6%	1.6%	6.5%
70～79歳	32.6%	32.6%	11.6%	25.6%	30.2%	20.9%	0.0%	4.7%	7.0%
80歳以上	47.6%	28.6%	23.8%	52.4%	33.3%	38.1%	4.8%	0.0%	9.5%
無 回 答	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%

## (7) 意見・要望について

- ・私は障がいを持っていないし、これまでも障がいのある方と身近に生活した経験がない。そのため、このような計画に対して意見を求められても「わからない」というのが正直なところである。障がいのある方が社会の中で暮らしやすくすることを目的とする計画なのであれば、障がいを持った方が何を望んでいるのか聞き取って、それに対して、それ以外の人間で何ができるか考えるべきではないか。[男性・30～39歳・余目第二学区]
- ・公共施設、公共交通機関の施設にエレベーターや車いすに便利な道を作って、段差のない公園を町の中心に作ってほしい。[男性・30～39歳・余目第二学区]
- ・障がい者でも何であっても、できることを自分でやるべき。足りないときは助ける。[男性・30～39歳・狩川地区]
- ・DX推進が、人間の仕事を奪ってしまう。自立していくためには仕事をして収入を得る必要があるため、障がい者の就労は重要。DX推進しながらも、必要なアナログな仕事を工夫して障がい者に与える仕組みづくりを。[男性・40～49歳・余目第一学区]
- ・アンケートをするのは良いが、町の方針をどうするのかは現行の計画を基に策定すべきと考える。現行の計画から全て変えるべきなのか、残すところは残すのか、そういった建設的なアンケートが良いと思う。このアンケートをもとに、どのような計画を考えているのか全く見えない。[男性・40～49歳・余目第一学区]
- ・障がい者本人がいかに自立した生活が送れるかがカギなので、家族の支えが必要不可欠だと思う。家族がどんな事に不安、困っているかが分からないと、行政も動くのが難しいと思う。家族の方の支援を充実してほしい。(相談窓口、金銭的支援、電話、アンケートなど)  
[男性・40～49歳・余目第四学区]
- ・障がい者と言っても、いろいろな障がいを持っている人がいると思うので、その人に合った支援や情報の提供が必要だと思う。まずは学区単位で交流の場などもってはどうか。[男性・40～49歳・余目第四学区]
- ・子どもがたくさん遊べる大きなパーク（庄内一大きい）がほしい。パーク内で軽食できればもっという。[男性・40～49歳・狩川地区]
- ・障がいの種類や程度にもよるので答えに迷う [男性・50～59歳・余目第三学区]
- ・庄内町の活動について、全く認識していなかった。町民に対しての情報発信が不足しているように感じる。国からの助成金の申請についても、他市町村より遅れているように思う。  
[男性・50～59歳・余目第三学区]
- ・何をすべきかは、障がいがある人に聞き取りを行った方がよい。私の親も障がいを持っていたが、外出したいとは言わなかった。あきらめがあったのかもしれないが、行事などに参加しなかったのかはわからない。障がいに対して理解、普及啓発は必要と思う。[男性・50～59歳・余目第四学区]
- ・障がいに関する情報の共有が不足していると考え。行政、地域が密になり進めていく必要があると考え。[男性・50～59歳・狩川地区]
- ・自分が無知だからか、町のアピール度が不足しているのかわからないが、いろいろな障がいを持っている人がいると思うが、障がいを分類分けして、町の人口の何パーセント位が、

どのような障がいを持っているのか等を発信することで、理解度を深めたりもできるのかとも思った。自分も障がいを持つかもしれないので、他人事ではなく考えていく必要を感じた。[男性・50～59歳・清川地区]

- ・障がいのある人も、老人も、健常者も普通にあたりまえの生活を送れる庄内町であってほしい。[男性・60～69歳・余目第一学区]
- ・難しく答えるのに大変だった。私の知識では、あまり良く理解できなかった。[男性・60～69歳・余目第三学区]
- ・これまでニュース等から断片的な知識で、障がい者福祉に関して少しは理解しているつもりだったが、問22の障がいのある人が地域で自立して生活を送るために重要と思う取り組みを目の前にして、何の理解も改善策も持ち合わせていなかったことを思い知らされた。施設も予算も限度がある中で、優先順位や施策内容について答えられなかった。[男性・70～79歳・余目第三学区]
- ・差別のない社会に取り組むこと [男性・80歳以上・余目第二学区]
- ・日常的に適当な運動を町全体で推進すべきである。70歳代の男女の歩行が怪しくなり、障がい者に進ずる体力、歩行力になっている例が多い。[男性・80歳以上・清川地区]
- ・障がいのある方でも電車やバスを利用しやすいよう、特に余目駅のユニバーサルデザインの導入を進めた方が良いと思う。[女性・20～29歳・余目第三学区]
- ・障がい者の方の給料アップ。[女性・30～39歳・余目第一学区]
- ・問14障がい者に対するの考えについて、どのようにお考えだろうか。何を理解していると、十分に理解しているのだろうか。身体でも先天性なのかとか、事故とか、医者でもないのに十分理解していると思えるのだろうか。言葉の意味だけなのか、何について理解しているのかわからない。[女性・40～49歳・余目第一学区]
- ・アンケートに関係ないが、町を走っているバスが、シルバーカーを持って乗り、買い物に行き荷物が入ったシルバーカーを乗せられないというのは、やさしい街にはならない。不自由な人にはぜんぜん有り難くない。生きていくためには、買い物しないと、それを重くて帰りタクシーは金銭的にも大変。利用者増えない。[女性・40～49歳・余目第二学区]
- ・仕事をしているので、障がいのある方にはほとんど会うことがないのが現状だ。子育てしていた時には、小学校に特別支援学級があり、子ども達は日々いろいろな障がいの子ども達と関わりがあり、寄り添うこと、対処の仕方を自然、必然と学んでいて良かったと思っている。いろいろな人がいることを直に学べたことは、偏見をなくする意味でも、小さい時に自然に経験できてよかったと思っている。[女性・50～59歳・余目第二学区]
- ・障がいと言っても、体だけでなく知的、発達障がいなどいろいろあり、程度も様々で、これが正しいとかはないが、特にお年寄りの方に、心、発達障がい、偏見が強くみられる。心無い言葉で傷つくし、もっと理解することが大切だと思う。障がいの特性に合った就労ができ、生活することが大事。町にはコーディネートする力を求める。[女性・50～59歳・余目第三学区]
- ・いろいろな障がいの種類があるのに、障がいの一言でアンケートをとられても返答に戸惑う。例えば、身体障がいと精神障がいはまったく違う。[女性・60～69歳・余目第二学区]

- ・町の中心に緑や、障がい者が車イスなど使えるよう、広い公園を作ってほしい。車は便利だが、町の中心にベンチなど立ち止まって生活が出来ない。店の作り方も考えてほしい。  
[女性・60～69歳・余目第二学区]
- ・障がいと言ってもいろいろな障がいがあるし、関わってほしくないと思う人もいるだろうし、難しいところであり、手伝ってほしい時は意思表示してくれたらいいし、見て見ぬふりでなく自然体でいいのかなと思う。[女性・60～69歳・余目第二学区]
- ・障がい者にとって住みやすい町になるように希望する。[女性・60～69歳・余目第四学区]
- ・とても難しいアンケートだと思った。失礼な言い方だが、福祉等の環境は昔より良くなっているのではと思った。自分の学生時代を考えると、県外の知り合いであまり口をだしてほしくないという考えの方がいて、ただ母親は先のことを不安がっていた。皆が同じでなく一つひとつ家庭で考え方が違うので、障がいという言葉が特別扱いされない時代がくるといいと思った。[女性・60～69歳・狩川地区]
- ・障がい者の活動内容やボランティアなど、庄内町のみんなにわかるよう発信してほしい。障がい者の方々に対して何か助けられることがあったら活動したいと思った。[女性・60～69歳・狩川地区]
- ・障がい者の方の生活は、国や行政が一生懸命支えてくれている。私共の生活より安定していると思う。私達は仕事もなく国民年金。爪に火を灯すような生活をしている。生活保護をうけている方もどこが大変なのかわからない。借金だらけの庄内町、人口が少なくなってきたのに、建物にお金をかけ、必要でない連絡事項の紙をコピーし、無駄な物に財源が使われているのかと思うと協力できないことが多々ある。紙一枚もお金だ。もっとよく見直ししていただきたい。[女性・70～79歳・余目第一学区]
- ・障がい者ご夫婦が前に住んでいる。私は手話もできないし筆談が主だ。町内のこと等、文章で分かり易く回覧できるように是非配慮願いたい。[女性・70～79歳・余目第三学区]
- ・高齢者には1頁目しか関心がなかった。身体障がい者と精神障がい者を別々に考えるべきだと思う。[女性・70～79歳・余目第四学区]
- ・障がいのある人が近所にいないので分からない。近所にいれば少しでも力になりたいと思う。[女性・70～79歳・余目第四学区]
- ・私は長年介護に従事してきた。お年寄りだけではなく、人間として誰でも足りない部分は補ってもらえる。今世は、それが当たり前の時代だ。補う仕事は、それなりの勉強もするのは当たり前だ。私も歳を取って73歳になるが、未だ誰かの役に立ちたい気持ちがある。  
[女性・70～79歳・狩川地区]